

大学概要 2023

公立大学法人



名桜大学
MEIO UNIVERSITY



平和・自由・進歩

名桜大学は、平和を愛し、自由を尊重し、人類の進歩と福祉に貢献する国際的教養人と専門家の育成を建学の精神とする。

名桜大学は、1994年、沖縄県並びに名護市を中心とする北部12市町村によって設立された沖縄県唯一の公設民営の私立大学であったが、2010年「平和・自由・進歩」の建学の精神はそのまま継承され、公立大学に生まれ変わることとなった。

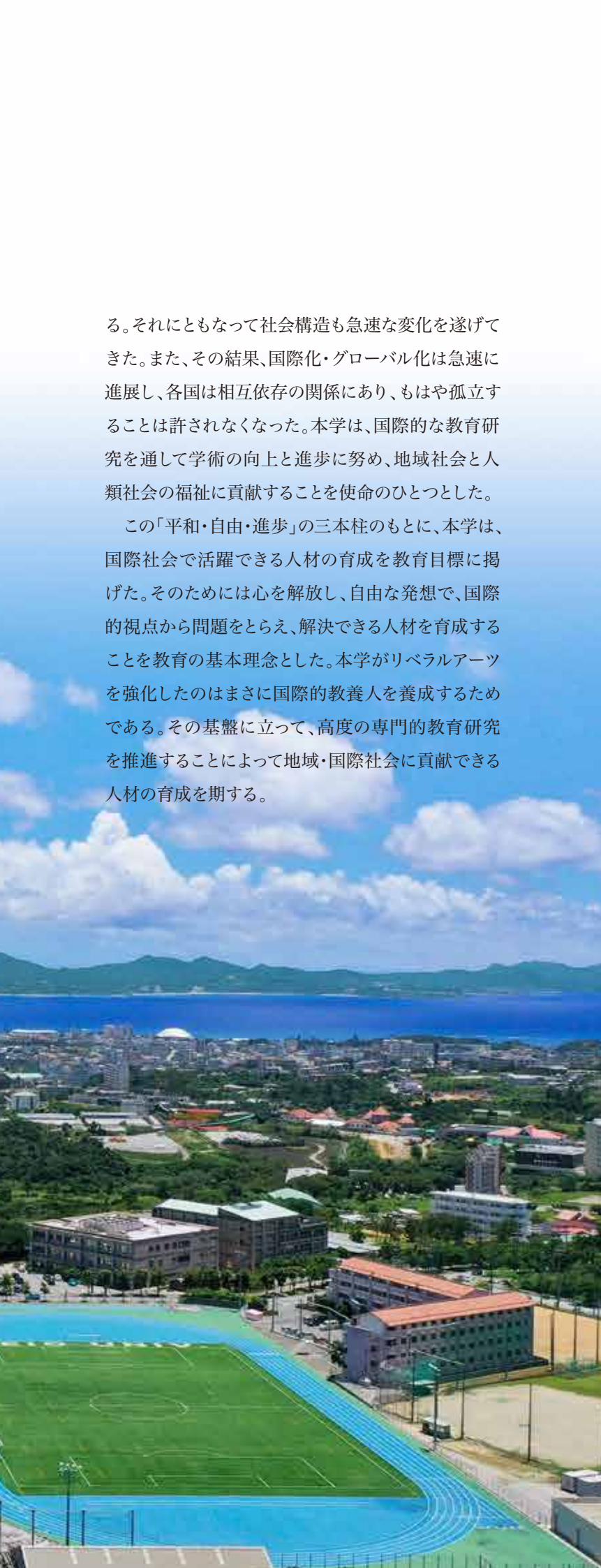
人類の歴史をたどると、それは戦争の歴史であったといっても過言ではなく、それだけに人類の平和を希求する精神は絶えることはない。とりわけ第二次大戦最後の激戦地と化したわが沖縄県においては、熾烈な地上戦が展開され、われわれの祖先が築きあげた文化遺産がことごとく破壊され、20万余の尊い生命が失われた。従って県民の平和に対する願望は強烈なものがある。

本学は、そのような歴史的背景を踏まえ、世界平和の維持と構築に貢献することによって、平和発信

の使命を果たすべく創設された。

平和なくして自由はありえない。自由への闘争もまた人類の歴史そのものであった。独裁者からの解放、圧制からの解放、社会的階級からの解放、差別からの解放、貧困や飢餓からの解放を目指して人類は戦ってきた。わが国でも自由を圧迫する封建社会や軍国主義の時代を経験した歴史があり、本県の場合は沖縄戦に続き27年間にわたる米国の占領と施政権下におかれた。本学が最も強調していることは、いうまでもなく言論・信条・学問の自由であることは論を俟たない。自由なくして大学の教育研究の進展はありえない。

平和と自由なくして人類社会の進歩はありえず、平和と自由なくして文化の創造はありえない。現代の科学の進歩は著しく、人類の幸福に多大な貢献をしてい



る。それとともに社会構造も急速な変化を遂げてきた。また、その結果、国際化・グローバル化は急速に進展し、各国は相互依存の関係にあり、もはや孤立することは許されなくなった。本学は、国際的な教育研究を通して学術の向上と進歩に努め、地域社会と人類社会の福祉に貢献することを使命のひとつとした。

この「平和・自由・進歩」の三本柱のもとに、本学は、国際社会で活躍できる人材の育成を教育目標に掲げた。そのためには心を解放し、自由な発想で、国際的視点から問題をとらえ、解決できる人材を育成することを教育の基本理念とした。本学がリベラルアーツを強化したのはまさに国際的教養人を養成するためである。その基盤に立って、高度の専門的教育研究を推進することによって地域・国際社会に貢献できる人材の育成を期する。

CONTENTS

建学の精神	01
学長あいさつ	03
社会連携の考え方	04
大学創設の経緯	05
沿革	06
組織図／教職員数	07
役員／教育研究審議会委員／経営審議会委員／大学役職員	08
大学の使命・目的および全学的三つのポリシー	09
名桜大学の教養教育	19
国際学部	23
■ 国際文化学科	
■ 国際観光産業学科	
人間健康学部	27
■ スポーツ健康学科	
■ 看護学科	
■ 健康情報学科	
助産学専攻科	33
大学院	35
■ 国際文化研究科 修士（国際文化）	
■ 看護学研究科 修士（看護学）	
■ 国際文化研究科 博士（国際地域文化）	
■ 看護学研究科 博士（看護学）	
環太平洋地域文化研究所	43
外部資金	44
地域貢献Ⅰ	45
地域貢献Ⅱ	47
校舎等施設	49
在学生状況	53
志願者・入学・卒業・修了状況	56
進路・就職状況／教員免許取得状況	59
大学間交流	61
学費・奨学金等	63
クラブ・サークル	65
学年暦	66
名桜大学のFD活動／自己点検・評価、認証評価の取組み	67
交通アクセス	68



未来への跳躍

名桜大学 学長 砂川昌範 Masanori Sunagawa, MD, Ph.D.

Profile: 宮古島市(旧平良市)出身。

琉球大学医学部医学教育企画室講師を経て、
2015年 名桜大学人間健康学部看護学科教授
2017年 名桜大学人間健康学部長
2020年 第6代学長に就任

専攻は循環器生理学・イオンチャネル学。

【略歴】 1992年 琉球大学医学部医学科卒業(MD)

1996年 琉球大学大学院医学研究科形態機能系専攻修了(PhD)
1996-2000年 米国シンシナテ州立大学医学部分子細胞生理学客員研究員
日本生理学会評議員、日本病態生理学会理事、日本臨床生理学会評議員

【著書】 『Heart Physiology and Pathophysiology 第4版』(Academic Press, 2001年)

『Cardiovascular Toxicology 第3版』(Taylor & Francis, 2001年)

【原著論文】

Habutobin releases plasminogen activator (u-PA) from bovine pulmonary artery endothelial cells, *Toxicol*, 34: 691-699, 1996.

The concentration of u-PA and PAI-1 antigen in tissue extracts of nasopharyngeal carcinoma, *Eur Arch Otorhino-laryngol*, 254: 277-80, 1997.

Lack of tyrosine protein kinase regulation of L-type Ca²⁺ channel current in transfected cells stably expressing $\alpha_{1C,B}$ subunit, *Jpn J Physiol*, 51: 115-119, 2001.

Electrophysiologic characteristics of atrial myocytes in levo-thyroxine-treated rats, *Thyroid*, 15: 3-11, 2005.

Cloning of habutobin cDNA and antithrombotic activity of recombinant protein, *Biochem Biophys Res Commun*, 362: 899-904, 2007.

その他 61 編

【受賞】 公益財団法人沖縄県医科学研究財団研究奨励賞(2006年)

一般財団法人生命医学研究振興財団 ライフサイエンスプロジェクト助成(2015年)

名桜大学は沖縄本島北部12市町村と沖縄県の出資による公設民営の大学として1994年に設立、2010年に公立大学に移行しました。大学名称は、国内で最も早い月に桜咲く名高い場所であることから命名されました。本学が所在する沖縄本島北部は、2016年やんばる国立公園に指定され、2021年世界自然遺産に登録された緑豊かな山原(やんばる)の自然豊かな地域です。学生構成は県内と県外出身者がほぼ半々、北海道から石垣島まで、全国から学生が集っています。また、正規および交換留学生さらに海外移住者子弟等研修生も多く、国際交流も活発です。大学での学び、本島北部ならではの経験学習・異文化体験、さらにアウトドアスポーツなど様々な事にチャレンジできる恰好の場所です。

建学の精神と大学の使命・目的

「平和を愛し、自由を尊重し、人類の進歩と福祉に貢献する国際的教養人と専門家の育成」という建学の精神は、東江康治初代学長と外間守善先生(法政大学沖縄文化研究所長を歴任、本学の創設に尽力)との議論から生まれました。外間先生が提案された「自由・進歩」に、東江先生は不幸な自身の戦争体験から「平和」を先頭に加えました。建学の精神に「平和」があるのは、沖縄の大学として深い意味と強い意思があります。平和について多元的重層的に探究し、その成果を教育を通して次世代に繋げていく使命があります。

歴史的にみると大学は、人類の普遍的価値の継承・発展と新しい価値の創造に寄与することを期待され、中世ヨーロッパに誕生しました。本学のシンボルマークである桜の五枚の花びらは、真・善・美・聖・健の人類の普遍的価値を象徴しています。新しい価値の創造に寄与する大学の営みが研究です。研究は大学における考える機能といえます。世界中の大学は創造された新たな知の境界に身を置き、さらにその最先端(カッティングエッジ)を延伸しようと努力する共同体です。大学の教員は同時に研究者であり、それぞれの専門分野で新たな知の生産に励んでいます。研究から得られた成果は、学生がこの世界を生きていく糧となる教育に活用されます。

予測困難な時代を生き抜く力

情報技術に代表されるテクノロジーの急速な進化や人の移動を含む社会活動のグローバル化の進展により社会は益々複雑化し、予測困難な時代に突入しています。このVUCA(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)の時代を生きるため、学生時代に自ら学び続ける力を身につけなければなりません。自ら学習目標を設定し、主体的な学修と適切な自己評価を通して必要な学びを深化させ、目標を達成する自律した学修者を育成します。そのための仕組みが以下の通り、準備されています。

「心を解放する」リベラルアーツ教育

本学の教育の特徴にリベラルアーツ教育があります。リベラルアーツ、すなわちLiberal(自由な)Arts(学芸=学問と芸術)とは、七自由科(文法、修辞学、弁証法の三学および算術、幾何、天文学、音楽の四科)を起源とする学問体系を指します。ここでいう自由とは、他者から与えられるものではなく、自ら言葉を正しく使い、論じ、真実でないことから解放されることを意味します。主に教養教育科目として組み込まれ、自由な発想のもと将来に亘って自律的に学ぶ基本能力:批判的な読書ができる能力、批判的な思考能力、論理的に思考し判断する能力などを育成し、専門基礎教育・専門教育の礎となります。

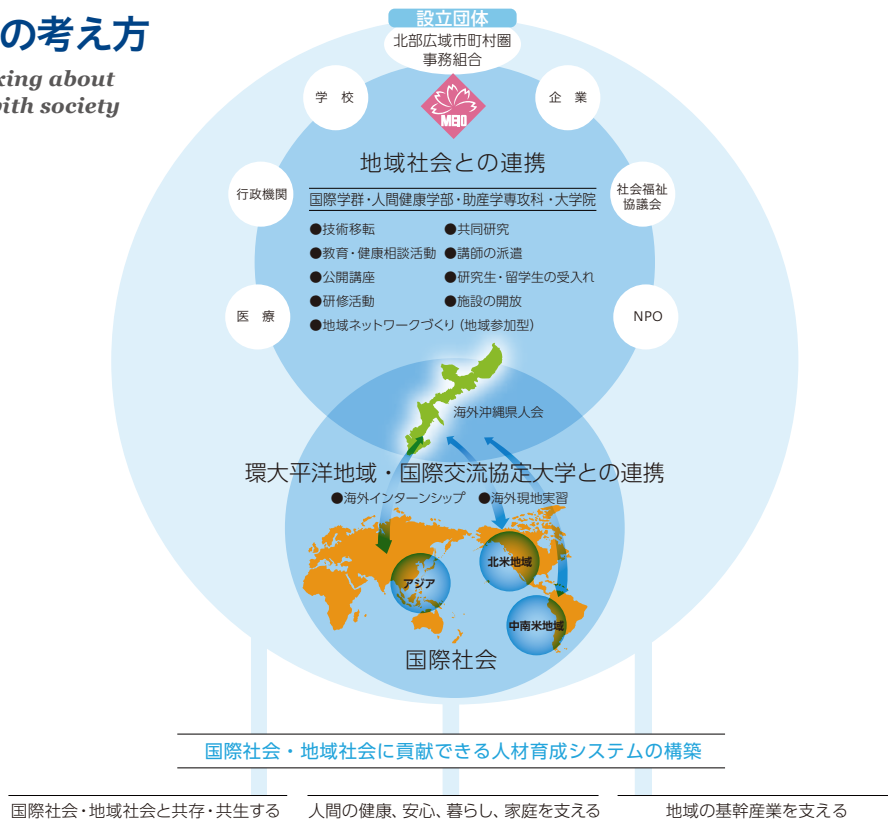
学生による学生のためのピアサポート・ピアチュータリング

本学の学生は、大学入学から修了まで、先輩・後輩コミュニティを大切に相互支援を行っています。例として、総勢100名程のwelcome navigation〜ウェルナビ〜は学生の居場所づくりや人間関係づくりの支援およびイベントの企画・運営など学生主体の活動を行っています。

また、学生の学びが止まることなく前進し続けるための学習支援として(1)文章力を養成するライティングセンター、(2)数理的な判断・分析力や基礎的・汎用的な情報活用能力を養成する数

社会連携の考え方

Ways of thinking about
Connecting with society



理学習センター、(3) 外国語を用いたコミュニケーション力を養成する言語学習センターがあり、学生会館(SAKURAUM)に設置されています。研修を受けた大学院生・学部生からなるチューターが全ての学生を対象に正課の講義と連携しながら学習支援(ピアチュータリング)を行います。

国際社会で活躍できる人材の育成

本学は、国際社会で活躍できる人材の育成を教育目標に掲げています。米国、中南米、さらにアジアなど海外17カ国・1地域の39大学と交流協定を締結しています。標準的の留学期間を1年間とし、本学に在籍したまま海外交流協定校へ留学する交換留学制度があります。留学中に修得した単位は本学の単位として認められ、卒業要件単位を満たすと4年間で卒業することも可能です。

教養教育カリキュラムでは1、2年次の希望学生を対象に、夏季休暇を活用した1週間の海外スタディツアー(中国コース、シンガポールコース)があり、留学を見据えた準備学修として有効です。国際観光産業学科では学生が海外の企業(マレーシアのホテル、韓国の済州観光公社、シンガポールの沖縄県事務所)で3~4週間程度就業体験を行う海外インターンシップがあり、国際文化学科では座学だけでは得ることの難しい確かな現地理解と幅広い知識、異なる文化や習慣を尊重する国際人にふさわしい態度を身につけることを目標に約2週間の現地実習(沖縄、日本、アジア、中南米、国際協力の5つのコース)があります。

学生が海外での学びを安全に安心して行えるよう、本学は移民県沖縄の強みである世界ウチナンチュネットワークを活用させていただいています。2023年、国内外に23支部を有するWUB(ワールドワイド・ウチナンチュ・ビジネスネットワーク)と名桜大学は国際産学連携包括協定をサンパウロ市で締結し、WUB推薦研修生および名桜大学派遣学生を双方が支援していきます。

課外活動と地域ボランティア

名桜大学の大きな特徴は、教室を飛び出して体験する課外活

動や地域でのボランティア活動がとて盛んであることです。学内外の特色ある活動を通して、同級生、先輩後輩、教員と学生、さらに地域と大学など多角的な繋がりを通して、貴重な経験を積み上げています。

活動が11年目に入った名護市と名桜大学の連携事業である名護市学習支援教室びゅあは、これまでの功績が認められ、2023年公益財団法人社会貢献支援財団より第59回 社会貢献者表彰、「第1回 未来をつくる こともまんなかアワード」で内閣府特命担当大臣表彰、さらに2024年「スミセイ未来賞」文部科学大臣賞を受賞されました。

また、食育推進支援サークルによる“屋部の浦子ども食堂”での朝食支援活動、RESAS研究会による沖縄RESASチャレンジ杯での最優秀作品賞受賞、沖縄グリーンバードによる街やビーチの清掃ボランティア活動、留学でお世話になったハワイへの恩返しとしてマウイ島の大規模な山火事に対する支援募金活動を行う学生、学生の活躍は枚挙(まいぎょ)に遑(いとま)がありません。

感化力を有する大学教育

学生は、在学中に多くの教員と語り、多くの友人と出会い、深い洞察を得て、自身の世界を広げ成長していきます。神学者ジョン・ヘンリー・ニューマンがアイルランドカトリック大学学長就任の講演で、次のように語っています。「教師の人間としての感化力は、教育制度なくともその力を示すことができるが、教育制度は、教師の感化力なくしてはその機能を果たしえない。感化力あるところに生命(life)あり、感化力なきところに生命(life)なし」。

情報通信技術や人工知能(AI)導入が益々促進され、インターネットを介してありとあらゆる知識(情報)を入手できる今、大学が存在し得る意義として、感化力が求められています。名桜大学は、これからも感化力を有する大学教育を通して、国際社会で活躍できる人材を育成していきます。

大学創設の趣旨

1. 国際的な教育・研究の場の創設

沖縄県は、地理的、歴史的要因により、東アジア、東南アジア、オセアニア、南北アメリカとの古くからの密接な関係のもと、特色ある地域文化を発展させてきた。

このような沖縄県の特性を活かして環太平洋地域を結ぶ高等教育の場を創設することは極めて意義深いものであり、これらの地域に関する教育・研究を発展させる必要がある。また、これらの地域からの留学生、移民の子弟及び帰国子女の受入れも積極的に対応する必要がある。

2. 産業振興への対応・沖縄県北部の地域活性化

沖縄県では、観光立県として数多くのリゾート開発プロジェクト等が県全域において計画、運営されているが、この分野に関わる人材が不足しており、高等教育機関もない。そのため、『観光産業』に関する教育・研究体制を整備し、地域産業界のニーズに対応する必要がある。

沖縄県北部圏域は、情報や人材の都市集中などに伴い、人口が流出し過疎化傾向にある。大学設置は、この地域の人口の定着と地域文化の向上そして地域振興に大きな意義をもつものである。

3. 教育の機会均等

沖縄県は、地理的、経済的、家庭慣習等の理由により県外への進学が困難な場合がある。また、長期にわたり本土から分離されていたため高等教育の機会に恵まれなかった社会人が多い。学習機会の拡大を図り、生涯教育の要請に応える必要がある。

沖縄県内の4つの大学はいずれも県中南部に立地し、その収容率は対18歳人口比が10.7%で極めて低い(平成2年度。全国平均は20.7%)。北部地域に大学を新設することで通学の利便性を高めるとともに、収容力拡大及び進学率上昇を図る。

出典 名護総合学園設立準備委員会(1992)「大学等設置の趣旨及び特に設置を必要とする理由を記載した書類」「名桜大学設置認可申請書」

創設経緯

1979(昭和54)年	名護市に『大学誘致懇話会』設置
1980(昭和55)年 6月	名護市議会で『名護市大学誘致委員会設置条例』制定が可決
1983(昭和58)年 12月	『名護市大学誘致委員会』による答申。「地域総合短期大学」誘致を目標とすることを提案(北部12市町村で組織する『北部広域市町村圏協議会』に検討を委託)
1984(昭和59)年	『北部広域市町村圏協議会』で大学誘致について検討
1985(昭和60)年	『北部広域市町村圏協議会』が「やんばる市民大学の展望」と題し報告書を提出(キャンパスを持たない「市民大学」を提案)
1986(昭和61)年	名護市で大学誘致を断念し大学設置を検討
1991(平成3)年 3月29日	名護市議会で『名護市総合学園設立審議会条例』制定が可決
5月1日	名護市に『総合学園設立準備室』発足
7月5日	名護市に『名護市総合学園設立審議会』発足。大学の基本計画、敷地等について検討
7月14日	『学校法人名護総合学園設立準備委員会発起人会』開催 『学校法人名護総合学園設立準備委員会』発足 『学校法人名護総合学園設立準備事務局』発足
1992(平成4)年 3月31日	『名護市総合学園設立審議会』より名護市長へ大学の基本計画及び大学の位置・敷地の選定について答申
4月30日	「学校法人名護総合学園寄附行為認可申請」及び「名桜大学設置認可申請」[一次申請](文部大臣へ)
7月31日	「学校法人名護総合学園寄附行為認可申請」[追加書類提出]及び「名桜大学設置認可申請」[一次申請追加書類提出](文部大臣へ)
1993(平成5)年 5月6日	名桜大学敷地造成工事地鎮祭
6月30日	「学校法人名護総合学園寄附行為認可申請」及び「名桜大学設置認可申請」[第二次書類提出](文部大臣へ)
7月8日	名桜大学校舎等建設工事合同安全祈願祭
12月21日	学校法人名護総合学園寄附行為認可及び名桜大学設置認可(文部大臣)

創設経費

創設経費	6,629,357千円
補助金	6,629,357千円 沖縄県 1,030,000千円 名護市 5,299,057千円 北部11町村 300,300千円

学校法人名護総合学園設立準備委員会

1991(平成3)年 7月14日 発足
1993(平成5)年12月21日 学校法人名護総合学園設立認可及び名桜大学設置認可(文部大臣)

氏名	所属・職名(当時)	備考
東江 康治	琉球大学名誉教授	委員長
外間 守善	法政大学文学部教授	副委員長
阿部 充夫	放送大学学園理事長	委員
瀬名波 榮喜	琉球大学教育学部教授	委員
山里 清	琉球大学理学部教授	委員
崎間 晃	琉球銀行代表取締役頭取	委員
稻嶺 恵一	株式会社りゅうせき代表取締役社長・沖縄県経営者協会会長	委員
比嘉 幹郎	プセナリゾート株式会社代表取締役	委員
比嘉 茂政	恩納村長・北部市町村会会長	委員
安里 進	名護市議会議長	委員
比嘉 鉄也	名護市長	委員

1994(平成6)年	4月1日	名桜大学開学(国際学部 国際文化学科、経営情報学科、観光産業学科)
	4月15日	第1回名桜大学入学式(入学生384人)
1995(平成7)年	4月15日 9月8日	名桜大学開学記念式典 名桜大学総合研究所設立(平成8年4月1日開所)
1997(平成9)年	10月14日 11月28日	名桜大学後援会設立 名桜大学完成記念植樹
1998(平成10)年	3月20日	第1回名桜大学卒業式
1999(平成11)年	4月29日 7月17日	第50回沖縄県植樹祭が名桜大学で開催 名桜大学開学5周年式典
2000(平成12)年	6月30日 12月21日	名桜大学大学院国際文化研究科設置認可申請 名桜大学大学院国際文化研究科設置認可(文部科学大臣)
2001(平成13)年	4月1日 4月1日 5月23日	名桜大学大学院国際文化研究科開設 名桜大学言語学習センター設立・開室 名桜大学メディアネットワークセンター設立(同年6月1日開室)
2002(平成14)年	2月16日	名桜大学同窓会設立
2003(平成15)年	3月20日	名桜大学大学院国際文化研究科第1期生 修了式
2004(平成16)年	9月29日 10月1日 12月21日	名桜大学人間健康学部設置認可申請 北部生涯学習推進センター設立・開設 名桜大学開学10周年記念式典
2005(平成17)年	1月28日 4月1日	名桜大学人間健康学部設置認可(文部科学大臣) 名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科開設
2006(平成18)年	6月20日 7月26日 7月31日 11月30日	名桜大学人間健康学部看護学科設置認可申請 名桜大学教員養成支援センター設立・開室 名桜大学国際学群国際学類設置届出(国際学部3学科を改組) 名桜大学人間健康学部看護学科設置認可(文部科学大臣)、平成19年4月1日付けをもって保健師助産師看護師法第19条第1号、同第21条第1号に定める学校として指定(文部科学大臣)
2007(平成19)年	4月1日	名桜大学国際学群国際学類(国際文化専攻、語学教育専攻、システムマネジメント専攻、情報システムズ専攻、観光産業専攻)開設
	4月1日	名桜大学人間健康学部看護学科開設
2009(平成21)年	4月1日	名桜大学国際学群国際学類に診療情報管理専攻を設置、システムマネジメント専攻を経営専攻に名称変更
	5月8日 12月21日	名桜大学数理学習センター設立・開室 北部広域市町村圏事務組合より公立大学法人名桜大学設立認可申請(沖縄県知事へ)、学校法人名護総合学園より名桜大学の設置者変更認可申請及び学校法人解散認可申請(文部科学大臣へ)
2010(平成22)年	3月19日	公立大学法人名桜大学設立認可(沖縄県知事)、名桜大学の設置者変更認可/設置者変更に伴う学校法人名護総合学園解散認可(文部科学大臣)
	4月1日	名桜大学の設置者変更による学校法人名護総合学園の解散、北部広域市町村圏事務組合が設立した公立大学法人名桜大学により設置された名桜大学の開学
	5月25日 10月29日	名桜大学大学院看護学研究科設置認可申請 名桜大学大学院看護学研究科設置認可(文部科学大臣)
2011(平成23)年	2月23日 4月1日	名桜大学教養教育センター設立(同年4月1日開設) 名桜大学大学院看護学研究科開設
2012(平成24)年	10月24日	名桜大学健康・長寿サポートセンター設立(同年12月21日開設)
2013(平成25)年	3月21日 4月1日 4月1日	看護実践教育研究センター設立(同年4月1日開設) 北部生涯学習推進センター内にエクステンションセンター開設 名桜大学保健センター開設(保健室を廃止・拡充)
2014(平成26)年	12月21日	名桜大学開学20周年・公立大学法人化5周年記念式典
2015(平成27)年	3月19日 3月31日	名桜大学国際交流センター設立(同年4月1日開設) 名桜大学国際学部(国際文化学科、経営情報学科、観光産業学科)廃止
	4月1日	名桜大学リベラルアーツ機構設立(教養教育センターを廃止・拡充)
	4月1日	名桜大学ライティングセンター設立(2016(平成28)年5月16日開室)
2016(平成28)年	10月13日	名桜大学助産学専攻科 保健師助産師看護師法第20条第1号に定める学校として指定申請
2017(平成29)年	1月31日	名桜大学助産学専攻科 平成29年4月1日付けをもって保健師助産師看護師法第20条第1号に定める学校として指定(文部科学大臣)
	4月1日 4月1日	名桜大学助産学専攻科開設 地域連携機構開設(エクステンションセンターを廃止・拡充)
2018(平成30)年	3月30日	名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)設置認可申請
	8月31日	名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)設置認可(文部科学大臣)
2019(平成31)年	4月1日	名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)開設
2021(令和3)年	3月18日	名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)課程変更認可申請
2021(令和3)年	8月27日	名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)課程変更認可(文部科学大臣)
2022(令和4)年	4月1日	名桜大学大学院看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)開設
2022(令和4)年	5月2日	国際学群を国際学部へ名称変更届出 国際学部国際文化学科の届出設置 国際学部国際観光産業学科の届出設置 人間健康学部健康情報学科の届出設置
2023(令和5)年	4月1日	国際学部国際文化学科、国際観光産業学科開設 人間健康学部健康情報学科開設

歴代理事長・学長等

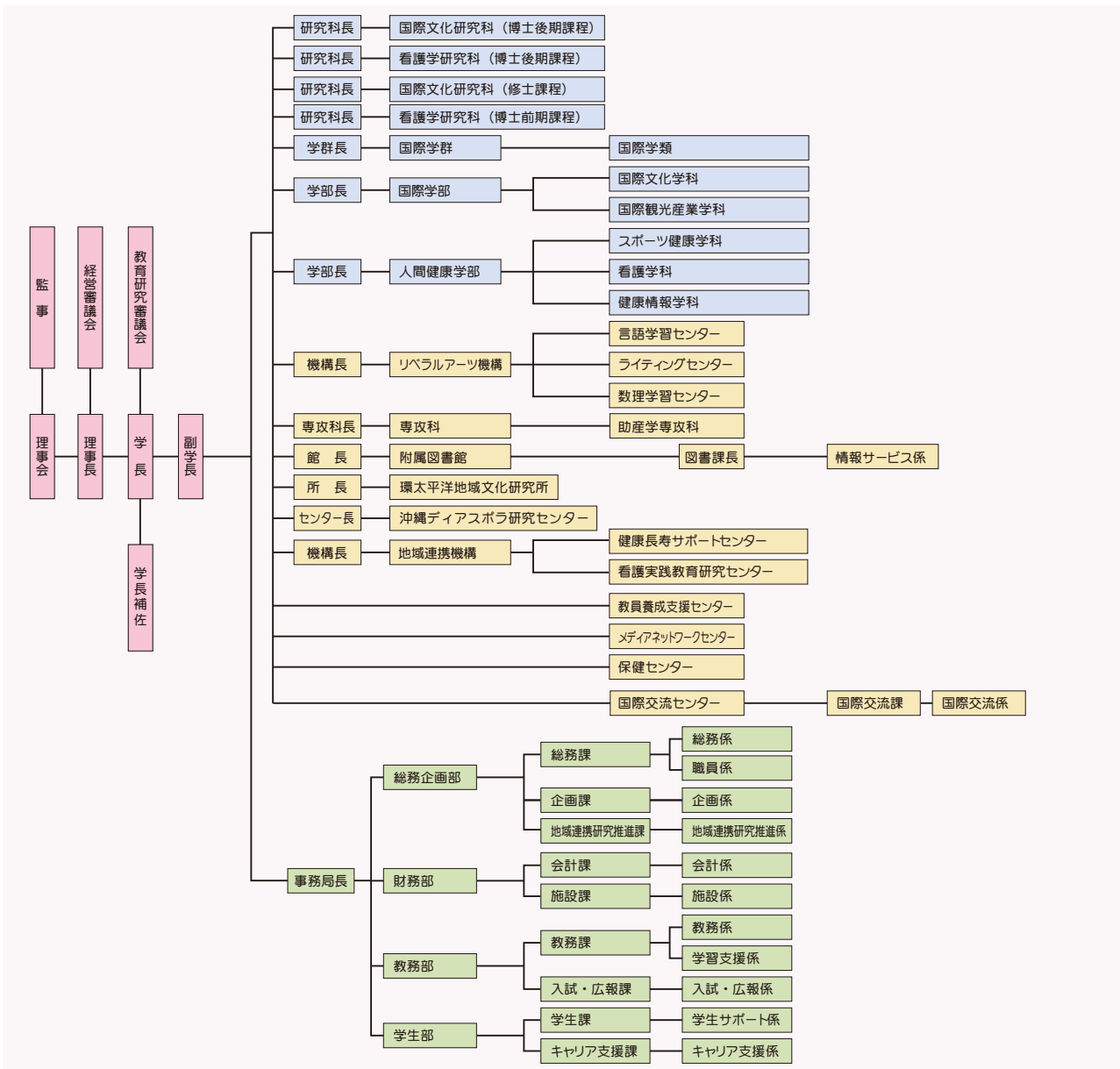
	歴代	氏名	就任
歴代理事長	初代	東江 康治	平成 6年 4月 1日
	第2代	比嘉 鉄也	平成12年 1月 1日
	第3代	嘉数 啓	平成22年 4月 1日
	第4代	比嘉 佑典	平成24年 6月 1日
	第5代	比嘉 良雄	平成26年 4月 1日
	第6代	高良 文雄	平成31年 4月 1日
歴代学長	歴代	氏名	就任
	初代	東江 康治	平成 6年 4月 1日
	第2代	東江 平之	平成12年 4月 1日
	第3代	安田 晃次	平成15年 4月 1日
	第4代	瀬名波 榮喜	平成18年 2月17日
	第5代	山里 勝己	平成26年 4月 1日
	第6代	砂川 昌範	令和 2年 4月 1日
名誉学長	称号記番号	氏名	称号授与年月日
	第1号	東江 康治	平成13年 5月30日
	第2号	瀬名波 榮喜	平成26年 6月28日
名誉客員教授	称号記番号	氏名	称号授与年月日
	第1号	外間 守善	平成15年 9月24日
	第2号	鳥袋 嘉昌	平成20年10月22日
	第3号	比嘉 幹郎	平成20年10月22日
	第4号	平 恒次	平成25年11月17日
名誉教授	称号記番号	氏名	称号授与年月日
	第1号	伊江 朝章	平成11年 4月30日
	第2号	古波倉 正偉	平成11年 4月30日
	第3号	外間 完和	平成11年 4月30日
	第4号	平敷 浩邦	平成11年 4月30日
	第5号	鳥袋 哲	平成12年 4月21日
	第6号	山里 将晃	平成12年 4月21日
	第7号	宮平 進	平成12年 4月21日
	第8号	小谷 達男	平成12年 4月21日
	第9号	上江洲 均	平成15年 9月24日
	第10号	東江 平之	平成15年 9月24日
	第11号	上間 隆則	平成15年 9月24日
	第12号	山里 清	平成15年 9月24日
	第13号	瀬名波 榮喜	平成16年 5月27日
	第14号	屋比久 浩	平成16年 5月27日
	第15号	宮城 真宏	平成16年 5月27日
	第16号	芝野 治郎	平成18年 5月29日
	第17号	安井 祐一	平成18年 5月29日
	第18号	新城 敏男	平成20年 6月18日
	第19号	山端 清英	平成20年 6月18日
	第20号	石川 清治	平成20年 6月18日
	第21号	内間 直仁	平成21年 4月28日
	第22号	西平 守孝	平成21年 4月28日
	第23号	竹内 伸也	平成21年 4月28日
	第24号	杉本 英夫	平成21年 4月28日
	第25号	久手堅 憲一	平成21年 4月28日
	第26号	ガイエル、ティモシー C.	平成23年 6月 3日
	第27号	シーキンス、ドナルド M.	平成23年 6月 3日
	第28号	清水 則之	平成23年 6月 3日
	第29号	吉川 安一	平成24年 6月23日
	第30号	眞喜屋 尚美	平成24年 6月23日
	第31号	高宮城 繁	平成24年 9月 4日
	第32号	仲地 清	平成25年 6月22日
	第33号	中村 誠司	平成25年 6月22日
	第34号	上間 篤	平成25年 6月22日
	第35号	宮里 捷	平成25年 6月22日
	第36号	レイサムキャロライン C.	平成26年 6月28日
	第37号	平識 善盛	平成27年 6月28日
	第38号	稲垣 綱代	平成27年 6月28日
	第39号	金城 祥教	平成28年 3月26日
	第40号	金城 やす子	平成29年 3月29日
	第41号	金城 利雄	平成29年 3月29日
	第42号	山里 勝己	令和 2年 4月 1日
	第43号	朴 在徳	令和 2年 4月 1日
	第44号	住江 淳司	令和 3年 4月 1日
第45号	鈴木 啓子	令和 5年 4月 1日	

組織図 教職員数

Organizational Chart / Number of Administrative and Teaching Staff

組織図

令和5年5月1日現在



教員数

令和5年5月1日現在

区分	教授			上級准教授			准教授			助教			合計			助手			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
学長	1	0	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0	1	—	—	—	
大学院	4	4	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	8	0	0	0	
国際学部	国際文化学科	8	0	8	3	1	4	4	6	10	0	0	0	15	7	22	0	0	0
	国際観光産業学科	7	2	9	3	2	5	4	0	4	0	0	0	14	4	18	0	0	0
人間健康学部	スポーツ健康学科	7	2	9	3	0	3	2	3	5	2	3	5	14	8	22	0	0	0
	看護学科	1	10	11	2	4	6	2	3	5	2	5	7	7	22	29	1	3	4
	健康情報学科	7	2	9	3	2	5	3	0	3	0	0	0	13	4	17	0	0	0
教員数総計	35	20	55	14	9	23	15	12	27	4	8	12	68	49	117	1	3	4	

職員数

令和5年5月1日現在

事務局長		部長・参与		課長・主幹		係長・主査		主任		係員		合計		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
1	0	6	1	10	1	4	4	10	4	7	7	38	17	55

役員／教育研究審議会委員／ 経営審議会委員／大学役職員

Officers/
Education and Research Council Members/
Management Council Members/
University Executive staff

役員(理事・監事)

令和5年5月1日現在

役職	氏名	所属先役職
理事長	高良 文雄	公立大学法人名桜大学理事長
副理事長	砂川 昌範	名桜大学学長
理事	林 優子	名桜大学副学長(地域創生担当)
理事	金城 秀郎	名護市副市長

役職	氏名	所属先役職
理事	前田 貴子	株式会社ゆがふホールディングス代表取締役社長
理事	仲間 一	金武町長
監事	宮里 猛	開法律事務所 弁護士
監事	原田 泰人	やんばる会計事務所 公認会計士・税理士

教育研究審議会委員

令和5年5月1日現在

役職	氏名	所属先役職
議長	砂川 昌範	名桜大学学長
委員	永田 美和子	名桜大学副学長(研究担当)
委員	林 優子	名桜大学副学長(地域創生担当)
委員	木村 堅一	名桜大学副学長(教育・入試担当)
委員	仲尾次 洋子	名桜大学国際学部長
委員	奥本 正	名桜大学人間健康学部長

役職	氏名	所属先役職
委員	小番 達	名桜大学附属図書館長
委員	小嶋 洋輔	名桜大学環太平洋地域文化研究所長
委員	嘉納 英明	名桜大学大学院国際文化研究科長(修士課程)
委員	玉井 なおみ	名桜大学大学院看護学研究科長(博士前期課程)
委員	佐久本 功達	名桜大学リベラルアーツ機構長

経営審議会委員

令和5年5月1日現在

役職	氏名	所属先役職
議長	高良 文雄	公立大学法人名桜大学理事長
委員	砂川 昌範	名桜大学学長
委員	永田 美和子	名桜大学副学長(研究担当)
委員	木村 堅一	名桜大学副学長(教育・入試担当)
委員	池原 秀人	名桜大学事務局長

役職	氏名	所属先役職
委員	宮里 幹成	北部広域市町村圏事務組合事務局長
委員	新垣 力太	新垣産業株式会社代表取締役社長
委員	宮城 勝	株式会社沖坤代表取締役社長
委員	嘉手苺 健	元名桜大学地域連携機構参与
委員	新里 江利子	かっぽう山吹副代表

大学役職員

令和5年5月1日現在

氏名	職名
高良 文雄	理事長
砂川 昌範	学長・副理事長
永田 美和子	副学長(研究担当)
木村 堅一	副学長(教育・入試担当)
林 優子	副学長(地域創生担当)
仲尾次 洋子	国際学部長
仲尾次 洋子	国際学群長
奥本 正	人間健康学部長
佐久本 功達	リベラルアーツ機構長
小番 達	附属図書館長
小嶋 洋輔	環太平洋地域文化研究所長
高嶺 司	沖縄ディアスポラ研究センター長
赤嶺 守	大学院国際文化研究科長(博士後期課程)
グレッグ 美鈴	大学院看護学研究科長(博士後期課程)
嘉納 英明	大学院国際文化研究科長(修士課程)
玉井 なおみ	大学院看護学研究科長(博士前期課程)
花城 和彦	学長補佐(COI担当)
高安 美智子	学長補佐(北部地域教育担当)
金城 正英	学長補佐(法人企画戦略担当)
渡具知 伸	学長補佐(地域文化継承担当)
板山 勝樹	国際学部国際文化学科長
大谷 健太郎	国際学部国際観光産業学科長
高瀬 幸一	人間健康学部スポーツ健康学科長
大城 凌子	人間健康学部看護学科長
田邊 勝義	人間健康学部健康情報学科長

氏名	職名
板山 勝樹(再掲)	国際学群国際文化教育研究学系長
大城 渡	国際学群経営情報教育研究学系長
大谷 健太郎(再掲)	国際学群観光産業教育研究学系長
坪井 裕司	国際学群国際文化専攻長
渡慶次 正則	国際学群語学教育専攻長
大城 渡(再掲)	国際学群経営専攻長
天願 健	国際学群情報システムズ専攻長
大城 真理子	国際学群診療情報管理専攻長
卯田 卓矢	国際学群観光産業専攻長
小西 清美	助産学専攻科長
山城 智史	外国語教育主任(言語学習センター長)
立津 慶幸	数理学習センター長
大峰 光博	ライティングセンター長
中里 収	メディアネットワークセンター長
高安 美智子(再掲)	教員養成支援センター長
岡部 麻里	保健センター長
本村 純	国際交流センター長
前川 美紀子	地域連携機構長
田場 真由美	健康長寿サポートセンター長
横川 裕美子	看護実践教育研究センター長
木暮 祐一	広報室長
天願 健(再掲)	IR室長
高安 美智子(再掲)	北部教育研修センター長
池原 秀人	大学事務局長

大学の使命・目的および全学的 三つのポリシー

国際社会で活躍できる人材育成

名桜大学は、建学の精神「平和・自由・進歩」を基本理念とし、
「国際社会で活躍できる人材の育成」を教育目標として、
次のような人材を育成することを目指します。

1. グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語力、母語によるライティング力）、数理的分析能力、ICT 活用力を持った人材
2. 豊かな教養と専門性、総合的な判断力と論理的な思考力、創造性、協調性、積極性、自立性、主体性を併せ持ち、生涯学び続けることができる人材
3. 自由な発想のもと、俯瞰的に問題を把握し解決する能力を有し、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を備えた国際的教養人

このような人材を育成するために、以下の能力を身につけた学生に学位を授与します。

I ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現する力

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）であげた能力を育成するため、
以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語、母語によるライティング力）、数理的分析能力、ICT 活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を 4 年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、批判的・論理的な思考力を育成する。
4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。

名桜大学の教育目標を達成するために、本学に入学を希望する人には以下のことを求めます。

III アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

1. 豊かな個性と強い学習意欲を有し、主体的に取り組む姿勢をもっていること。
2. 基本的な学習スキルを活用し、他者との対話や議論を通して、現代社会の課題を理解・分析したうえで、自らの考えを多様な方法で表現できること。
3. 入学を希望する学群・学部・学科等の特徴を正しく理解し、その教育課程で学ぶために必要な知識・技能を持っていること。

国際学部国際文化学科の三つのポリシー

国際文化学科は、沖縄県が持つ地理的・歴史的・文化的特性を活用し、多文化理解力、高い日本語能力、英語をはじめとする外国語の実践的運用能力を身につけ、地域社会および国際社会で活躍できる人材を養成します。

I ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

▶ 国際文化学科は、以下の能力を身につけた学生に学士(国際文化学)の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み、探究し、学び続ける力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現し、他者と協力する力
5. 高度な言語運用能力と多文化理解力、問題解決能力と創造力を兼ね備え、地域社会や国際社会に貢献する力

II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 幅広い教養、高い倫理性を身につけるために、全学共通の教養教育科目の全ての科目群に必修・選択科目を設定し、42単位以上履修させる。
2. 専門性を支える専門基礎科目として、言語・歴史・思想など人間の文化的営為について理解する科目に加えて、経済をはじめとする社会の諸事象について理解する科目、情報や環境など人間の活動を取り巻く課題について理解する科目を配置し、2年次修了時に中間評価を行う。
3. 専門性を深めるために専門発展・応用科目を置く。専門発展・応用科目は次の7つの科目区分から構成する。
 1. 沖縄や日本の歴史・文化・社会・宗教などを通して自らが生活する地域への理解を深める地域文化系科目を配置する。
 2. アジアや中南米の歴史・文化・社会・言語などを通して多文化理解に資する国際文化系科目を配置する。
 3. 国際社会の現象やシステムを政治経済・外交安全保障・国際協力・国際機構・国際法などの視点から学び理解を深める国際学系科目を配置する。
 4. 英語圏の文学・歴史・文化、英語学、言語学の知識を学び、実践的な英語運用能力を養う英語・英語文学系科目を配置する。
 5. 日本語の歴史や特質についての深い理解力、言語文化についての幅広い知識と読解力を養う日本語・日本文学系科目を配置する。
 6. 専門教育で学んだ知識・スキルを活用し、課題発見力、課題解決力を身につけるために実践科目を置く。
 7. 時代や社会の要請に応じたテーマを扱う特別講義を開講する。
4. 専門知識や技術を統合した学びを深める演習科目を配置する。さらに学びの集大成として卒業研究に取り組み、卒業研究評価ルーブリックをもとに学習成果を評価する。

III アドミッション・ポリシー(入学受入方針)

▶ 国際文化学科の教育目標を達成するために、入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 強い学習意欲を有し、主体的に取り組む姿勢を持っていること。
2. 基本的な学習スキルを活用し、他者との対話や議論を通して、現代社会の課題を理解・分析したうえで、自らの考えを多様な方法で表現できること。
3. 国際文化学科の特徴を正しく理解し、高等学校教育における教科の内容をバランスよく修得していること。

入学受入方針省略（ホームページ掲載）

国際学部国際観光産業学科の三つのポリシー

国際観光産業学科は、観光産業および地域振興における社会的ニーズに対応し、多様化する問題・課題のマネジメント能力をそなえ、地域社会および国際社会に貢献できる実践力のある人材を養成します。

I ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

▶ 国際観光産業学科は、以下の能力を身につけた学生に学士(国際観光産業学)の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み、継続して探求する力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的・多面的・総合的に思考し、解決する力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現し、他者と協力する力
5. 社会の変化に対応し、地域社会や国際社会において観光産業の発展、ひいては社会の進歩に貢献する柔軟性と行動する力

II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合し、グローバル化に対応できるコミュニケーション力、数理的分析力、ICT活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を身に付けるために、全学共通の教養教育科目を配置し、42単位以上履修させる。
2. 専門基礎科目として、文学や言語をはじめ、歴史や文化などを理解するための科目に加えて、社会の仕組みや、人間社会における役割や機能を理解する科目、情報、環境保全、沖縄の天然記念物を理解する科目を置き、2年次修了時に中間評価を行う。

3. 専門性を深めるために専門発展・応用科目を置く。専門発展・応用科目は次の7つの科目区分から構成する。
 1. 観光地の形成・運営について総合的に考察し、地域社会と観光振興のバランスを踏まえた公共の福祉の充実を目指し、行政・経済・法律などの社会科学分野を中心にマクロ的に学ぶ観光地形成科目を配置する。
 2. 多様化する現代社会の諸課題に対してマネジメントできる人材を育成するため、広く企業や組織の運営に関するヒト・モノ・カネ・情報の観点から学ぶ観光経営科目を配置する。
 3. 地域における自然環境や歴史文化の有用性を考察し、地域社会の自然・文化を活用した持続可能な観光振興のあり方を学ぶ観光文化・環境科目を配置する。
 4. 国際観光にかかる制度や動向、外国語、海外の歴史を学ぶ国際観光科目を配置する。
 5. 専門教育で学んだ知識・スキルを社会の実践の場で応用し、課題発見・解決力を身に付けるため、実践科目を置く。具体的には、3年次を対象とした「インターンシップⅠ・Ⅱ」や「海外インターンシップ」、「ホテル実務」、「観光 関連実務」を配置する。
 6. 心身の活性化を図るスポーツ・ウェルネス（観光）に関する科目を配置する。
 7. 時代の要請に応じたテーマについて、多彩な授業形態による特別講義を開講する。
4. 専門知識や技術を統合した学びを深める演習科目を配置する。さらに学びの集大成として卒業研究に取り組み、卒業研究評価ルーブリックをもとに学習成果を評価する。

Ⅲ アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

▶ 国際観光産業学科の教育目標を達成するために、入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 強い学習意欲を有し、主体的かつ継続的に、他者と協力して取り組む姿勢を持っていること。
2. 社会の問題や課題について、基本的な学習スキルの活用及び多角的な情報収集に基づき、自らの考えを多様な方法で表現できること。
3. 国際観光産業学科の特徴を正しく理解し、高等学校教育における教科の内容をバランスよく修得していること。

入学者選抜方針省略（ホームページ掲載）

人間健康学部 スポーツ健康学科の三つのポリシー

スポーツ健康学科は、健康に生きるために、人間の「からだ」と「こころ」や人間をとりまく「社会」について科学的に探究し、知・徳・体のバランスのとれた能力を備え、健康寿命の延伸に寄与できる健康支援人材を育成します。

I ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

▶ スポーツ健康学科は、以下の能力を身につけた学生に学士(スポーツ健康学)の学位を授与します。

1. 高い倫理観を持ち、社会人として必要な幅広い教養およびスポーツ健康科学分野における専門的知識・技能
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見・設定し、批判的・論理的に思考・判断しつつ解決する力。また、その内容をわかりやすく表現する力
4. 多様な視点を尊重し、協働して問題を解決していくために必要なチームワークやリーダーシップ
5. 心身ともに健康に生きるため、自己の可能性を肯定的に考え、自らを律しながら、主体的・計画的に行動する力

II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語力、母語によるライティング力）、数理的分析能力、ICT活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を4年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、他者との対話や議論を通して批判的・論理的な思考力を育成する。
4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、3年次および4年次における卒業研究演習を必修科目と位置づけ、卒業論文等により最終評価を行う。
5. スポーツおよび健康に関する専門基礎科目群を配置する。専門性を高めるため、2年次から「スポーツ領域」または「健康領域」を選択し、より探究的な専門科目群を配置する。

Ⅲ アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

▶ スポーツ健康学科の教育目標を達成するために、本学科に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 豊かな個性と強い学習意欲を有し、主体的に取り組む姿勢を持っていること。
2. 基本的な学習スキルを活用し、他者との対話や議論を通して、現代社会の課題を理解・分析したうえで、自らの考えを多様な方法で表現できること。
3. スポーツ健康学科の特徴を正しく理解し、高等学校教育における教科を全般的に修得していること。また、スポーツ健康科学に必要な保健および体育の内容について基礎的・基本的な知識および技能を身につけていることが望ましい。
4. 健康を科学的視点から探究し、地域社会や国際社会において健康づくりを支援する意欲があること。
5. スポーツ科学や健康科学に興味・関心があり、大学においても習慣的な運動や健康づくりの意欲があること。

入学者選抜方針省略（ホームページ掲載）

人間健康学部看護学科の三つのポリシー

看護学科は、人間としての尊厳・健康に生きる権利を擁護し、自己評価能力・自己教育力を身につけ、広く社会に貢献できる看護職者を育成します。

I ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

▶ 看護学科は、以下の能力を身につけた学生に学士(看護学)の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性を兼ね備え、生命の尊厳と人権を尊重し擁護する力
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力を身につけ、人々の健康と福祉に寄与する力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現する力
5. 看護を必要とする人を全人的に捉え、科学的根拠に基づき、看護を計画的に実践する力
6. 自律性と参画力を備え、関連する専門職者および地域と協働・連携する力

II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語力、母語によるライティング力）、数理的分析能力、ICT活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を4年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、他者との対話や議論を通して批判的・論理的な思考力を育成する。
4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。
5. 看護学の専門基礎教育科目および専門性を探求する専門教育科目を適切に配置する。
6. 4年間を通して学生主体・参画型の少人数教育を実施し、「自己との対話」「他者との対話」「地域社会との対話」を通して自己教育力を育む。
7. 専門的な知識・技術を統合し、看護の専門性を発展させる能力や態度を育む。

III アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

▶ 看護学科の教育目標を達成するために、本学科に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 豊かな個性と強い学習意欲を有し、主体的に取り組む姿勢を持っていること。
2. 基本的な学習スキルを活用し、他者との対話や議論を通して、現代社会の課題を理解・分析したうえで、自らの考えを様々な方法で創造的に表現できること。
3. 看護学科の特徴を正しく理解し、文系・理系に偏ることなく高等学校教育における基礎的な学力を身につけていること。なお、生命科学の基礎となる生物、化学については、基礎的な知識を身につけておくことが望ましい。

入学者選抜方針省略（ホームページ掲載）

人間健康学部健康情報学科の三つのポリシー

健康情報学科は、数理・データサイエンス・AIの手法を駆使し、保健・医療・福祉などを含む健康分野と社会全般に関するデータを分析することで、新たな価値やサービスの創出に貢献できる人材を育成します。

I ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

▶ 健康情報学科は、以下の能力を身につけた学生に学士(健康情報学)の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現する力
5. コンピュータ理論・装置・ソフトウェアの基礎を学んだ上で情報システムの設計・開発ができる力
6. 数学、統計、情報、データサイエンスの基礎知識・技能を獲得した上で、社会の様々な課題をデータサイエンス・AIを駆使して解決できる力
7. 保健・医療・福祉を総合的に理解した上で、医療機関や日常生活で発生する多様なデータを適切に収集・蓄積・分析する力

II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 幅広い教養、高い倫理性を身に付けるために、全学共通の教養教育科目の全ての科目群に必修選択科目を設定し、32単位以上履修させる。
2. 専門基礎科目として、保健・医療・福祉を総合的に理解するための科目に加えて、数学、統計、情報、データサイエンスの基礎知識・技能を獲得するための科目を置き、2年次修了時に中間評価を行う。
3. 専門性を深めるために専門発展科目を置く。専門発展科目は次の3つの科目区分から構成し、①コンピュータ理論・装置・ソフトウェアの基礎を学んだ上で情報システムの設計・開発のためのスキルを身に付ける情報科学科目、②社会の様々な課題をデータサイエンス・AIを駆使して解決できるよう統計的な解釈とコンピューター科学による検証方法を中心に学ぶデータサイエンス科目、③医療機関や日常生活で発生する多様なデータを適切に収集・蓄積・分析するためのヘルスデータ科目を配置する。
4. 健康分野におけるデータ活用だけでなく、人間の社会行動、マーケティング、経営分野におけるデータ活用を学ぶ専門応用科目を設定する。
5. 専門教育で学んだ知識・スキルを社会の実践の場で活用し、課題発見・課題解決する力を身に付けるため、専門総合科目を置く。具体的には、3年次を対象とした「病院実務I・II・III」や「健康情報演習I（PBL）・II（PBL）」を選択必修とするとともに、4年次の一年間を通して卒業研究を完成させる演習科目を必修とし、最終評価（卒業研究評価等）を行う。
6. 幅広い教養、深い専門性、国内外大学への交換留学、情報教員を目指す学生の履修の選択肢を広げるために、自由選択科目を設定する。

III アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

▶ 健康情報学科の教育目標を達成するために、本学科に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 豊かな個性と強い学習意欲を有し、主体的に取り組む姿勢を持っていること。
2. 基本的な学習スキルを活用し、他者との対話や議論を通して、現代社会の課題を理解・分析したうえで、自らの考えを多様な方法で表現できること。
3. 健康情報学科の特徴を正しく理解し、高等学校教育における教科の内容をバランスよく修得していること。

入学者選抜方針省略（ホームページ掲載）

助産学専攻科の三つのポリシー

助産学専攻科は安心して健康な子どもを産み育てられる地域づくりに貢献する助産師を育成します。

I ディプロマ・ポリシー（学生が修了時に持つべき能力）

▶ 助産学専攻科では、以下の能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

1. 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。
2. 思春期の健康教育をはじめとする女性のライフサイクル各期におけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する支援ができる能力。
3. 離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力。
4. 高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助が自立してできる能力。
5. 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力。
6. 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力。
7. 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力。

II カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

▶ 助産学専攻科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成している。

○編成方針

1. 助産学基礎領域では、生命尊重・倫理観を深めながら、沖縄のケアリング文化を理解し、保健・医療・福祉関係者との協働・連携について学ぶ。
2. 助産学実践領域では、女性の生涯を通じて、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに焦点を当てて支援する助産の基礎を学ぶ。また、妊産褥婦および新生児とその家族を支援する助産実践に必要な基本的診断技術を学び、継続的な母子支援の必要性を理解し、保健・医療・福祉関係者との協働・連携について学ぶ。助産学実習を通して最新の周産期医療やハイリスクへの対応を学修し、助産技術の習得や実践力を高める。
3. 助産学発展領域では、医療のグローバル化、高度化する周産期医療とその安全、助産管理の重要性を学び、母子とその家族の健康支援のために、科学的探究心および研究能力を培い、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を修得する。

○実施方針

1. 知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力、コミュニケーション力など、社会生活において必須となる汎用的な能力を養成するために、1年を通して学生主体・ディスカッションを主軸とした教育を実施する。
2. 助産学専攻科専任教員のほか、妊娠期における超音波診断、産科救急の初期対応、新生児の蘇生などの演習など、様々な講師による授業を展開して、充実した実習環境で助産実践力を培う。
3. 実習は、幅広く助産師としての技術、知識を学べる実習体制を計画して、周産期を中心とした助産実習だけでなく、地域社会、国際社会での助産師の活動や助産管理など、1年教育の中で学修する。
4. 獲得した専門知識や助産技術を統合し、問題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や態度を育成するために、1年を通して研究の基礎的知識を培う。

III アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

▶ 助産学専攻科では、本学の教育理念に共感し、自ら考え行動しようとする、以下のような学習意欲の高い人を求める。

1. 助産に関心を持ち生命誕生に真摯に向き合える誠実な人
2. 相手の身になって考えることができ、周囲と積極的に協力し合える人
3. 目標に向かって粘り強く、自ら進んでチャレンジできる人
4. 将来助産師として社会に貢献できる意欲のある人
5. 社会に対し積極的に関わり、専門職としての役割を果たし、地域医療、国際貢献に意欲のある人

国際文化研究科(修士課程)の三つのポリシー

国際文化研究科国際文化システム専攻(修士課程)は、グローバル化、情報化が進展する国内外の諸課題に対応できる高度専門職業人および研究能力を有する人材を育成します。

I ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与方針)

▶ 国際文化研究科国際文化システム専攻(修士課程)は、以下の能力を身につけた大学院生に修士(国際文化)の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性に支えられた高度な研究能力
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続ける生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な文化と視点を理解・尊重し、自らの研究成果を明晰に表現する力

II カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施方針)

▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性に支えられた高度な研究能力を育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての学生を対象として、修士論文の中間評価を行うとともに、修士論文審査に合格することを修了の条件とする。
4. 国際的かつ学際的な広い視野と洞察力を持って問題を解決するために、総合的・科学的に取り組むことができる高度な能力を養うことを目的として、「共通科目」および以下の各領域の「教育研究領域科目」を配置する。

【言語文化教育研究領域】

沖縄と日本に加え、環太平洋地域(アジア、中南米、北米地域)の言語と文化を探求する人材を養成するための科目等を配置する。

【社会制度政策教育研究領域】

グローバル化、情報化が進展する国内・国際社会において、広い視野と洞察力を持って問題を解決する人材を養成するための科目等を配置する。

【経営情報教育研究領域】

グローバルな立場から地域社会や国際社会の問題を俯瞰的・客観的に分析し、地域の経済、産業、情報化を担う人材を養成するための科目等を配置する。

【観光環境教育研究領域】

観光に関する学術的な研究を通じて、沖縄をはじめとする諸地域が直面する問題に総合的かつ科学的に取り組む人材を養成するための科目等を配置する。

【健康科学教育研究領域】

国際的かつ学際的な視野と人間の健康に関する総合的な知識・技能を養うとともに、自立的・創造的な研究に取り組む人材を養成するための科目等を配置する。

III アドミッション・ポリシー(入学受入方針)

▶ 国際文化研究科国際文化システム専攻(修士課程)の教育目標を達成するために、本研究科に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 強い研究意欲を有し、何事にも主体的に取り組む姿勢を持っていること。
2. 専門分野の基本的な研究手法を活用し、現代社会の課題を正確に理解・分析したうえで、その結果を様々な方法で創造的に表現できること。
3. 本研究科教育課程で学ぶために必要な基本的知識・技能を有すること。

なお、各教育研究領域では次のような人材を求める。

【言語文化教育研究領域】

言語を中心とする人間の文化に関する独創的な研究を計画し遂行することを目的とし言語や文化の領域でグローバルな視点から貢献できる人材

【社会制度政策教育研究領域】

グローバル化が進展する現代社会を背景にして、国内諸問題に関心を寄せ、歴史、政治、経済、法律、国際関係などの視点から究明し、その解決策を提言する政策立案者、研究者を目指す人材

【経営情報教育研究領域】

専門的職業人として地域の経済、産業、情報化、人材育成に貢献できる高い研究意欲を有する人材

【観光環境教育研究領域】

観光を文化、亜熱帯性・海洋性・島嶼性に関する環境、政治経済の視点から総合的に研究するために、観光学についての基盤となる知識を有する人材

【健康科学教育研究領域】

人間の健康とスポーツの諸科学についての基本的な理解と、今後の展開について考究し、地域社会や国際社会の健康に関して、健康科学の視点から学術的に探求できる人材

看護学研究科(博士前期課程)の三つのポリシー

看護学研究科看護学専攻(博士前期課程)は、健康問題を創造的に解決できる専門性の高い看護実践能力と教育研究能力を有する人材を育成します。

I ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与方針)

▶ 看護学研究科看護学専攻(博士前期課程)は、以下の能力を身につけた大学院生に修士(看護学)の学位を授与します。

1. 科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力
2. 地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探求する生涯学習力
3. 地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し、多職種と協働し看護を実践する能力
4. グローバルな視野で、看護の役割を創造する能力

II カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施方針)

▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 看護専門職として実践・研究を遂行するにあたり、基盤となる批判的・論理的思考力を育成するために、共通必修科目と共通選択科目を配置する。
2. 看護実践および研究の質の向上に資する専門科目を配置し、志向する専門分野(基盤看護学分野、臨床看護学分野)における看護学の専門性を探求する能力を育成する。
3. 研究方法、研究デザイン、研究計画等、研究に必要な基礎を修得する演習科目(専門演習)および修士論文を作成する研究科目(特別研究)を配置する。
4. 修士論文の中間評価を行うとともに、修士論文審査に合格することを修了の条件とする。

III アドミッション・ポリシー(入学受入方針)

▶ 看護学研究科看護学専攻(博士前期課程)の教育目標を達成するために、本研究科に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 看護学の発展に向けて、自ら進んで取り組む意欲と探求する姿勢を持っていること。
2. 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズに応えるため、高度な知識、看護実践能力および研究能力の習得を目指していること。
3. 看護実践・教育・研究を通して地域社会や国際社会に貢献する意思を持っていること。
4. 本研究科教育課程で学ぶために必要な基本的知識・技能を有していること。

国際文化研究科(博士後期課程)の三つのポリシー

国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)は、普遍的研究課題に取り組み、その成果を生かし研究者として活躍する能力を有する者及び専門分野に加えて環太平洋地域に関する幅広い学識と国際感覚を有する者の養成を目指します。

I ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与方針)

▶ 国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)は、以下の要件を満たした大学院生に博士(国際地域文化)の学位を授与します。

1. 国際地域文化という観点から、高度の外国語運用能力を駆使し、沖縄(琉球)・アジアと(ハワイを含む)南北アメリカに特化した環太平洋の地域文化の研究を行い、地域社会や国際社会において活躍できる能力を有すること。
2. 本学が立脚する琉球・沖縄の歴史や文化の研究を深化し、その成果を沖縄の地域創生に役立て、国内外の学生や研究者との共同研究を通じて国際感覚を磨くとともに、先端的な理論と知識を創造する能力を有すること。

II カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施方針)

▶ ディプロマ・ポリシーで示した能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 「国際」「地域」「文化」を基本理念としてカリキュラムを編成し、高度の外国語運用力を含む研究能力を備えた研究者を育成する。
2. 総合的な判断能力を育成し、グローバルと地域の視点を備えた研究者を育成するために、研究分野間の学際的な連携を図る。
3. 博士の学位にふさわしい高度な専門知識と学識の習得及び研究遂行能力の醸成を目的に共通科目を編成する。
4. 専門科目は、複数の専門分野に関連する研究課題にも応用できる研究能力を醸成することを目的に、沖縄(琉球)・アジア研究及び(ハワイを含む)南北アメリカ研究に関する専門科目及び関連科目により編成する。
5. 博士論文執筆のための指導を行う研究指導科目を編成する。

Ⅲ アドミッション・ポリシー(入学受入方針)

▶ 国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 環太平洋の地域及び文化的課題に関して、課題解決に向けて理論的分析及び評価を行うための修士課程修了程度の専門的知識と研究能力を有していること。
2. 高度な外国語運用能力及び総合的判断力を有し、他者との対話を通して現代社会の課題を理解・分析した上で、研究成果を多様な方法で表現する能力を有すること。
3. 多様な文化と視点を理解・尊重し、自らの研究成果を明晰に表現する能力を有すること。

看護学研究科(博士後期課程)の三つのポリシー

看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)では、沖縄の歴史や文化に根差したケアリングの理解をもとに、人々の健康と生活の質向上のための看護学研究を自律して行い、看護学の発展に寄与する高度な研究能力を有する教育研究者の育成を目的とします。

I ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)

▶ 看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)は、以下の要件を満たした大学院生に博士(看護学)の学位を授与します。

1. 高い倫理観と論理的思考力を持ち、看護学の発展・深化に寄与する研究を自律して行うことのできる能力を有している。
2. 生涯に渡り自己研鑽し、高度な専門的知識と教育指導力を持って次世代の看護職を育成できる能力を有している。
3. 沖縄の歴史や文化に根差したケアリングの理解をもとに、人々の生活及び地域のニーズに添った保健・医療・福祉の発展に貢献できる能力を有している。
4. 看護の専門性を追究し、看護ケアが提供される場における多様かつ複雑な要因の解明ができ、看護実践の改善・改革に取り組むことができる能力を有している。

II カリキュラム・ポリシー(教育課程編成針)

▶ ディプロマ・ポリシーで示した能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 看護実践並びに看護学の発展に寄与する教育研究者の養成に必要な基盤となる要素を学習し、自律して研究を計画・実施できるように、「看護学研究特論」「看護教育学特論」を必修の共通科目として設定する。
2. 沖縄の歴史や文化に根ざしたケアリングの理解をもとに、地域課題の特性を学習し、社会のニーズに対応できるように「沖縄のケアリング文化と看護」を必修の共通科目として設定する。また、「沖縄の保健看護政策特論」を必修の共通科目として設定する。
3. 生体内外の環境の変化及び調節機構を評価する指標や科学的エビデンスに基づいた看護実践を開発できるように「生体環境看護科学特論」を選択必修の共通科目として設定する。
4. 生涯にわたり高度な専門性をもって教育・研究活動を行い、専門性の高いケアが実践できるように、「基盤看護学分野」として「看護キャリア開発学特論」を、「応用看護学分野」として、「がん看護学特論」、「育成健康看護学特論」を、「生活支援看護学分野」として「地域包括看護学特論」、「精神保健看護学特論」を選択必修の専門科目として設定する。
5. 看護の専門性を追究し、看護の発展に寄与する優れた学位論文を計画的に遂行し作成するために「看護学特別研究」を設定する。

Ⅲ アドミッション・ポリシー(入学受入方針)

▶ 看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 地域文化への強い関心を持ち、これまでの看護実践活動と研究成果から取り組むべき研究課題を見出し、研究を通して、看護学の発展や地域・社会に貢献しようとする意思を有している。
2. 看護専門職として必要な教養と倫理観、語学力や看護学に関する知識・技術を持ち、これまでの看護研究及び経験を通して培った基礎的研究能力を有している。
3. 論理的思考力と柔軟な発想を持ち、さまざまな課題を解決して真理を探究し、継続的に自律して研究を実践する強い意思を有している。

名桜大学の教育目標

本学は、教育基本法および学校教育法に基づき深く専門の学芸を教授研究し、幅広い知識を授け、世界の文化の進展と人類の平和に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

教養教育の目標

自由な発想のもと、批判的・論理的に思考し分析して、俯瞰的に問題を解決する能力を培うとともに、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を備えた国際的教養人を育成することを目標とする。

共通コア科目の目標と科目群

共通コア科目は、大学で学ぶことの意義について考えるとともに、市民的生活のために必要となる基盤を形成することを目標とする。

科目区分	目標	科目
アカデミックスキル	アカデミックスキル科目は、大学生活に適應し、学習意欲を向上させ、主体的に学ぶための基礎的なスキルを修得することを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・教養演習Ⅰ～Ⅱ ・コンピュータ・リテラシー ・アカデミックライティングⅠ～Ⅱ ・アカデミックスキル特別講義 ・数理・データサイエンス・AI 入門
ライフデザイン	ライフデザイン科目は、学生が主体性と創造性を持ち、大学で学ぶことの意義を理解し、生涯の生活設計を描き、実現するために必要な知識や方法を修得することを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学と人生 ・キャリアデザイン ・プロジェクト学習 ・ライフデザイン特別講義
思想と論理	思想と論理科目は、ひとつの視点にとらわれることなく、批判的・論理的に思考し分析して、俯瞰的に問題を解決する能力を培うことを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・人間と環境 ・生命と倫理 ・科学入門 ・論理学 ・現代思想 ・思想と論理特別講義
沖縄理解	沖縄理解科目は、自らが生活する沖縄の歴史、文化、社会、自然を理解し、国際人として情報を発信できる能力を養うことを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄学 ・沖縄の自然 ・沖縄の言語 ・沖縄理解特別講義
健康スポーツ	健康スポーツ科目は、健康・体力を増進するための健康科学に関する知識やその実践能力を獲得し、精神的及び身体的にバランスのとれた人間性を有する人材の育成を目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育実技Ⅰ～Ⅱ ・健康・スポーツ科学 ・健康スポーツ特別講義 ・健康スポーツ特別実技

共通選択科目の目標と科目群

共通選択科目は、ひとつの視点にとらわれることなく、人間存在の成り立ちを基本から考察し、平和の価値についての理解を深め、目的実現のために主体的に行動し、国際化社会の中で問題解決能力を養うことを目標とする。

科目区分	目標	科目
外国語	外国語科目は、グローバル化する社会の中で、外国語を理解し、異文化理解やコミュニケーション能力を身につける情報を発信できる基礎的な学力の修得を目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ベーシック・イングリッシュ ・イングリッシュ・コミュニケーション ・アカデミック英語基礎 ・ドイツ語Ⅰ～Ⅱ ・フランス語Ⅰ～Ⅱ ・スペイン語Ⅰ～Ⅱ ・ポルトガル語Ⅰ～Ⅱ ・中国語Ⅰ～Ⅱ ・韓国語Ⅰ～Ⅱ ・タイ語Ⅰ～Ⅱ ・プラクティカルイングリッシュⅠ～Ⅱ ・ビジネス英語Ⅰ～Ⅱ ・外国語特別講義Ⅰ～Ⅱ
国際理解	国際理解科目は、グローバル化、情報化する社会の中で、多様な価値観や考えを理解し、主体的に行動できる資質を身につけることを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・国際学入門 ・異文化接触論 ・国際社会と日本 ・人権と平和 ・国際コミュニケーション論 ・海外スタディツアー ・国際理解特別講義
人文科学	人文科学科目は、人間と文化の歴史及び人間としてのあり方や生き方を理解し、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を形成する上で必要な知識を身につけることを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の歴史と鑑賞 ・美術の歴史と鑑賞 ・哲学 ・心理学 ・歴史学 ・教育学 ・ヒューマンケアリング ・文学 ・人文科学特別講義
社会科学	社会科学科目は、様々な角度から社会のしくみを理解し、社会の一員であることの自覚と責任感を持ち生きていく力を涵養することを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・法学 ・憲法 ・政治学 ・経済学 ・経営学 ・社会学 ・人文地理学 ・社会科学特別講義
自然科学	自然科学科目は、自然や物の成り立ちについて理解し、論理的に思考する能力を身につけるとともに、情報化する社会に参画する知識を養うことを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・数学 ・統計学 ・物理学 ・化学 ・生物学 ・地学 ・情報科学と社会 ・自然科学特別講義

リベラルアーツ機構は、豊かな感性と知性を持った円満な人格形成を目指す「名桜大学型リベラルアーツ教育」を推進し、多様化する学生のニーズに対応するリベラルアーツ教育プログラムの開発・運用および学習支援を図ることを目的として平成27年に開設した。

リベラルアーツ機構の業務内容

リベラルアーツ機構の目的を達成するために(1)全学的な教養教育課程の運営、(2)全学的な学生の教育交流の実施、(3)全学的な学習支援の実施、(4)全学的な教養教育方法の改善、(5)全学的な教養教育課程の運営並びに学習支援実施の自己点検・評価、(6)全学的な教養教育課程の学年暦、時間割編成、登録等の手続き、(7)リベラルアーツ機構および学習支援センターの運営、(8)学生会館SAKURAUM運営に係る連絡調整などを行うとともに、学習支援を行う言語学習センター、数理学習センター、ライティングセンターを設置し運用している。

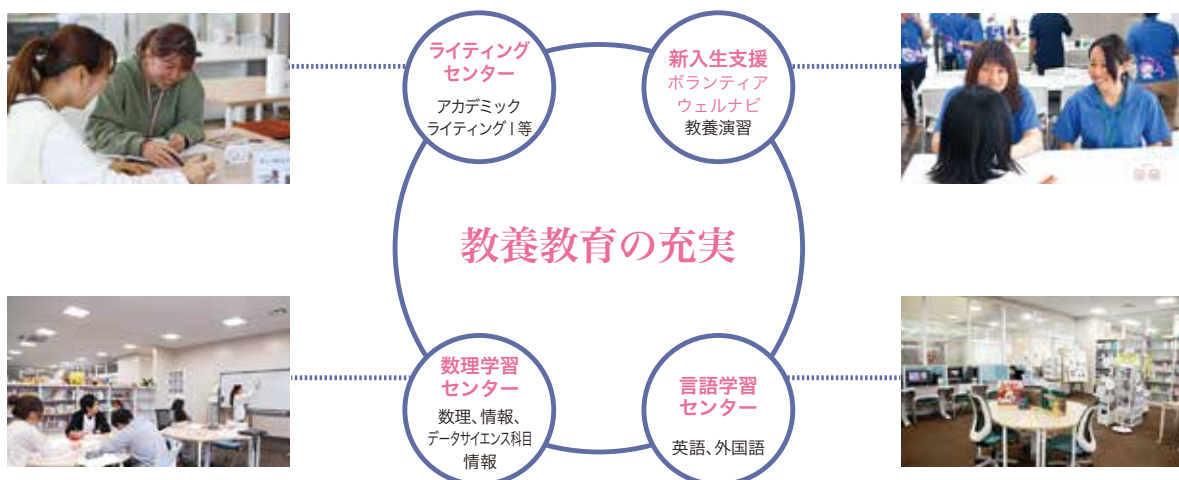
また、機構の活動の拠点を学生会館SAKURAUMに置き、教養教育の運営、学習支援センターの運営、学習環境づくりのマネジメントが連携できる体制を整えています。

教育スタッフ

令和5年5月1日現在

リベラルアーツ機構	機 構 長	佐久本 功達 教授(人間健康学部所属)
	副 機 構 長	山城 智史 上級准教授(国際学部所属)
言語学習センター	セ ン タ ー 長	山城 智史 上級准教授(国際学部所属)
	副センター長	木村 安貴 上級准教授(人間健康学部所属)
数理学習センター	セ ン タ ー 長	立津 慶幸 上級准教授(人間健康学部所属)
	副センター長	高安 美智子 教授(人間健康学部所属)
ライティングセンター	セ ン タ ー 長	大峰 光博 上級准教授(人間健康学部所属)
	副センター長	坪井 祐司 上級准教授(国際学部所属)

学内資源との連携強化



リベラルアーツ機構は教養教育カリキュラムや学習支援プログラムの開発と運用に力を入れている。具体的には、新入生の学力把握(新入生学力調査)、GPA制度の実質化、授業評価アンケートに基づくカリキュラムの評価・点検を、科目責任教員とともに推進し、また、教養教育を担う教員用のFD(ファカルティ・ディベロップメント)や、専任講師と非常勤講師との連携の場をつくることに力を入れている。通常の授業時間だけでは十分な教育効果は保証されないため、先輩・後輩コミュニティを活用した学習支援・学生支援プログラムの開発と運用、そしてTA・SA制度の点検・改善を積極的に行い、着実に教養教育および学習支援のPDCAサイクルを運用することが目標となっている。



言語学習センター(通称: LLC)は、学生チューターが中心となって外国語習得のサポートを行っている。英語・中国語・日本語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語の授業連携をはじめ、他にもドイツ語、タイ語、フランス語等の辞書やテキストを揃え、学生の自主学習の場を提供している。

また、学生チューターが外国語の担当教員と協働し、授業連携(課題や予習・復習)やワークショップを行い、授業のサポートや学生自身の学びの場を提供している。大学全体で国際的な雰囲気を作り、より多くの学生が外国語習得に興味を持ち、成功することを目標としている。この目標を達成するために、言語学習センターでは学生チューター向けにチュータートレーニングを毎週実施し、チュータリングスキルと各言語の専門的スキルを高めている。第二言語を習得した学生チューターたちがその知識と経験を活かし、名桜大学における国際的教養人の育成のサポートに関わっている。



数理学習センター(通称: MSLC)は、数理・情報・データサイエンス科目の授業と連携することで、学生チューターが中心となり在学生の数理能力向上を支援する学習センターである。

チューターはお互いの数理能力と社会人基礎力の向上および質の高い運営を継続するために、センター教職員協働でチューター育成プログラムの工夫・改善に努め、毎週トレーニングを行っている。

MSLC では、数理・情報・データサイエンス系教科書、参考書、問題集の他、SPI 問題集や公務員試験対策問題種等を取り揃えており、施設内で自習しながらチュータリングを受けることもできる。

また、SPSS が使える PC の他、iPad やノートパソコンが備え付けられており、卒業研究の資料作りなどにも利用できる。



名桜大学ライティングセンター(通称: MWC)は、レポートや論文といった文章の作成をサポートする学習支援センターとして 2016 年度に開室した。全学学生あるいは教職員を対象とし、様々な領域にまたがる文章の論理的構造と論文作成法の習得を支援することで、対象者の発信力を強め、学術的文章を書く力を育てることを目的としている。

この目的を達成するために、MWC では書き手と支援者(チューター)が一对一のチュータリングを通して支援していく。MWC におけるチュータリングの基本姿勢は、書き手との対話を重視し、書き手の考えていることを聞き、書き手が表現したい文章と一緒に考えていくことである。ただし、自分の書いた文章に責任を持ってもらうため、チューターは、提案を行っても、最終的な判断は書き手に任せている。このように、MWC は書き手が 1 人になったときでも、文章をよりよく直せるように支援していく。「書き手の自立を目指す」ことを第一に考え、持ち込まれた文章を添削するのではなく、書く過程の様々な段階でアドバイスをし、書き手自らの書く力を養うことを目指している。

現在 MWC では、在学生だけでなく、入学予定者に対する入学前特別講座(ライティング)も実施し、その活動範囲を広げている。

その他、学生支援機関

メディアネットワークセンター(MNC)

平成13年6月開設



Media Network Center (通称 MNC) では、情報関連技術を用いて本学の教育・研究に係る情報処理の高度化を推進している。学内外のネットワーク監視を行い、安全かつ安定したネットワーク環境の提供を実現している他、PC・ソフトウェア操作指導や導入に係る検討を行っている。

また、「アクティブラーニング教室」を設置し、PC やタブレットの貸出、大型モニターを使用し、プレゼンテーションが行える環境を整え、自主学習の推進を行っている。

教員養成支援センター 本部棟 2階

平成18年7月開設



教員養成支援センターでは、教職経験豊かなスタッフが教職を希望する学生の支援活動を行っている。1年次から4年次までの体系的な教員養成プログラムを提供し、教育現場に適応した質の高い教育実践者の育成をめざしている。センター内には、教員採用試験対策の関連書籍や教育関連図書等を揃えている。

名桜ウェルナビ(ウェルカムナビゲーション) 学生会館 SAKURAUM 4階

平成19年4月開設



ウェルカムナビゲーション(通称 名桜ウェルナビ)は、2年次から4年次の学生ボランティアで構成される新入生支援組織である。主に新入生支援、学内イベントの企画・運営を学生目線で行っている。新入生支援は先輩学生が実際の学校生活での経験をもとに履修や学生生活全般についての相談、教養演習のボランティアチューター、入学式やオープンキャンパスといった学校行事のスタッフ、北部地域の自然環境を活かしたイベントなどを行い、年次・学科間交流を図るとともに学生生活の更なる向上を目指している。



地域社会及び国際社会への深い理解をそなえた人材の育成

平和・自由・進歩の建学の精神に基づいた幅広い教養と地域社会及び国際社会への深い理解をそなえた有為な人材を養成する。

国際文化学科

取得できる免許

- 中学校・高等学校教諭
一種免許（英語）

取得できる資格

- 日本語教育
（日本語教師養成課程）修了証

国際観光産業学科

取得できる免許

- 高等学校教諭一種免許
（地理・歴史）
- 高等学校教諭一種免許
（商業）

取得できる資格

- 観光実務士
- 総合旅行業務取扱管理者
- 国内旅行業務取扱管理者
- 旅程管理主任者
- 観光英語検定
- 地域通訳案内士
- キャンプインストラクター

現地実習・インターンシップ(派遣実績推移)

1. 現地実習派遣学生数(人)

コース	年度	1996~2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
		平8~平25	平26	平27	平28	平29	平30	令元	令2	令3	令4	
中南米コース		681	8	—	ポルトガル語コース 2	ポルトガル語コース 0	ポルトガル語コース 5	ポルトガル語コース 4	ポルトガル語コース 11	ポルトガル語コース 9	ポルトガル語コース 13	757
					スペイン語コース 5	スペイン語コース 7	スペイン語コース 4	スペイン語コース 8	スペイン語コース 8	スペイン語コース 11	スペイン語コース 9	13
アジアコース		288	7	東アジアコース 6	東アジアコース 6	東アジアコース 18	東アジアコース 16	東アジアコース 10	東アジアコース 12	東アジアコース 0	東アジアコース 8	417
				東南アジアコース 5	東南アジアコース 5	東南アジアコース 2	東南アジアコース 0	東南アジアコース 12	東南アジアコース 4	東南アジアコース 9	東南アジアコース 8	8
英語圏コース		139	6	3	6	2	3	11	0	0	0	170
沖縄・日本コース		135	13	10	7	5	15	7	14	13	7	226
日本コース		—	12	4	5	1	8	5	14	15	12	76
国際協力コース		16	8	13	14	8	12	9	5	8	16	109
教育支援コース		9	11	7	10	4	3	8	7	22	6	87
合計		1,268	65	49	60	47	66	74	67	76	70	1,842

※国際学部国際文化学科（～H20年度）・国際学群（H21年度～）

2. インターンシップ派遣学生数(人)

派遣地	年度	1996~2012	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
		平8~平25	平26	平27	平28	平29	平30	令元	令2	令3	令4	
県内企業・事業所等		2,334	130	131	110	62	127	138	117	19	2	3,252
県外企業・事業所等			20	20	12	6	8	5	9	2	0	
合計		2,334	150	151	122	68	135	143	126	21	2	3,252

※国際学部経営情報学科・観光産業学科（～平成20年度）、国際学群（経営専攻、情報システムズ専攻、診療情報管理専攻、観光産業専攻。平成21年度～）

3. 海外インターンシップ派遣学生数(人)

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
2001~2013	平26	平27	平28	平29	平30	令元	令2	令3	令4	
平13~平25	平26	平27	平28	平29	平30	令元	令2	令3	令4	79
47	5	4	2	7	4	9	0	1	2	

※国際学部観光産業学科（～平成20年度）・国際学群観光産業専攻（平成21年度～）

国際学部 教員

令和5年10月1日現在

学部長 仲尾次 洋子

国際文化学科

教授 渡慶次 正則、嘉納 英明、高嶺 司、板山 勝樹、小番 達、ノーマン・フィーウェル、小嶋 洋輔、照屋 理

上級准教授 屋良 健一郎、坪井 祐司、山城 智史、メーガン・クックルマン

准教授 上原 なつき、当銘 盛之、半嶺 まどか、李 夢迪、長尾 直洋、志田 淳二郎、麻生 玲子、清水 美里、玉城 福子、林 智昭

国際観光産業学科

教授 宮平 栄治、新垣 裕治、金城 亮、田代 豊、仲尾次 洋子、林 優子、大城 渡、大谷 健太郎、東恩納 盛雄

上級准教授 宮城 敏郎、許 点淑、伊良 皆 啓、柳 銀珠、卯田 卓矢

准教授 大城 美樹雄、タン エンハイ、上原 明、小山 聖治

国際文化学科

アジアの中心地、沖縄で、環太平洋地域の文化を学び、世界規模でも、国内でも活躍できる人材を育てます。



目指す進路・就職先

- 在外公館職員
- 中学校・高等学校教諭
- 日本語教師
- 公務員
- 国内外の大学院への進学
- ホテル
- 航空会社
- 国内外のNGO・NPO法人

教育の特色

本学科では自らが生活する沖縄・日本を探究しながら、アジア・中南米・欧米の歴史や言語・文化を学び、国際社会への理解を深めます。また、語学力を磨くとともに、日本文学・英語文学を通して「ことば」の奥深さを知り、日本語・英語の話者・教育者としての力を身につけます。そのような本学科での学びによって、多様な文化を理解し、諸言語を使いこなして日本・世界で活躍する人材を育成します。

1 多様な学問分野で世界に触れる

国際関係・文学・歴史学・言語学・文化人類学をはじめとする多様な学問を学ぶことができます。様々な切り口で自らの生きる地域や国際社会を見つめ、考える力を育みます。

2 実習科目で国内外での実践的な学びを

海外(英語圏・アジア・中南米)および国内で実習を行う科目を配置しています。座学で得た知識や語学力を現場で活用し、学びを深めます。

3 国内外の協定校で交換留学

国内はもちろん、中南米・アジア・欧米の協定大学との交換留学ができます。講義で学んだ語学力をレベルアップさせるだけでなく、様々な国の学生とともに学び、多彩な文化にふれることで、人間力も磨くことができます。

学士(国際文化学)

国際観光産業学科

観光立県沖縄で、国際的な視野と専門性を有する人材を育成します。



目指す進路・就職先

- 航空業
- 宿泊業
- 交通・運輸業
- 旅行業
- 観光施設
- 観光ガイド
- 行政職
- 観光関連団体
- 環境調査
- 流通業
- 製造業
- 金融業(銀行・証券)
- 大学院進学など

教育の特色

観光産業は、宿泊業や旅行業などの観光関連業に加え、歴史・文化、自然や健康、交通・運輸など、幅広い要素をもつ裾野の広い産業です。近年は、国際化の進展、ライフスタイルの多様化などにより観光旅行が盛んになるとともに、地域振興の一環として観光振興が各地で取り組まれています。このような中、有数の観光地に立地する特徴を生かし、国際観光産業学科では、観光政策、観光経営、観光文化・環境の3コースを設け、産官学連携のもと自然豊かな「やんばる」での教育・研究活動を通して、国際社会や地域の発展に貢献するリーダーや観光振興を通して社会の発展に寄与する人材の育成に努めます。

1 多角的・多面的に観光を学ぶ

観光は複雑な社会現象であることから、その理解のためには多角的・多面的にとらえることが重要です。名城大学では、観光学をはじめ自然・文化・地理・経営等と幅広い分野の教授陣があなたの学びをサポートします。

2 産学官連携を通してより実践的に学ぶ

観光が盛んな沖縄本島北部に立地することから、地域や企業等との連携を通して実践的な人材育成を図っています。この立地を生かしたフィールドワークに加え、海外インターンシップやホテル実務等の科目を通して現場での実習のチャンスもあります。

3 国内外の協定校で交換留学

国内に加え、中南米・アジア・欧米の協定大学との交換留学ができます。講義で学んだ語学力をレベルアップさせるだけでなく、様々な国の学生とともに学び、多彩な文化にふれることで、人間力も磨くことができます。

学士(国際観光産業学)

専門基礎科目

人文科学系科目

- 日本語理解論
- 日本史概論
- 日本文化概論
- 文化人類学
- 人間関係論
- 日本語表現論
- 世界史概論
- 比較芸術論
- 比較宗教論
- 初級英作文
- 中級英語オーラルコミュニケーション
- 中級英作文
- 英文法
- 漢文学概論Ⅰ
- 言語と文学
- 比較思想論

社会科学系科目

- 経営統計学
- 観光学概論
- 地域研究方法論
- 社会調査法
- 経営情報論
- 地域社会論
- 社会心理学
- 経済学総論
- 倫理学

自然科学系科目

- コンピュータ概論
- 情報処理論
- 情報化社会論
- 自然保護論
- 沖縄の天然記念物
- 島嶼環境論
- 情報と職業

専門発展・応用科目

地域文化系科目

- 沖縄の社会
- 沖縄の社会と教育
- 沖縄地域文化論
- 沖縄の地域史
- 日本の歴史Ⅰ
- 日本の歴史Ⅱ
- 日本史料講読
- 日本の社会
- 日本の宗教
- 地誌学
- 自然地理学概論

国際文化系科目

- アジアの歴史
- アジアの文化
- アジアの文学
- アジアの言語
- アジアの宗教
- アジアの政治と社会
- 中南米の歴史
- 中南米の文化
- 中南米の社会
- 中南米の文学
- 中南米の言語
- 移民と異文化
- 比較映像文化論
- 世界の歴史

国際学系科目

- 国際関係論
- 国際政治論
- 国際機構論
- 国際法
- アメリカ政治外交論
- 日米関係論

英語・英語文学系科目

- 英語音声学
- 言語学概論Ⅰ
- 言語学概論Ⅱ
- 理論言語学講読
- 応用言語学講読
- 英語学概論
- 小学校英語教育教授論
- 準高等英語リスニング
- 高等英語リスニング
- 準高等オーラル・コミュニケーション
- 高等英語オーラル・コミュニケーション
- 準高等英語講読
- 高等英語講読
- 準高等英作文
- 高等英作文
- 英米文化概論Ⅰ
- 英米文化概論Ⅱ
- 英語リサーチ・ライティング
- イギリス文学
- アメリカ文学
- 英語文学講読
- 外書講読
- ディベート
- 通訳技法
- 異文化コミュニケーション論

日本語・日本文学系科目

- 日本語学概論
- 日本語学史
- 琉球語学概論
- 現代日本語論
- 日本語教授法
- 日本古典文学概論
- 日本古典文学史
- 日本古典文学論
- 日本近代文学概論
- 日本近代文学史
- 日本近代文学論
- 南島歌謡
- 沖縄の文学
- 漢文学概論Ⅱ
- 書写・書道概論

実践科目

- 地域文化演習
- 現地実習
- 教育支援演習
- 教育支援実習
- 日本語教育実践演習

特別講義

- 国際学部特別講義
- 国際文化特別講義Ⅰ
- 国際文化特別講義Ⅱ
- 国際文化特別講義Ⅲ
- 国際文化特別講義Ⅳ

演習科目

- 国際文化基礎演習
- 国際文化専門演習Ⅰ
- 国際文化専門演習Ⅱ
- 国際文化専門演習Ⅲ
- 国際文化専門演習Ⅳ
- 国際文化専門演習Ⅴ

合計

国際文化学科の総科目数221科目
(教養教育科目81科目、
外国人留学生対象科目21科目含)

学位

学士(国際文化学)

学位の分野

文学関係

卒業要件及び履修方法

教養教育科目 42単位以上
専門教育科目 66単位以上
自由選択科目 16単位以上
卒業要件単位数 合計124単位以上

授業期間等

1 学年の学期区分 2学期
1 学期の授業期間 15週
1 時限の授業時間 90分

国際観光産業学科専門教育科目一覧 (令和5年度入学者適用)

Subject List for The Department of International Tourism management

専門基礎科目

人文科学系科目

- 日本語理解論
- 日本史概論
- 日本文化概論
- 文化人類学
- 人間関係論
- 日本語表現論
- 世界史概論

社会科学系科目

- 経営統計学
- 観光学概論
- 観光学総論
- 地域研究方法論
- 社会調査法
- 経営情報論
- 地域社会論
- 倫理学
- 経営学総論
- 簿記原理
- ミクロ経済学
- 民法と市民生活
- マクロ経済学
- 経済学総論
- 社会心理学

自然科学系科目

- コンピュータ概論
- 情報処理論
- 情報化社会論
- 自然保護論
- 沖縄の天然記念物
- 島嶼環境論
- 情報と職業

専門発展・応用科目

観光地形成科目

- 観光事業論
- 観光開発論Ⅰ
- 観光開発論Ⅱ
- 観光政策論
- 西欧経済史
- 地域経済学
- 観光経済学
- 地誌学
- 観光地理学
- 観光資源論
- 自然地理学概論
- 観光行動論
- 観光心理学
- イベント事業論
- 国際コンベンションビジネス

- 観光関連法規
- 観光調査法
- ホスピタリティマーケティング論
- 観光交通論
- 沖縄観光
- レジャー・レクリエーション論
- 行政学
- 財政学
- 国際経済論
- 地方自治論
- 市場調査論
- 経済政策
- 地域マーケティング論
- 日本の歴史Ⅰ
- 日本の歴史Ⅱ
- 世界の歴史

観光文化・環境科目

- 健康と長寿
- 余暇社会学
- 地球の環境とその保全
- エコツーリズムⅠ
- エコツーリズムⅡ
- 自然観察指導法
- 環境アセスメント論Ⅰ
- 環境アセスメント論Ⅱ
- 環境調査法
- 観光文化論
- 沖縄の植物と保護
- 島嶼文化論
- 比較宗教学論
- 日本史料講読
- 日本の宗教

観光経営科目

- 観光産業論
- 交通産業論
- ホスピタリティ概論
- ホテル経営論
- ホテル計画論
- 旅行業経営論
- 旅行業法と約款
- ホスピタリティマネジメント論
- 上級簿記
- 会社法
- 流通論
- マーケティング論
- 中小企業論
- 原価計算
- 経営組織論
- 経営戦略論
- 会計学原理
- ベンチャービジネス
- 経営管理論
- 問題解決の心理学
- 人的資源管理論
- グローバル・ビジネス論
- 産業情報論
- 経営分析論
- 組織心理学
- 対人コミュニケーション論
- チームマネジメントの心理学
- 職業指導Ⅰ
- 職業指導Ⅱ

国際観光科目

- 国際観光論
- 観光実用中国語
- 観光実用韓国語
- 観光実用英語Ⅰ
- 観光実用英語Ⅱ
- アジアの歴史
- 中南米の歴史
- 外書講読

観光関連科目

- スクーバダイビング
- ウェルネス概論
- スポーツ産業論
- ゴルフⅠ
- ゴルフⅡ
- 空手
- 救急処置

実践科目

- インターンシップⅠ
- インターンシップⅡ
- 海外インターンシップ
- ホテル実務
- 観光関連実務

特別講義

- 国際学部特別講義
- 国際観光産業特別講義Ⅰ
- 国際観光産業特別講義Ⅱ
- 国際観光産業特別講義Ⅲ
- 国際観光産業特別講義Ⅳ

演習科目

- 国際観光産業基礎演習
- 国際観光産業専門演習Ⅰ
- 国際観光産業専門演習Ⅱ
- 国際観光産業専門演習Ⅲ
- 国際観光産業専門演習Ⅳ
- 国際観光産業専門演習Ⅴ

合計.....

国際観光産業学科の総科目数237科目
(教養教育科目81科目、
外国人留学生対象科目21科目含)

学位.....

学士 (国際観光産業学)

学位の分野.....

経済学関係、社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法.....

教養教育科目 42単位以上
専門教育科目 66単位以上
自由選択科目 16単位以上
卒業要件単位数 合計124単位以上

授業期間等.....

1 学年の学期区分 2学期
1 学期の授業期間 15週
1 時限の授業時間 90分

健康支援人材の育成を目指す

平和・自由・進歩の建学の精神に基づいた幅広い教養と調和のとれた知・徳・体をそなえた人材及び心身の健康を支援する有為な人材を養成する。

スポーツ健康学科

スポーツ健康学科は、健康に生きるために、人間の「からだ」と「こころ」や人間をとりまく「社会」について科学的に探究し、知・徳・体のバランスのとれた能力を備え、健康寿命の延伸に寄与できる健康支援人材を育成する。

取得できる免許

- 中・高等学校教諭一種免許（保健体育）
- 養護教諭一種免許状
- 第一種衛生管理者免許

取得できる資格

- 健康運動指導士受験資格
- 健康運動実践指導者受験資格
- トレーニング指導者（JATI）受験資格
- 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者受験資格
（共通科目免除、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー）
- 社会福祉主事任用資格

看護学科

看護学科は、人間としての尊厳・健康に生きる権利を擁護し、自己評価能力・自己教育力を身につけ、広く社会に貢献できる看護職者を育成します。

取得できる免許

- 養護教諭二種免許
 - 第一種衛生管理者免許
- ※養護教諭二種免許・第一種衛生管理者免許は
保健師資格取得後申請により取得可能

取得できる資格

- 看護師国家試験受験資格
 - 保健師国家試験受験資格
- ※保健師国家試験受験資格は選択コースのみ取得

健康情報学科

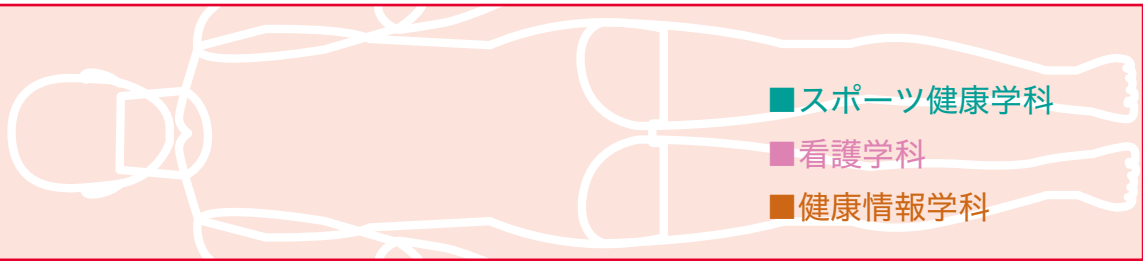
健康情報学科は、数理・データサイエンス・AIの手法を駆使し、保健・医療・福祉などを含む健康分野と社会全般に関するデータを分析することで、新たな価値やサービスの創出に貢献できる人材を育成します。

取得できる免許

- 高等学校教諭一種免許（情報）

取得できる資格

- 社会福祉主事任用資格
- 診療情報管理士受験者資格



■ スポーツ健康学科

■ 看護学科

■ 健康情報学科

人間健康学部 教員

令和5年10月1日現在

学部長 奥本 正

スポーツ健康学科

教授 小川 寿美子、高瀬 幸一、奥本 正（再掲）、平野 貴也、吉武 裕、大峰 光博、榎原 伴子、樋口 京一、金城 昇
 上級准教授 小賦 肇、遠矢 英憲、玉城 将
 准教授 石橋 千征、仲田 好邦、神田 奈津子、岡部 麻里、笠村 淳子
 助教 神谷 義人、砂川 恵子、濱本 想子、神崎園子

看護学科

教授 横川 裕美子、小西 清美、永田 美和子、大城 凌子、松下 聖子、田場 真由美、玉井 なおみ、花城 和彦、阿部 正子、流郷 千幸、平上 久美子
 上級准教授 清水 かおり、比嘉 憲枝、鬼頭 和子、村上 満子、木村 安貴、佐和田 重信
 准教授 下地 紀晴、鶴巻 陽子、伊波 弘幸、島袋 尚美、長嶺 絵里子
 助教 西田 涼子、大浦 早智、新城 慈、吉澤 龍太、安仁屋 優子、藤居 貴子、高畠 孝児
 助手 金子 有希、當山ちひろ、溝口 広紀

健康情報学科

教授 中里 収、木村 堅一、田邊 勝義、佐久本 功達、天願 健、高安 美智子、前川 美紀子、木暮 祐一、鈴木 大作
 上級准教授 アラスーン、ピーター M.、大城 真理子、本村 純、立津 慶幸、太田 佐栄子
 准教授 上門 要、島 康貴、水山 克

スポーツ健康学科

スポーツと健康の
二つの領域で活躍できる
健康支援人材を育成



目指す進路・就職先

- 中・高等学校教諭（保健体育）
- 養護教諭
- 公務員
- 医療・福祉現場などでの心理・福祉職
- スポーツ団体やトレーニング施設
- 一般企業での衛生管理職
- 大学院進学など

教育の 特色

人間の「こころ」と「からだ」を科学的に研究し、人格の尊重、生命の尊厳を指導できる資質をそなえた健康支援人材を養成します。人間理解、健康理解を基礎として、食生活・栄養、運動・スポーツ、心理、社会福祉、保健・医療の幅広い視点に立った多面的角度から「スポーツと健康」を探求・究明します。

1 自然や文化、環境を生かした授業

沖縄ならではの海洋スポーツとして、ウインドサーフィンやスクーバダイビング、伝統文化として空手、古武道、琉球舞踊など、多様な実技科目を通して実践方法や指導法について学びます。

2 多彩な実習で実践力をつける

スポーツ関連企業や地方公共団体でのインターンシップ、教員免許取得のための教育実習や養護実習など、多彩な分野での実践や実習を行い、実践力を磨きます。

3 地域の諸問題の解決に取り組む

ヘルスサポートなどの地域ボランティア活動実践の過程で、健康支援に関する様々な課題を見つけ、地域の方々とともに解決に向けての計画・実行に取り組みます。

学士（スポーツ健康学）

看護学科

沖縄の豊かなケアリングの精神を受け継いだ
創造的な看護実践者を育成



目指す進路・就職先

- 看護師・保健師（病院、診療所、保健施設、福祉施設、保育園、訪問看護ステーション、保健所、保健センター、企業の健康管理室、行政職、看護教育機関）
- 養護教諭（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等）
- 助産学専攻科進学
- 大学院進学など

教育の特色

保健医療福祉分野の高度化、複雑化に伴い、生命倫理や終末期医療・最先端医療に携わる看護師には高度な実践能力が求められています。さらに生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理性と、幅広い教養に支えられた豊かな人間性が不可欠です。看護学科は、沖縄の美しい自然に生まれた人びとの豊かなケアリングの文化を看護教育へ取り入れ、こころやさしい、そして創造的な看護実践者を育成していきます。人間や社会について興味や関心をもち、素直なところで他人の痛みや生命の尊さを感じ取る豊かな感性をもって、看護職者となる目標へ向かい、粘り強くチャレンジしていく学生を歓迎します。

1 参画型看護教育により参画力を習得

学生自らが授業づくりに参画する「参画型看護教育」を実践し、「自己との対話」「他者との対話」「地域社会との対話」を通して「個の学修目標の達成」「自己教育力の育成」をめざしています。

2 人間をホリスティックに理解する

人間が生きることの意味や人間のこころとからだの理解を基礎として、食・栄養・運動・心理・社会・福祉・保健・医療に関する専門知識を統合的に習得します。人間をホリスティックに理解する看護師、保健師をめざします。

3 生涯成長できるような自己評価力を習得

学内外でのボランティア等の様々な活動で、自身や他者、社会との対話を重ね、関わることによって自己評価能力を身につけ、看護師や保健師として生涯成長していく人材を育成します。

4 豊かな教養と高度な専門知識を統合

グローバル化に対応できるコミュニケーション力（外国語能力、母語によるライティング能力）、数理的分析能力、ICT活用能力、現代社会の諸問題を解決する能力を4年間かけて育成する教育課程を編成しています。

学士（看護学）

健康情報学科

健康分野において
新たな価値や
サービスの創出に貢献できる
データサイエンティストの育成



目指す進路・就職先

- IT関連企業、金融機関、流通業、行政職、総合病院、医療施設、ヘルスケア関連企業、官公庁自治体
- 診療情報管理士
- 高等学校教諭（情報）
- 大学院進学など

教育の特色

日常生活のあらゆる場面で登場する情報システム。情報システムは私たちの生活を支えています。健康分野をはじめとして、あらゆる業種でネットワークやデータベース、デジタルコンテンツなどの知識・技術を持った人材が求められているのです。情報システムの仕組みを理解し、数理・データサイエンス・AIの手法を駆使して保健・医療・福祉などを含む健康分野と社会全般に関するデータを分析することで、新たな価値やサービスの創出に貢献できる人材（データサイエンティスト、例えば、電子カルテに蓄積されたビッグデータを解析できる技術を備えた診療情報管理士等）を育成します。

1 健康と情報の基礎をしっかりと学習

保健・医療・福祉分野の総合的な理解に加え、数学、統計、情報、データサイエンスの基礎知識・技能をバランスよく学びます。

2 基礎から発展、さらに応用

将来の進路にあわせてヘルスデータ、データサイエンス、情報科学の領域からなる専門発展科目を学びます。さらに、社会全般に関するデータ活用を学ぶ科目として専門応用科目を学びます。

3 知識・スキルを社会で実践

専門総合科目では、教室で学んだ知識・スキルを社会の場で実践し、課題発見・解決する力を身につけます。「健康情報演習I・II（PBL）」「病院実務I・II・III」などで実践力を養成します。

4 沖縄県で唯一の受験資格認定大学

診療情報管理士の認定試験に必要な全科目を履修できるのは沖縄県で唯一、本学のみ。高い情報処理能力を有し、幅広い教養と専門的知識をもつ人材を育成します。

学士（健康情報学）

スポーツ健康学科専門教育科目一覧

(令和5年度入学者適用)

Subject List for The Department of Sports And Health Sciences

専門基礎教育科目

- スポーツ健康学総論
- スポーツ健康学演習
- ウェルネス概論
- 発育発達学
- 救急処置
- 生涯スポーツ論
- 人体機能学
- 社会福祉概論
- 医学一般
- 解剖学
- 生理学・運動生理学
- 衛生学・公衆衛生学
- 栄養学

専門教育科目

- 体育原理
- スポーツ健康学特別講義I
- スポーツ健康学特別講義II
- スポーツ健康学特別実技I
- スポーツ健康学特別実技II
- 運動学
- 体育心理学
- 体育社会学
- 体育経営管理学
- コーチ学
- トレーニング論
- 体力・健康測定と評価
- スポーツ指導論
- スポーツ栄養学
- スポーツマネジメント
- スポーツ障害と予防
- 運動処方論
- 安全管理論及び方法
- 野外教育論
- レジャー・レクリエーション論
- 空手・古武道概論
- 体育・スポーツ史
- スポーツバイオメカニクス
- 球技論
- 健康教育
- 学校保健
- 精神保健
- 養護概説
- 看護学
- 看護学基礎技術
- 学校救急看護学
- 健康相談活動の理論及び方法
- 医学一般 II
- 病理学
- 免疫学
- 微生物学
- 薬理概論
- 心の健康
- 健康心理学
- 保健衛生学
- 労働衛生学概論
- 労働法規 I
- 労働法規 II
- 介護概論
- 社会福祉援助技術
- 児童福祉
- 障害者・高齢者福祉
- グローバルヘルス
- 生理学・運動生理学演習
- 衛生学・公衆衛生学演習
- 動作学演習
- スポーツ心理学演習
- トレーニング論演習
- 海洋スポーツ演習
- 看護実習 I
- 看護実習 II
- 運動負荷試験
- 健康産業施設等現場実習
- コーチング演習
- 体づくり運動
- 器械運動
- 陸上競技
- 水泳
- バスケットボール
- ハンドボール
- サッカー
- バレーボール
- 卓球
- ソフトボール
- 柔道
- 剣道
- 空手
- 舞踊
- 琉球舞踊
- エアロビクス I
- エアロビクス II
- レクリエーション実技
- ゴルフ I
- ゴルフ II
- ウインドサーフィン
- スクーバダイビング I
- スクーバダイビング II
- スキー・スノーボード
- テーピング・マッサージ
- インターンシップ I
- インターンシップ II
- 地域ウェルネスプロジェクト
- 卒業研究演習 I
- 卒業研究演習 II
- 卒業研究演習 III
- 卒業研究演習 IV

自由選択

自由選択科目に「ライフデザイン科目」(教養教育科目)、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」及び「教職に関する科目」を含めることができる。

合計

スポーツ健康学科の総科目数206科目
(教養教育科目81科目、
外国人留学生対象科目21科目含)

学位

学士 (スポーツ健康学)

学位の分野

保健衛生学

卒業要件及び履修方法

教養教育科目	32単位以上
専門基礎教育科目	必修12単位、選択10単位、合計22単位以上
専門教育科目	必修8単位、選択52単位以上、合計60単位以上
自由選択科目	10単位以上
卒業要件単位数	124単位以上

授業期間等

1 学年の学期区分	2 学期
1 学期の授業期間	15 週
1 時限の授業時間	90 分

看護学科専門教育科目一覧

Subject List for The Department of Nursing

(令和5年度入学者適用)

専門基礎教育科目

人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進

- 解剖生理学Ⅰ
- 解剖生理学Ⅱ
- 病態生理学(含:病理学)
- 栄養・生化学
- 精神保健
- 病態治療学Ⅰ(内科系疾患)
- 病態治療学Ⅱ(外科系疾患)
- 症候学Ⅰ
- 症候学Ⅱ
- 臨床薬理学
- 微生物学

健康支援と社会保障制度

- 人間関係論
- 生涯発達論
- 家族社会学
(含:ジェンダー論)
- 医療英語
- 公衆衛生学
- 保健統計学
- 疫学
- 保健福祉行政論Ⅰ
- 保健福祉行政論Ⅱ
- 産業保健学
- 保健行動論

専門教育科目

専門分野

基礎看護学

- 看護学概論
- セルフケア論
- セルフケア援助技術
- 療養生活援助技術
- フィジカルアセスメント
- 看護実践論Ⅰ
- 看護実践論Ⅱ

地域・在宅看護学

- 地域・在宅看護学概論
- 沖縄の文化と看護
- 地域包括ケア論
- 地域・在宅看護方法論
- 島嶼・過疎地看護論

母性看護学

- 母性看護学概論
- 女性の健康科学
- 母性看護方法論

高齢者看護学

- 高齢者看護学概論
- 老年学
- 高齢者看護方法論

成人看護学

- 成人看護学概論
- 成人看護方法論Ⅰ
- 成人看護方法論Ⅱ
- がん看護論

小児看護学

- 小児看護学概論
- こどもの健康科学
- 小児看護方法論

精神看護学

- 精神看護学概論
- こころの健康科学
- 精神看護方法論

専門分野

看護の統合と実践

- 看護倫理
- キャリアデザインⅠ
- キャリアデザインⅡ
- キャリアデザインⅢ
- キャリアデザインⅣ
- 緩和ケア論

- 感染看護論
- 看護研究方法
- 卒業研究
- 看護実践と理論
- 看護マネジメント論
- 家族看護学
- グローバルナースⅠ

- グローバルナースⅡ
- グローバルナースⅢ
- 災害看護学Ⅰ
- 災害看護学Ⅱ
- 公衆衛生看護学概論Ⅰ
- 公衆衛生看護学概論Ⅱ

臨地実習

- ケアリング文化実習Ⅰ
- ケアリング文化実習Ⅱ
- ケアリング文化実習Ⅲ
- ケアリング文化実習Ⅳ
- ケアリング文化実習Ⅴ

- 基礎看護実習
- 地域・在宅看護実習
- 成人看護実習Ⅰ
- 成人看護実習Ⅱ
- 母性看護実習

- 小児看護実習
- 高齢者看護実習
- 精神看護実習
- 総合実習

保健師教育

- 公衆衛生看護学
- 公衆衛生看護活動論
- 公衆衛生看護方法論Ⅰ

- 公衆衛生看護方法論Ⅱ
- 公衆衛生看護管理論

臨地実習

- 公衆衛生看護実習Ⅰ
- 公衆衛生看護実習Ⅱ

合計.....

看護学科の総科目数191科目
(教養教育科目81科目、
外国人留学生対象科目21科目含)

学位.....

学士(看護学)

学位の分野.....

保健衛生学

卒業要件及び履修方法.....

教養教育科目	28単位以上
専門基礎教育科目	26単位以上
専門教育科目	77単位以上
卒業要件単位数	131単位以上

授業期間等.....

1 学年の学期区分	2 学期
1 学期の授業期間	15 週
1 時限の授業時間	90 分

健康情報学科専門教育科目一覧

(令和5年度入学者適用)

Subject List for The Department of Health Informatics

専門基礎教育科目

数学・情報・データサイエンス

- 健康情報数学I
- 健康情報統計I
- データサイエンス概論
- コンピュータ概論
- プログラミング基礎
- コンピュータ・グラフィックス
- データベース基礎
- 国際ネットワーク論

保健・医療・福祉

- ウエルネス概論
- 医療概論及び人体構造・機能
- 公衆衛生学
- 医療管理総論
- 疫学
- 栄養学
- 食育と健康
- 保健医療情報学
- 社会福祉概論
- 体力・健康測定と評価

専門発展科目

情報科学

- 情報処理論
- システム設計論
- プログラミング応用
- プログラミング応用演習
- アルゴリズム論
- データベース演習
- データ処理入門
- 情報化社会論
- インターネットと法
- ネットワーク技術I
- ネットワーク技術II
- ネットワークの構築と運用
- システム開発技術 (IoT)
- ウェブデザイン
- ウェブコンテンツ実践
- 情報と職業
- 経営情報論
- 産業情報論
- 情報セキュリティ

データサイエンス

- 健康情報統計II
- 健康情報統計III
- 健康情報数学II
- 健康情報数学III
- 社会調査法
- AI・データサイエンスI
- AI・データサイエンスII
- 医療・生命情報学I
- 医療・生命情報学II
- パターン認識
- 画像処理
- 自然言語処理
- 人工知能

ヘルスデータ

- 臨床医学総論及び医療用語
- 臨床医学各論I
- 臨床医学各論II
- 臨床医学各論III
- 臨床医学各論IV
- 診療情報管理論I
- 診療情報管理論II
- 医療管理各論
- 国際統計分類I
- 国際統計分類II
- 健康ビッグデータ
- デジタルヘルスコミュニケーション
- デジタルヘルステクノロジー
- デジタルヘルスイノベーション
- 医療統計学

専門応用科目

- 社会心理学
- 観光行動論
- マーケティング論
- 地域マーケティング論
- 市場調査論
- 簿記原理
- 会計学原理
- 経営分析論
- 経営戦略論
- 経営統計学

専門総合演習

- 健康情報特別講義I
- 健康情報特別講義II
- 病院実務I
- 病院実務II
- 病院実務III
- 健康情報演習I (PBL)
- 健康情報演習II (PBL)
- 健康情報専門演習I
- 健康情報専門演習II

自由選択

自由選択科目にライフデザイン科目、専門基礎教育科目、専門科目及び教職に関する科目を含めることができる。

合計

健康情報学科の総科目数186科目
(教養教育科目81科目、
外国人留学生対象科目21科目含)

学位

学位 (健康情報学)

学位の分野

工学関係

卒業要件及び履修方法

教養教育科目 32単位以上
専門基礎教育科目 20単位以上
専門発展科目 30単位以上
専門応用科目 8単位以上
専門総合科目 14単位以上
自由選択科目 20単位以上
卒業要件単位数 124単位以上

授業期間等

1 学年の学期区分 2 学期
1 学期の授業期間 15 週
1 時限の授業時間 90 分

助産学専攻科



安心して健康な子どもを
産み育てられる
地域づくりに貢献する
助産師を育成

専攻科の 特色

助産学専攻科は、沖縄の地理・歴史的文化的特性、とりわけ健康長寿社会の中で育まれた人々の豊かなケアリング文化に根ざした助産ケアを提供できる助産師の養成を目指し、地域社会の保健・医療・福祉との連携を推進することを特色とする。

養成する人材像

助産学専攻科は、以下のような人材を養成する。

- (1) 安全で質の高い助産実践能力および他職種と協働できる能力を身につけ、地域住民と相互にパートナーシップを築く存在として自己研鑽し、地域・国際社会の母子保健の発展に貢献できる助産師。
- (2) 豊かな人間性と倫理観に基づき、地域特性や対象のニーズを踏まえた適格な対応ができ、女性とその家族のライフサイクルに応じた健康支援を自律して実践できる助産師。

教育目的

助産学専攻科は、看護学を基盤に、人間の生命の尊厳を守り、人権を擁護できる豊かな人間性を培うとともに、女性、母子やその家族を全人的に理解し、寄り添い、かつ、継続的に健康教育支援ができる助産師を養成する。また、安全で質の高い助産実践能力を維持し、他職種と協働して、地域・国際社会の母子保健の発展に貢献できる自律した助産師を養成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー(学生が修了時にもつべき能力)

助産学専攻科では、以下の能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

- (1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。
- (2) 思春期の健康教育をはじめとする女性のライフサイクル各期におけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する支援ができる能力。
- (3) 離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力。
- (4) 高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助が自立してできる能力。
- (5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力。
- (6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力。
- (7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力。

取得できる資格・免許

- 助産師国家試験受験資格
- 受胎調節実地指導員申請資格
- 新生児蘇生法修了認定(Aコース)受験資格

目指す進路・修了後の進路

- 病院などの医療機関
- 助産所
- 保健所・保健センター
- 大学院進学

助産学専攻科 教員

令和5年5月1日現在

専攻科長 教授 小西 清美
准教授 長嶺 絵里子 助教 大浦 早智

教育課程編成の基本的な考え方

助産学専攻科の教育課程は、助産師国家資格取得に必要な指定規則31単位を含む「助産学基礎領域」、「助産学実践領域」、「助産学発展領域」の3つの領域で構成し、以下の編成方針及び実施方針に基づき体系的に編成する。

教育課程の編成方針

- (1) 助産学基礎領域では、生命尊重・倫理観を深めながら、沖縄のケアリング文化を理解し、保健・医療・福祉関係者との協働・連携について学ぶ。また、妊娠・分娩・産褥の経過、正常な新生児の経過や乳幼児の成長・発達における特徴及び母子の栄養や薬剤の作用について学ぶ。
- (2) 助産学実践領域では、女性の生涯を通じて、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに焦点を当てて支援する助産の基礎を学ぶ。また、妊産婦および新生児とその家族を支援する助産実践に必要な基本的診断技術を学び、継続的な母子支援の必要性を理解し、保健・医療・福祉関係者との協働・連携について学ぶ。助産学実習を通して最新の周産期医療やハイリスクへの対応を学修し、助産技術の修得や実践力を高める。
- (3) 助産学発展領域では、医療のグローバル化、高度化する周産期医療とその安全、助産管理の重要性を学び、母子とその家族の健康支援のために、科学的探究心および研究能力を培い、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を修得する。

教育課程の実施方針

- (1) 知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力、コミュニケーション力など、社会生活において必須となる汎用的な能力を育成するために、1年を通して学生主体・ディスカッションを主軸とした教育を実施する。
- (2) 助産学専攻科専任教員のほか、妊娠期における超音波診断、産科救急の初期対応、新生児の蘇生などの演習など、様々な講師による授業を展開して、充実した実習環境で助産実践力を培う。
- (3) 実習は、幅広く助産師としての技術、知識を学べる実習体制を計画して、周産期を中心とした助産実習だけでなく、地域社会、国際社会での助産師の活動や助産管理など、1年教育の中で学修する。
- (4) 獲得した専門知識や助産技術を統合し、問題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や態度を育成するために、1年を通して研究の基礎的能力を培う。

修了要件

助産学専攻科の修了要件は、専攻科に1年以上在学し、所定の単位(助産学基礎領域から7科目8単位、助産学実践領域から14科目22単位、助産学発展領域から必修3科目5単位、合計35単位以上)を修得した者について修了を認定する。

入学者の受入方針(アドミッション・ポリシー)

助産学専攻科は、本学の教育理念に共感し、自ら考え行動しようとする、以下のような学習意欲の高い人を求めます。

1. 助産に関心を持ち生命誕生に真摯に向き合える誠実な人
2. 相手の身になって考えることができ、周囲と積極的に協力し合える人
3. 目標に向かって粘り強く、自ら進んでチャレンジできる人
4. 将来助産師として社会に貢献できる意欲のある人
5. 社会に対し積極的に関わり、専門職としての役割を果たし、地域医療、国際貢献に意欲のある人

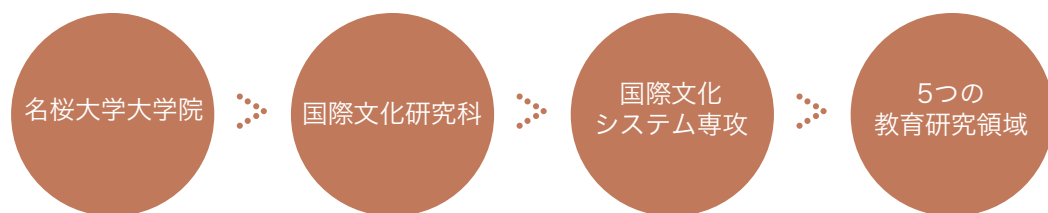
教育課程

区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び修了要件
			必修	選択	
助産学基礎領域	助産学概論	1前	1		必修8単位
	助産ケアと倫理	1前	1		
	沖縄のケアリング文化と女性	1前	1		
	生殖医学	1前	1		
	周産期医学	1前	2		
	新生児・乳児学	1前	1		
	母子の栄養・薬理学	1前	1		
小計			8		8
助産学実践領域	リプロダクティブヘルス支援	1通	1		必修22単位
	妊娠期の助産診断・技術学	1前	1		
	分娩期の助産診断・技術学	1前	2		
	産褥・新生児・育児期の助産診断・技術学	1通	2		
	周産期ハイリスクケア論	1通	1		
	健康教育技法	1通	1		
	分娩期助産演習	1前	1		
	母子の癒し援助論	1通	1		
	やんばるの母子保健	1前	1		
	助産学実習Ⅰ(妊娠期・継続ケース)	1通	2		
	助産学実習Ⅱ(分娩・産褥・新生児期)	1通	6		
	助産学実習Ⅲ(NICU)	1後	1		
	助産管理学実習	1通	1		
母子ケアリング実習(僻地・離島)	1後	1			
小計			22		22
助産学発展領域	助産管理学	1通	2		必修5単位
	国際母子保健学	1通	1		
	助産学研究	1通	2		
	小計			5	
修了要件単位数					35単位以上
助産師国家試験資格を取得する場合の最低必要単位数					35単位以上



グローバル化、情報化が進展する 国内外の諸課題に対応できる 高度専門的職業人および研究能力を有する人材を育成

本研究科では、さまざまな文化を理解する能力を持ち、国内外における地域課題の解決に必要な視野を持った高度の専門的職業人および高度の研究能力を有する人材の養成に努めている。社会人や留学生の就学環境を考慮し、昼夜開講制やセメスター（学期）制等を採用している。中学校教諭専修免許状（英語）および高等学校教諭専修免許状（英語および商業）も取得できる。



五つの教育研究領域

言語文化教育研究領域 Language and Culture	言語の特質や文化についての専門的な知識を持つ人材を育成 琉球列島や東南アジアおよび中南米諸国などの環太平洋地域および英米における特色ある言語文化と地域文化の研究を行い、言語の特質や文化についての専門的な人材を養成する。
社会制度政策教育研究領域 Social Systems and Policies	政治・経済の改革や産業の在り方について政策提言できる人材を育成 地方、国、国際社会の各レベルにおける組織の構造と機能および制度の在り方について研究し、政治・経済・法学的な立場で政策提言ができる人材を養成する。
経営情報教育研究領域 Management and Information Science	情報科学を理解し実務に応用して地域経済に貢献できる人材を育成 グローバル化、情報化、福祉化が進展しつつある社会の中で高度の情報技術を有し、産業活動を文化や福祉等の視点から理解し実務に応用して地域経済に貢献できる人材を養成する。
観光環境教育研究領域 Tourism and Environmental Science	総合科学としての観光環境を理解し地域特性を活かした国際的提言のできる人材を育成 総合科学と呼ばれる観光学を文化および自然環境の視点から、熱帯・亜熱帯性、海洋性、島嶼性等について観光政策的および環境科学的に研究し、国内外で政策提言ができる人材を養成する。
健康科学教育研究領域 Health Sciences	知識技能はもとより、ヒューマニズムを基礎とした実践力や行動力を持ち、人間と人間がおかれている環境との関係を深く理解でき、社会と自分の関わりを、人間健康科学をキーワードに探求できる人材を育成 人間の健康を科学的に究明し「こころ」と「からだ」の理解とヒューマニズムの精神を基礎に、積極的に国内外に情報を発信し、かつ社会貢献できる学際的な人材を養成する。

修了要件

- 大学院国際文化研究科の修了要件は、大学院に2年以上在学し、講義科目22単位以上、演習科目8単位の合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することとする。



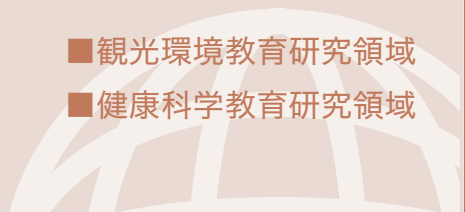
■ 言語文化教育研究領域

■ 社会制度政策教育研究領域

■ 経営情報教育研究領域

■ 観光環境教育研究領域

■ 健康科学教育研究領域



国際文化研究科 教員

令和5年5月1日現在

国際文化研究科長 嘉納 英明

言語文化教育研究領域

- 教授**
- 嘉納 英明 …… 教育学特論
 - 渡慶次 正則 …… 英語教育評価特論
 - 小番 達 …… 日本古典文学特論
 - 小嶋 洋輔 …… 日本近代文学特論
 - ノーマン・フィーウェル …… 英語教授法特論 I
 - 照屋 理 …… 琉球文学特論
- 特任教授**
- 波照間 永吉 …… 琉球・沖縄文化特論序説
 - 山里 純一 …… 琉球精神文化特論
 - 赤嶺 守 …… 中琉関係史基礎特論
 - 住江 淳司 …… 中南米文化特論
- 上級准教授**
- 屋良 健一郎 …… 日本史特論
 - 坪井 祐司 …… 東南アジア文化特論
 - メーガン・クックマン …… アメリカ詩特論

経営情報教育研究領域

- 教授**
- 宮平 栄治 …… 産業組織特論
 - 金城 亮 …… 小集団心理学特論
 - 木村 堅一 …… 社会心理学特論
 - 仲尾次 洋子 …… 会計学特論
 - 林 優子 …… 経営戦略特論
 - 中里 収 …… 情報交流特論
 - 田邊 勝義 …… 経営活動情報特論

観光環境教育研究領域

- 教授**
- 新垣 裕治 …… エコツーリズム特論
 - 田代 豊 …… 環境科学特論
 - 大谷 健太郎 …… 観光政策特論
- 上級准教授**
- 許 点淑 …… 観光文化特論

健康科学教育研究領域

- 教授**
- 小川 寿美子 …… グローバル・ヘルス特論
 - 高瀬 幸一 …… 健康・スポーツ指導特論
 - 平野 貴也 …… スポーツトレーニング・コーチング特論
 - 大峰 光博 …… スポーツ文化特論
- 上級准教授**
- 玉城 将 …… バイオメカニクス特論

社会制度政策教育研究領域

- 教授**
- 高嶺 司 …… 国際政治特論
 - 大城 渡 …… 公法学特論
- 上級准教授**
- 宮城 敏郎 …… 地域開発政策特論

共通科目	教育研究領域科目				
学術研究方法特論	言語文化研究演習 I・II 英文法特論 理論言語学特論 中南米文化特論 日本古典文学特論 琉球精神文化特論	言語学特論 I・II 英語音声学特論 比較教育文化思想特論 第2言語習得特論 日本近代文学特論 日文学特論	英語教授法特論 I・II 琉球歴史学特論 琉球文学特論 日本史特論 米文学特論 英語教育評価特論	沖縄地域文化研究特論 言語文化特別講義 I・II 中琉関係史基礎特論 アメリカ詩特論 アメリカ小説特論	地域言語学特論 I・II リサーチ方法特論 東南アジア文化特論 教育学特論 琉球・沖縄文化特論序説
人文科学特論	社会制度政策研究演習 I・II 地域活性化特論 社会制度政策特別講義 I・II	国際政治特論 I・II 経済政策特論 国際経済特論	地域開発政策特論 公法学特論 産業政策特論	都市政策特論 東アジア地域特論	地方自治特論 国際協力・ボランティア特論
政策科学特論	経営情報研究演習 I・II 小集団心理学特論 会計学特論	経営活動情報特論 人的資源管理特論 マーケティング特論	経営戦略特論 比較経営学特論 情報・通信技術特論	産業組織特論 e-ビジネス特論 経営情報特別講義 I・II	情報交流特論 情報知能特論
社会心理学特論					
環境科学特論	観光環境研究演習 I・II 異文化接触特論 島嶼生態学特論	観光開発特論 ホテル実務特論 観光文化特論	観光政策特論 エコツーリズム特論 観光調査法特論	島嶼開発特論 観光市場分析特論 観光環境特別講義 I・II	島嶼文化特論 観光資源特論
健康科学特論	健康科学研究演習 I・II 伝統武道特論 健康栄養学特論	グローバル・ヘルス特論 スポーツトレーニング・コーチング特論 社会福祉学特論	健康心理学特論 スポーツ文化特論	地域保健学特論 ヘルスプロモーション・ウェルネス特論 バイオメカニクス特論	健康・スポーツ指導特論 健康科学特別講義 I・II

大学院 看護学研究科

修士（看護学）

やんばるのケアリング文化に根ざした看護学を探究

■ 養成する人材像

本研究科は、地域に根ざし地域の健康問題を創造的に解決していく卓越した看護実践能力の養成と看護現象の解明を目的とした研究能力の開発、看護の新たな価値の創出を目指し、高度専門職業人および教育・研究者の養成を目的としている。

(1) 高度専門職業人の養成

地域の看護需要に対応して問題を解決するための指導的役割を果たす看護実践のリーダーを養成する。

(2) 教育・研究者の養成

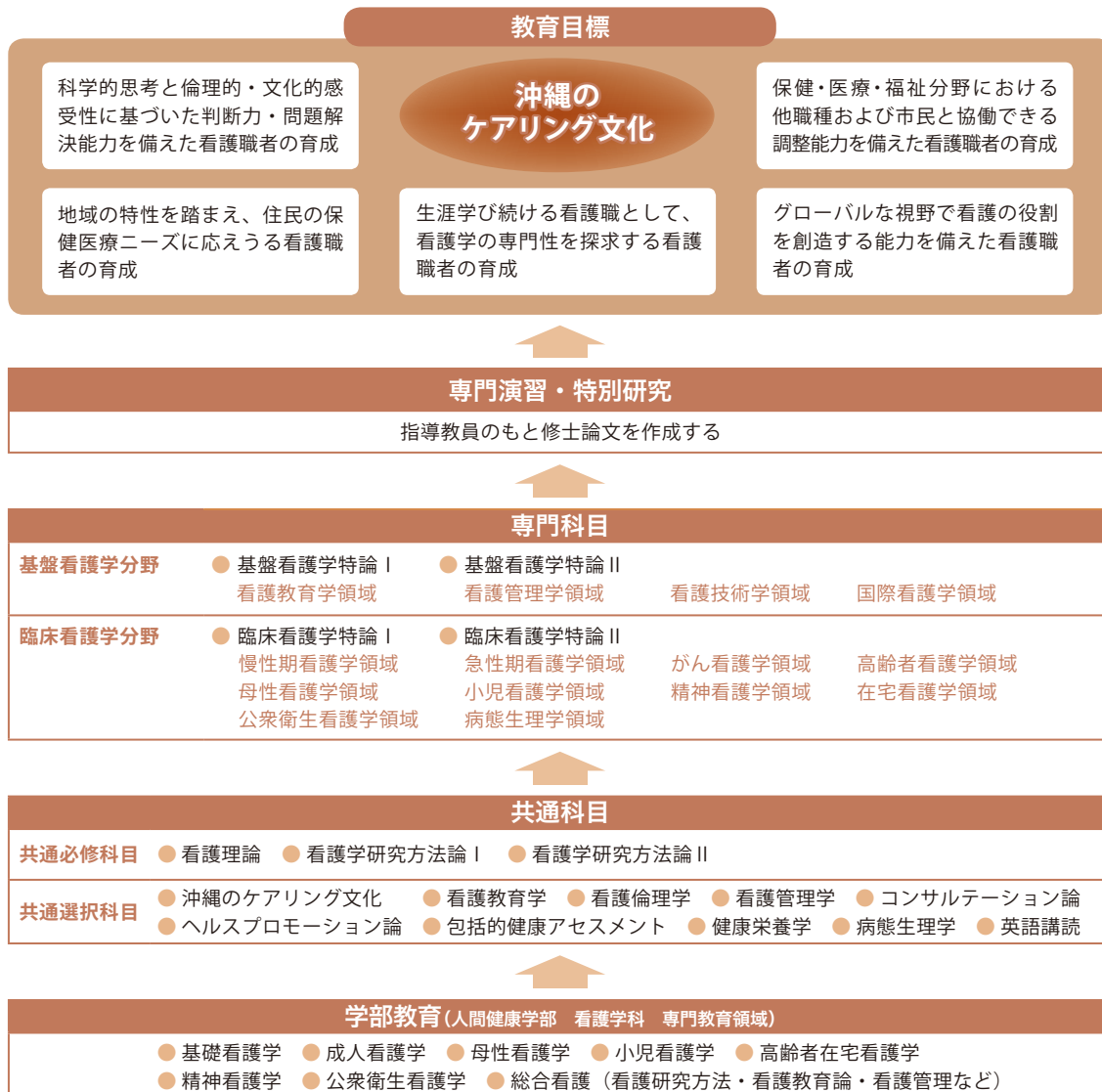
ケアリング文化に根ざした看護教育を探究する教育者および研究者を養成する。

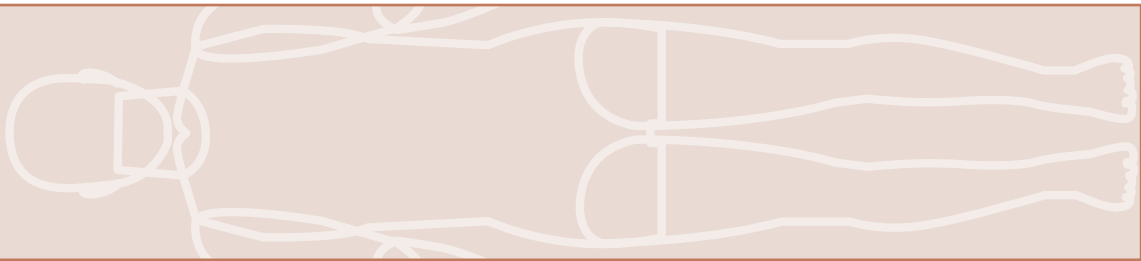
■ 社会人も学べる教育環境

現場の看護師や保健師等の社会人が仕事をつづけながら学修できる教育環境を整備している。

- ①昼夜開講制の導入、②長期履修制度の導入、③施設の夜間利用

看護学研究科教育課程概念図





看護学研究科 教員

令和5年10月1日現在

看護学研究科長 玉井 なおみ

教授

玉井 なおみ …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
 永田 美和子 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、包括的健康アセスメント、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
 横川 裕美子 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、看護管理学、基盤看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
 小西 清美 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、看護倫理学、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
 大城 凌子 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、沖縄のケアリング文化、包括的健康アセスメント、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
 松下 聖子 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
 田場 真由美 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
 花城 和彦 …… 看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、病態生理学、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
 阿部 正子 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
 流郷 千幸 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
 平上 久美子 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
 渡慶次 正則 …… 英語講読

特任教授

嘉納 英明 …… 看護教育学
 高瀬 幸一 …… ヘルスプロモーション論
 奥本 正 …… 健康栄養学
 グレッグ 美鈴 …… 看護学研究方法論、看護教育学
 宇座 美代子 …… 沖縄のケアリング文化、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ
 稲垣 絹代 …… 臨床看護学特論Ⅰ
 鈴木 啓子 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、看護管理学、コンサルテーション論、包括的健康アセスメント、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究

上級准教授

清水 かおり …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、看護教育学、看護管理学、基盤看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
 鬼頭 和子 …… 看護理論、臨床看護学特論Ⅰ、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
 村上 満子 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
 木村 安貴 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、病態生理学、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
 比嘉 憲枝 …… 看護理論、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習
 本村 純 …… 看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ

看護学研究科授業科目

授 業 科 目	
共 通 科 目	共通必修科目 看護理論 看護学研究方法論Ⅰ 看護学研究方法論Ⅱ
	共通選択科目 沖縄のケアリング文化 看護教育学 看護倫理学 看護管理学 コンサルテーション論 ヘルスプロモーション論 包括的健康アセスメント 健康栄養学 病態生理学 英語講読
専 門 科 目	基盤看護学分野 基盤看護学特論Ⅰ 基盤看護学特論Ⅱ
	臨床看護学分野 臨床看護学特論Ⅰ 臨床看護学特論Ⅱ
演 習 科 目	専門演習 特別研究
修了要件 看護学研究科の修了要件は、大学院に2年以上在学し、共通科目14単位以上、専門科目4単位以上、演習・研究科目12単位、合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することとする。	

教育課程の特色

修士課程において、次の3つの構成で体系的な教育課程を編成している。

- ① 研究方法の開発を広い視野で追及するために有効となる共通科目を設定。
- ② 看護実践の質の向上に直結した研究の効果的展開を目指した専門科目を設定。
- ③ 研究方法や研究デザイン、研究計画等、研究に必要な基礎を修得する研究指導および修士論文作成に直結する研究指導を行う演習・研究科目を設置。

【共通科目】

グローバルな視野に立った看護の高度専門職として実践・研究を遂行するにあたり共通となる科目として3科目を配置し、「共通選択科目」は、4科目8単位以上を履修すること、そのうち4単位は、国際文化研究科の共通科目や教育研究領域科目から履修できるように科目を配置する。

【専門科目】

本学看護学科における看護基礎教育の教育内容を基盤として、社会のニーズに合わせて看護学の探究を目指して特化し、基盤看護学分野(看護教育学領域、看護技術学領域、看護管理学領域、国際看護学領域)、臨床看護学分野(慢性期看護学領域、急性期看護学領域、がん看護学領域、高齢者看護学領域、母性看護学領域、小児看護学領域、精神看護学領域、在宅看護学領域、公衆衛生看護学領域、病態生理学領域)を配置し、それぞれの分野において特論Ⅰ及び特論Ⅱを開講する。

【演習・研究科目】

学生の関心ある研究テーマに即した国内外の論文のクリティークを重ねて、研究課題を絞り込み適切な研究方法を検討し、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、具体的な研究方法、倫理的配慮などを指導し、研究計画書の作成を個別指導する「専門演習」を設置する。また、研究計画にそって、データ収集、分析解釈、考察、中間発表、公開発表のプレゼンテーションの方法や論文提出までの修士論文作成の一連の指導を行う「特別研究」を設置する。



環太平洋という視点に立って沖縄(琉球)・アジアと (ハワイを含む)南北アメリカの地域文化研究を深化する

■ 教育研究上の目的

本博士後期課程は、文化の多様性を理解し、グローバルな視点から国際社会が抱える多様かつ重要な課題の解決に向けた普遍的な研究を行い、高度な水準の研究を行うために必要な能力及びその基礎となる豊かな学識を有する創造性に富む人材を養成することを目的とする。

■ 養成する人材

本博士後期課程は、普遍的な研究課題に取り組み、その成果を生かし研究者として活躍する能力を有する者及び専門分野に加えて環太平洋地域に関する幅広い学識と国際感覚を有する者の養成を目指す。

- (1) 高度の普遍的な研究能力を有する研究者の養成
- (2) 地域の社会文化振興の諸課題に的確かつ柔軟に対応できる研究者の養成

(1) 教育課程編成の基本方針



(2) 教育課程の特色

共通科目に配置する「国際地域文化総合演習Ⅰ」、「国際地域文化総合演習Ⅱ」は、本課程の特色科目として、本学のおかれた地域的特性に鑑み、すべての学生にとって必修科目とし、本博士後期課程の研究指導教員及び研究指導補助教員全員が参加し、学生の発表、報告等について質疑応答・討論を行う演習方式の科目である。学生の発表に対して異なる研究分野からの視点を導入することで学生に多様な視点から自らの課題を検討する機会を与え、沖縄(琉球)・アジアと(ハワイを含む)南北アメリカを中心とした環太平洋地域について理解を深めることを目的としている。

(3) 教育課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		
			必修	選択	自由
共通科目	国際地域文化総合演習Ⅰ	1前	2		
	国際地域文化総合演習Ⅱ	2前	2		
専門科目	琉球・沖縄文化特論	1前		2	
	琉球文学特論	1前		2	
	南島民俗文化特論	1前		2	
	中国琉球関係史特論	1前		2	
	アメリカ環境文学特論	1前		2	
	中南米地域文化特論	1前		2	
	東アジア地域文化特論	1前		2	
	東南アジア地域文化特論	1休		2	
	言語学特論	1前		2	
	英語教育特論	1前		2	
	現代沖縄教育特論	1前		2	
アジア太平洋国際関係特論	1前		2		
研究指導科目	特別演習Ⅰ	1前	2		
	特別演習Ⅱ	1後	2		
	特別演習Ⅲ	2前	2		
	特別演習Ⅳ	2後	2		
	特別演習Ⅴ	3前	2		
	特別演習Ⅵ	3後	2		

※「1前」「1後」「1休」…数字は学年、「前」は前学期、「後」は後学期、「休」は夏季休暇を指す。

(4) 修了要件

修了要件は、博士後期課程に3年間在籍し、必要な研究指導を受けた上、次の要件を満たすこととする。

- ・ 共通科目(必修)の2科目4単位、専門科目(選択)から2科目4単位以上、研究指導科目(必修)の6科目12単位、合計10科目20単位以上を修得すること。
- ・ 研究論文1編以上が査読付学術誌において掲載、または受理された上で博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。

教員組織

令和5年5月1日現在

研究指導(博士論文指導)教員

No.	研究分野	教員名	担当授業科目
1	琉球文学に関する研究	波照間 永吉(教授)	国際地域文化総合演習Ⅰ～Ⅱ 琉球・沖縄文化特論、特別演習Ⅰ～Ⅵ
2	南島地域の民俗文化に関する研究	山里 純一(教授)	国際地域文化総合演習Ⅰ～Ⅱ 南島民俗文化特論、特別演習Ⅰ～Ⅵ
3	中国・琉球関係史に関する研究	赤嶺 守(教授)	国際地域文化総合演習Ⅰ～Ⅱ 中国琉球関係史特論、東アジア地域文化特論、特別演習Ⅰ～Ⅵ
4	中南米地域文化に関する研究	住江 淳司(教授)	国際地域文化総合演習Ⅰ～Ⅱ 中南米地域文化特論、特別演習Ⅰ～Ⅵ
5	アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する研究	高嶺 司(教授)	アジア太平洋国際関係特論、特別演習Ⅰ～Ⅵ
6	学校と地域の教育に関する研究	嘉納 英明(教授)	現代沖縄教育特論、特別演習Ⅰ～Ⅵ
7	英語教育に関する研究	渡慶次 正則(教授)	英語教育特論、特別演習Ⅰ～Ⅵ

講義科目担当教員

No.	教員名	担当授業科目	No.	教員名	担当授業科目
1	小番 達(教授)	日本古典文学特論	4	屋良 健一郎(上級准教授)	琉球歴史学特論
2	小嶋 洋輔(教授)	日本近代文学特論	5	メーガン クックルマン(上級准教授)	アメリカ近代文学特論
3	照屋 理(教授)	琉球文学特論	6	坪井 祐司(上級准教授)	東南アジア地域文化特論

社会人も学べる教育環境

● 昼夜開講制を導入

社会人学生の事情を考慮して、昼間に加えて、平日の夜間や週末及び夏季休業等にも授業又は研究指導を行うことができる教育環境を整備。

● 長期履修制度を導入

長期履修制度を適用する場合には、6年を上限とする長期履修期間を設定する。要件として、職業を有している等の事情で授業科目の受講が制限され、学業専念が困難であると認められる場合、又はやむを得ない事情を有している場合とする。入学手続き時に所要の申請を行うこととする。長期履修生は、3年間の学費で最長6年間在籍し、計画的に履修することができる。

● 施設の夜間利用

図書館は、大学院学生の修学時間に合わせて、月～金曜日においては午前8時50分～午後10時まで、土曜日は午後12時～17時まで開館。また、大学院生専用の研究室・共同演習室を整備している。

● 学生の教育研究環境

学生の研究室には、ネットワーク環境を整備したパソコン及び周辺機器、机、椅子及び個人ロッカーを学生全員分装備する。

大学院 看護学研究科

博士（看護学）

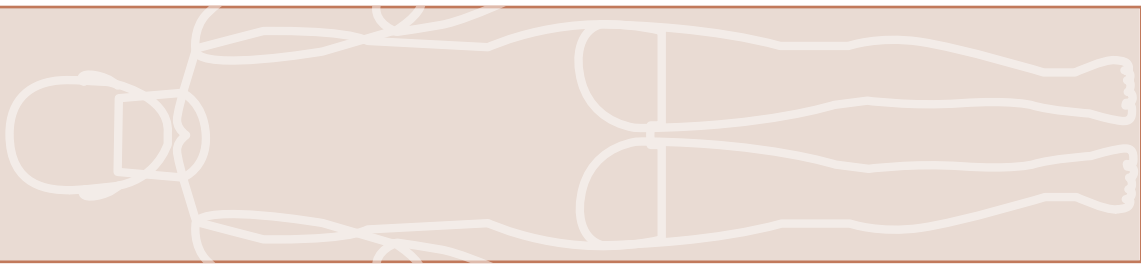
沖縄の歴史や文化に根差したケアリングの理解のもとに、人々の健康と生活の質向上のための看護学研究を自律して行い、看護学の発展に寄与する高度な研究能力を有する教育研究者の育成する

■ 教育研究上の目標

- (1) 高い倫理観と論理的思考力を持ち、看護学の発展・深化に寄与する研究を自律して行える。
- (2) 生涯に渡り自己研鑽し、高度な専門的知識と教育指導力を持って次世代の看護職を育成できる。
- (3) 沖縄の歴史や文化に根差したケアリングの理解のもとに、人々の生活および地域のニーズに添った保健・医療・福祉の発展に貢献できる。
- (4) 看護の専門性を追求し、看護ケアが提供される場における多様かつ複雑な要因の解明ができ、看護実践の改善・改革に取り組める。

(1) 教育課程編成の基本方針





(2) 教育課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	
			必修	選択
共通科目	看護学研究特論	1前	2	
	沖縄のケアリング文化と看護	1前	2	
	沖縄の保健看護政策特論	1後		2
	生体環境看護科学特論	1後		2
	看護教育学特論	2前	2	
専門科目	基盤看護学	看護キャリア開発学特論	1通	2
		応用看護学	がん看護学特論	1通
	成育健康看護学特論		1通	2
	生活支援看護学	精神保健看護学特論	1通	2
		地域包括看護学特論	1通	2
研究指導科目	看護学特別研究	1~3通	6	

※専門科目は、5科目から1科目を選択する。

(3) 修了要件

本研究科に3年以上在籍し、所定の単位(16単位以上)を修得するとともに必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

- ・ 共通科目から4科目8単位（必修科目3科目6単位を含む。）を履修する。
- ・ 専門科目から1科目2単位を選択し履修する。
- ・ 研究科目から1科目6単位を必修科目として履修する。

教員組織

令和5年5月1日現在

分野	専攻	職名	教員名	担当授業科目
基盤看護学	看護キャリア開発学	教授 (研究科長)	グレッグ 美鈴*	看護学研究特論 看護教育学特論 看護キャリア開発学特論 看護学特別研究
		教授	玉井 なおみ*	看護学研究特論 生体環境看護科学特論 がん看護学特論 看護学特別研究
応用看護学	がん看護学	上級准教授	木村 安貴*	看護学研究特論 生体環境看護科学特論 がん看護学特論 看護学特別研究
		教授	小西 清美*	沖縄のケアリング文化と看護 生体環境看護科学特論 成育健康看護学特論 看護学特別研究
	成育健康看護学	教授	阿部 正子*	成育健康看護学特論 看護学特別研究
		教授	流郷 千幸*	成育健康看護学特論 看護学特別研究
		教授	宇座 美代子*	沖縄のケアリング文化と看護 沖縄の保健看護政策特論 地域包括看護学特論 看護学特別研究
生活支援看護学	地域包括看護学	教授	永田 美和子*	沖縄のケアリング文化と看護 地域包括看護学特論 看護学特別研究
		教授	田場 真由美*	沖縄のケアリング文化と看護 沖縄の保健看護政策特論 地域包括看護学特論 看護学特別研究
		教授	稲垣 絹代	地域包括看護学特論
		教授	大城 凌子	沖縄のケアリング文化と看護 地域包括看護学特論
	精神保健看護学	教授	鈴木 啓子*	沖縄のケアリング文化と看護 精神保健看護学特論 看護学特別研究
		上級准教授	村上 満子	精神保健看護学特論

*印の教員は研究指導教員(博士論文指導)

講義科目担当教員

No.	教員名	担当授業科目
1	砂川 昌範 (教授)	生体環境看護科学特論
2	花城 和彦 (教授)	生体環境看護科学特論
3	波照間 永吉 (教授)	沖縄のケアリング文化と看護

No.	教員名	担当授業科目
4	山里 純一 (教授)	沖縄のケアリング文化と看護
5	赤嶺 守 (教授)	沖縄の保健看護政策特論
6	嘉納 英明 (教授)	沖縄の保健看護政策特論



環太平洋地域文化研究所(平成31年4月1日、総合研究所から名称変更)は、外部の研究機関と連携しながら主として沖縄県北部の地域社会へ研究成果を還元し、地域のシンクタンクとしての機能を果たすべく1996年に設置された研究施設である。主な活動としては以下の項目がある。

- 1 環太平洋地域文化研究所紀要の発行、研究発表会の開催
- 2 研究助成(学際的共同プロジェクト研究、特定研究、出版助成)
- 3 科学研究費および外部の研究助成・受託研究・共同研究の受入
- 4 コンプライアンス教育研修・研究倫理教育研修会の開催
- 5 環太平洋地域文化研究所主催シンポジウム・講演会

また、70名収容の研修室は、学外機関の研修会や講習会の会場として地域市民に開放されている。

【問い合わせ先】名桜大学環太平洋地域文化研究所 TEL 0980-51-1107 FAX 0980-51-1136

活動実績(令和4年度)

特定研究

	研究代表者	共同研究者	研究テーマ
1	高安 美智子 (リベラルアーツ機構)	木村 堅一(国際学群)、 立津 慶幸(リベラルアーツ機構)	やんばるとSDGs「名桜大学の高大接続とピア・ラーニングプログラム」

学際的共同プロジェクト研究

	研究代表者	共同研究者	研究テーマ
1	東恩納 玲代 (スポーツ健康学科)	奥本 正(スポーツ健康学科)、山本 直史(愛媛大学)、 吉武 裕(スポーツ健康学科)	沖縄県男性の肥満改善を目指した身体活動(運動)の実践・継続に関わる要因
2	新垣 裕治(国際学群)	アリ・ファテヘルアリムF.(国際学群)、島 康貴(地域連携機構) ラビア・アブドゥル(マレーシア国民大学)	地域の遊休農地活用における情報共有システムの確立

講演会・シンポジウム等

部門	内容	概要
国内シンポジウム	選ばれる持続可能な観光地と多様性	2022年、環境保全と持続可能な開発に関するリオ宣言から30年という節目の年を迎えた。SDGsのもとなる国連の「持続可能な開発サミット」は、持続可能な開発のための2030アジェンダを採択し、生物や自然、文化等の多様性が重要な概念の一つとなり、観光と持続可能な開発目標も策定した。 一方、2021年に沖縄島北部(やんばる地域の一部)等が世界自然遺産に登録された。今後は、新型コロナウイルス感染症の拡大前から指摘されているオーバーツーリズムの課題を解決しつつ多様性を踏まえた誰でも楽しめる観光、いわゆるユニバーサルツーリズムの考え方も重要となろう。多様性には生活文化や価値観、産業等の様々な要素が含まれるが、本シンポジウムでは世界自然遺産、宿泊施設、福祉に注目し、沖縄県、とくに北部地域の観光に関する一つの方向性を探りたい。

名桜大学やんばるアカデミー

名桜のティーチャーズアカデミー -保体・養護のプロフェッショナルを育てる-		
第1回 「つながりの中で教員(保体・養護)の卵を育てる」	講師:神田 奈津子 准教授	日時:令和5年2月1日(水)18:15~19:45
第2回 「スポ健で養護教諭免許を取得する強み」	講師:神崎 園子 助教	日時:令和5年2月8日(水)18:15~19:45
第3回 「魅力的な保健体育科教師をどう育てるか」	講師:濱本 想子 助教	日時:令和5年2月22日(水)18:15~19:45

令和4年度 採択研究課題

研究種目	研究課題	研究代表者	研究開始年度	研究終了年度
基盤研究C	『離島の子育て“届ける”支援プロジェクト』～村・医・学連携システムの構築～	小柳 弘恵	平成30年度	令和4年度
基盤研究C	都市部と農漁村部における地域力を活かした「近助」ケアシステムの開発	安仁屋 優子	平成30年度	令和4年度
基盤研究C	ヘルスリテラシーの向上に着目した島民の「肝臓を守る健康教育プログラム」の開発	島袋 尚美	平成30年度	令和4年度
基盤研究C	新卒看護師のプロアクティブ行動を促すスタッパーのための教育実践ガイドの開発	グレッグ 美鈴	平成30年度	令和4年度
基盤研究C	離島・へき地で働く看護職者のキャリア発達支援と継続教育方法の検討	清水 かおり	令和1年度	令和4年度
基盤研究C	輸入感染症の脅威にさらされている沖縄県在住大学生の危機意識の実態と支援体制の構築	西田 涼子	令和1年度	令和4年度
基盤研究C	精神障害者の生活行動に急速な改善をもたらすフットケアによる看護援助モデルの開発	鬼頭 和子	令和1年度	令和4年度
基盤研究C	不妊治療の終結をめぐる夫婦の意思決定支援に有用な看護アセスメントガイドの開発	阿部 正子	令和1年度	令和4年度
基盤研究C	乳がん患者の持続可能なオーダーメイドウォーキング・ケアプランの構築と標準化の確立	玉井 なおみ	令和2年度	令和5年度
基盤研究C	がん化学療法患者の離職予防に向けた就労関連スティグマ低減の双方向支援ツールの開発	木村 安貴	令和2年度	令和5年度
基盤研究C	戦後日本における同和教育思想の形成・変容過程についての研究	板山 勝樹	令和2年度	令和4年度
基盤研究C	夏季日常生活時の温度環境が日本人の発汗機能に影響を与える-生育地域からの検討-	奥本 正	令和3年度	令和7年度
基盤研究C	島しょ・僻地の強みを活かした青年期・思春期間のピアカウンセリング・プログラム開発	長嶺 絵里子	令和3年度	令和5年度
基盤研究C	ハンセン病療養所再興プロセスの構造化「住み慣れた場所で生き生き暮らす拠点へ」	伊波 弘幸	令和3年度	令和6年度
基盤研究C	人生100年を健康に生きる離島中学生のヘルスリテラシー教育プログラムの開発	島袋 尚美	令和3年度	令和5年度
基盤研究C	戦後フィリピン軍人・軍属に嫁いだ沖縄女性たちの生涯	下地 紀晴	令和3年度	令和5年度
基盤研究C	計算科学と機械学習の組み合わせから紐解く永久磁石材料の電子論	立津 慶幸	令和3年度	令和5年度
基盤研究C	帝国の遺産の脱植民地化-台湾の水資源開発における技術の重層性	清水 美里	令和3年度	令和7年度
基盤研究C	小学・中学英語教員オンライン合同研修による音韻認識能力とリタラシー能力の育成	渡慶次 正則	令和4年度	令和7年度
基盤研究C	マレー半島における民族の枠組みの形成：マレー民族をめぐる相互作用の研究	坪井 祐司	令和4年度	令和7年度
基盤研究C	自己調整学習を促す文系数学における学修支援を組み込んだ授業デザインの効果検証	高安 美智子	令和4年度	令和6年度
基盤研究C	多文化化の沖縄社会における学校と地域の協働的実践に関する研究	嘉納 英明	令和4年度	令和6年度
基盤研究C	ウィズコロナ時代の看取りを支えるコミュニティアサボーター養成プログラムの開発	大城 凌子	令和4年度	令和7年度
基盤研究C	がんと共生社会を目指したがん看護専門看護師による地域がん緩和ケアモデルの構築	吉澤 龍太	令和4年度	令和7年度
基盤研究C	離島・僻地の地縁を活かした持続可能なベストミックス近助ケアシステムの構築	安仁屋 優子	令和4年度	令和6年度
基盤研究C	ヘルスリテラシーを高め行動変容を促すALD・NAFLD予兆モデルの社会実装試行	本村 純	令和4年度	令和8年度
基盤研究C	動脈硬化予防に最適な身体活動プログラムの開発	藤居 貴子	令和4年度	令和7年度
基盤研究C	親子分離が青年期の発達課題である自己概念の形成に及ぼす影響	比嘉 憲枝	令和4年度	令和6年度
若手研究	日本の消滅危機言語を対象とした大量の言語資料収集・蓄積方法に関する基礎研究	麻生 玲子	平成30年度	令和4年度
若手研究	明治期における条約改正交渉と「琉球処分」政策のトランスナショナルな運動性	山城 智史	平成30年度	令和4年度
若手研究	和歌・和文から見た琉球・日本の文化交流	屋良 健一郎	令和1年度	令和4年度
若手研究	へき地のソーシャル・キャピタルを「8050」世帯の支援に活かす介入研究	田場 真由美	令和1年度	令和4年度
若手研究	国際的スポーツイベントを通じた都市ブランディングに関する実証的研究	平野 貴也	令和1年度	令和4年度
若手研究	卓球において回転戦術が得点に及ぼす影響の定量化	玉城 将	令和1年度	令和4年度
若手研究	旧ソ連圏秩序再編をめぐるクリントン外交の研究	志田 淳二郎	令和2年度	令和4年度
若手研究	へき地における若年母親のベビーマッサージプログラムをきっかけとした居場所づくり	大浦 早智	令和2年度	令和4年度
若手研究	テキストマイニングによる台湾会計基準設定主体の存在意義の解明	仲尾次 洋子	令和3年度	令和5年度
若手研究	保健体育科教員養成課程におけるTPACK育成プログラムの開発的研究	濱本 想子	令和3年度	令和6年度
若手研究	琉球沖縄における男性歌唱者のうたう儀礼歌謡の構造と文学的表現研究	石川 恵吉	令和4年度	令和7年度
若手研究	言語文化的多様性と言語権からみたニューススピーカーのためのことばの継承アプローチ	半嶺 までか	令和4年度	令和8年度
若手研究	覚えやすい漢字単語は忘れにくいのか：日本語漢字単語の学習に及ぼす母語の影響	当銘 盛之	令和4年度	令和5年度
若手研究	人口減少地域における巡礼ツーリズムの高まりによる霊場空間の再編に関する研究	卯田 卓矢	令和4年度	令和7年度
挑戦的研究	沖縄の地域文化に根ざした自死遺族支援の構築-相互扶助の中で忌避される自死-	鈴木 啓子	平成30年度	令和4年度

宇流麻学術研究助成基金

研究代表者	研究課題
麻生 玲子	文章表現力向上に関する実践研究

受託研究

受託研究・事業

	事業名	委託先
1	ウィズコロナに対応した健康ビッグデータプラットフォーム基盤強化と利活用の加速	国立研究開発法人科学技術振興機構
2	健康を基軸とした経済発展モデルと前世代アプローチでつくるwell-being地域社会共創拠点	国立研究開発法人科学技術振興機構
3	準安定状態非平衡ナノ粒子の安定性に関する電子論的研究	国立研究開発法人科学技術振興機構
4	名桜大学教員養成講座事業	北部広域市町村圏事務組合
5	名護市職員研修業務委託	名護市役所
6	ストレスチェック事業	医療法人タビック
7	令和4年度ヒト介入試験プラットフォーム構築事業委託業務	沖縄県

共同研究

研究代表者	研究名	共同研究機関
平野 貴也	競技者の身体知の獲得・発揮の解明及び競技・観戦体験がもたらす行動変容	日本電信電話株式会社 人間情報研究所

地域貢献 I REGIONAL CONTRIBUTIONS

名桜大学と地域をつなぐ総合窓口

地域連携機構

平成25年4月1日、エクステンションセンターを北部生涯学習推進センター施設内に設置(平成29年4月1日、地域連携機構に名称変更)。名桜大学における教育研究の成果を積極的に地域社会へ還元し、地域への貢献及び地域との連携活動を推進する目的で設置され、大学と地域をつなぐ総合窓口です。

当機構を中心に、その下に委員会を設置し、国際学群・人間健康学部、環太平洋地域文化研究所、事務局、健康・長寿サポートセンター、看護実践教育研究センター、北部教育研修センターとの連携を図り、大学の使命の一つである地域貢献を果たしてまいります。

【問い合わせ先】名桜大学地域連携機構 TEL 0980-51-1555 FAX 0980-54-0707



令和4年度 公開講座 活動実績

講座名	開催日	講師名
「これからの世代のために社会を変えるには」 —地球と地域の環境を巡る世代間利害相反と若者の活動—	第1回5月13日(金)、第2回5月27日(金)、 第3回6月10日(金)	学外講師 田代 豊(名桜大学国際学群)
救急法救急員養成講習会 (赤十字救急法救急員養成講習会)	第1回7月9日(土)、第2回7月10日(日)、	学外講師 前川美紀子(名桜大学地域連携機構) 新垣裕治(名桜大学国際学群)
ハブ(蛇)対策講座	6月16日(木)	学外講師 新垣裕治(名桜大学国際学群)
東屋部川ナイト・カヌー探検	7月16日(土)	学外講師 新垣裕治(名桜大学国際学群)
からだを弛めてリラックス しなやかに動けるからだづくり動作法講座	第1回5月14日(土)、第2回5月21日(土)、 第3回5月28日(土)、第4回6月11日(土)、 第5回6月18日(土)	学外講師 神谷義人 (名桜大学スポーツ健康学科)
観光・体験ガイド養成講座	第1回6月7日(火)、第2回6月14日(火)、 第3回6月28日(火)、第4回7月5日(火)	

令和4年度 地域出前講座 活動実績

講座タイトル	開催日	講師	機関・団体名
レクリエーションスポーツ	5月 5日(火)	東恩納玲代(人間健康学部 スポーツ健康学科 上級准教授)	
アニメのプログラムを作ってみよう	7月10日(日)	ピーター・アラスーン(国際学群 情報システムズ専攻 上級准教授)	
自宅でエクササイズ	8月18日(木)	東恩納玲代(人間健康学部 スポーツ健康学科 上級准教授)	名護特別支援学校
健康の維持・増進、老化防止に役立つ食べ物 —科学的エビデンス(証明)をもとに—	9月14日(水)	高瀬幸一(人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	
子育て広場 ～気分転換しながら育児の時間～	11月 4日(金)	大浦早智(人間健康学部 看護学科 助教)	
沖縄の健康が危ない！ ～健康長寿を取り戻そう～	12月13日(火)	高瀬幸一(人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	名護市食生活改善推進協議会

弘前大学COI-NEXT・連携拠点

名桜大学は弘前大学COI-NEXTの連携拠点大学としてやんばるの健康長寿復活を目的とした調査研究を実施しています。この研究は、沖縄県北部地区住民の健康状態の現状とその問題点を医学的観点から包括的かつ詳細に調査し、①住民の健康維持・増進、日常生活活動(quality of life, QOL)の向上に資すること、②疾病の予防及び健康の保持・増進を包括的に研究することを目的としています。名桜大学と北部12市町村の自治体(名護市、国頭村、大宜味村、東村、宜野座村、金武町、恩納村、今帰仁村、本部町、伊江村、伊平屋村、伊是名村)による共同プロジェクトでもあり、「社会貢献」、「学生教育」及び「研究推進」への寄与を企図しています。

【過去の実績】

年度	参加者数	実施日	会場
平成30年度	201名	11/29、11/30、12/3	名桜大学 北部生涯学習推進センター
令和元年度	420名	11/28、11/29、12/2	21世紀の森体育館 北部生涯学習推進センター
令和2年度	209名	11/26、11/27、11/29、11/30	名桜大学 北部生涯学習推進センター
令和3年度	259名	11/25、11/27、11/29、11/30	名桜大学 北部生涯学習推進センター
令和4年度	236名	11/24、11/25、11/26、11/28	名桜大学 北部生涯学習推進センター

【やんばる版プロジェクト健診 参画企業及び研究機関(令和4年4月1日現在)】

カゴメ株式会社、花王株式会社、ハウス食品グループ本社株式会社、株式会社ミルテル、国立研究開発法人医療基盤・健康・栄養研究所

健康・長寿サポートセンター

MEIO COOL HEALTH PROJECT

健康・長寿サポートセンターは、スポーツ・健康科学、看護科学、医学に関する知見を応用し、科学的根拠に基づく健康支援活動を北部12市町村の人々に提供するための中核機能を果たすことを目的として、平成24年12月21日に設立。

主な活動として、「ヘルスサポート(健康支援活動)」、「食育劇活動」、「名護市宮里地区朝市健康相談活動」などがあり大学で学んだ専門知識を学生が地域に積極的に健康支援という形で還元(展開)している。平成26年には、厚生労働省スマートライフプロジェクト「第3回健康寿命を伸ばそうアワード」において健康局長優良賞を受賞。平成29年2月には、第1回沖縄県健康づくり表彰「がんじゅうさびら賞:知事表彰」においてヘルスサポートが準グランプリを受賞。平成30年3月には、スポーツ庁ガイドライン(スポーツ推進アクションガイド ~Enjoy Sport, Enjoy Life~)に国の先進的な活動事例として掲載。令和2年11月には、内閣府地方創生政策アイデアコンテスト2020において沖縄県内閣府総合事務局長賞を受賞。

令和4年度 ヘルスサポート 活動実績

市町村	活動内容	実施回数	活動時間	参加人数
名護市	ハピネスイベント: JOYBEAT運動教室、FESTA運動教室、健康測定、健康相談(北部生涯学習推進センター)	18	54	198
大宜味村	健康長寿支援プログラム: JOYBEAT運動教室、健康測定、健康相談	7	21	49
伊是名村	JOYBEAT運動教室	1	3	41
地域活動総計		21回	63時間	234人
JOYBEAT ルーム	JOYBEATによる運動教室開催(北部生涯学習推進センター2F研修室2)	129回	645時間	360人
内閣府	内閣府地方創生政策アイデアコンテスト2022 損保ジャパン賞、True Data賞、日本政策投資銀行賞、三菱UFJリサーチ&コンサルティング賞、沖縄県内閣府総合事務局長賞 受賞			
その他	沖縄県の健康事業に参画「取り戻そう!健康長寿おきなわ!『みんなでヘルスアクション!』健康×SDGs×行政・企業・学生・お笑い・音楽」			

令和4年度 食育劇活動 活動実績

令和4年度は、屋部中学校子ども食堂で2回/週、朝食提供時栄養素バランスシートを活用し、食育活動を実施しました。また、地域住民を対象に食育講話は3回実施しました。コロナ禍の影響で食育劇等の活動は出来ませんでした。

令和4年度 名桜大学看護学科ボランティアサークル(VAG)活動 活動実績

コロナ禍により、毎月1回開催していた宮里区・為又区が主催する『朝市』の場を活用した住民の健康チェックおよび健康相談活動は中止になりました。一方、コロナ禍の状況に応じて、勝山区(3回)大北区(2回)、名護市場(3回)、本部町市場(1回)、名護市内事業所(2回)等、不定期に開催し、4月~3月までに延べ165名の住民の健康づくりを支援しました。また、沖縄・首里日雇い労働者組合が主催する炊き出し会場での健康支援活動を8回実施し、参加者は延べ187名でした。コロナ禍の中、活動の縮小を余儀なくされましたが、年間147名の学生が健康支援ボランティア活動に参加し、延べ352名に健康支援活動を実施しています。

看護実践教育研究センター

“実践・教育・研究”の地域拠点 (Center of Community)

名桜大学看護実践教育研究センターは、北部地域の保健・医療・福祉施設におけるケアの質の向上を目的とした看護系職員の継続教育・研究の支援を行っています。関係自治体や機関等と連携し、少子・高齢化社会に対応するケアの“実践・教育・研究”の地域拠点(Center of Community)を目指します。やんばるの地に根ざしたケアリング文化並びに社会の発展に貢献する看護系人材養成を目的とした事業を行っています。



令和4年度 看護実践教育研究センター企画活動実績

企画名	日時	企画担当
臨床で活かす看護・介護研究~ケアの質の向上を目指して~	第1回 中止 第2回 5月28日 第3回 6月18日	看護実践教育研究センター
北部地域看護・介護実践報告会及び表彰式	3月18日	看護実践教育研究センター
北部地域看護管理者懇談会	第1回 7月28日 第2回 9月28日 第3回 12月2日 第4回 1月21日	看護実践教育研究センター
子どもと家族のトータルケア~小児がんの子どもきょうだいたいち~	7月5日	おきなわ小児看護研究会
子どもの育ち ~子ども虐待のない社会へ~	11月7日	おきなわ小児看護研究会
保健師スキルアップ研修会	第1回 7月16日 第2回 9月30日 第3回 1月10日	やんばるの公衆衛生看護を考える会
やんばる母子支援研究会	5月21日	やんばる母子支援研究会
母子の支援 知っておきたい最新トピックス~女性のライフサイクルにおける骨盤臓器脱とケア~	1月22日	やんばる母子支援研究会
高齢者・在宅ケア情報交換会	3月4日	高齢者・在宅ケア研究会
大学院で学ぶ	5月14日	沖縄県精神看護研究会
精神専門看護師と共に考える「シリーズ メンタルヘルス・精神看護事例検討会」	6月25日	沖縄県精神看護研究会
「シリーズ メンタルヘルス・精神看護事例検討会」	第1回 6月25日 第2回 1月21日	沖縄県精神看護研究会
「精神科における香りをもちいた触れるケアの試みと可能性」	8月13日	沖縄県精神看護研究会
精神科病院での久高さんの看護実践から学ぶ	3月4日	沖縄県精神看護研究会

地域貢献 II REGIONAL CONTRIBUTIONS

名桜大学のさまざまな機能・施設を地域のみなさんに提供します。



名桜大学は、沖縄県北部12市町村とその住民に支えられて開学した経緯があり、地域住民に開かれた大学を目指しています。そのため本学の機能・施設を地域住民に開くことは、本学の重要なサービスの一つです。

現在、名桜大学が地域に提供している機能・施設として、図書館の一般利用、授業科目の公開、各種体育施設の団体利用、さまざまなイベントに対応できる多目的ホールなどがあります。それらの利用に関してご案内します。

施設の利用案内

学生会館 SAKURAUM 利用案内

「学生の主体的な学び」の場として、先輩・後輩コミュニティを基本とした学習支援や、教員、職員、学生、市民が自律的に学習できる環境の実現を目的に名桜大学学生会館SAKURAUMが建設されました。教職員、学生、市民の教育・学習・研究活動が「みえる・つながる・ひろがる」をコア・コンセプトとしており、学内外の交流の場として有効に活用されています。

開館時間等	○月～金／8:00～20:00 ○土／8:00～12:00 ※長期休業中（夏季、冬季、春季休業） 月～金／8:00～18:00 土／8:00～12:00
休館日	○日・祝祭日 ○6月23日（慰霊の日） ○夏季休暇（教職員） ○12月28日～1月3日までの日

学生会館 SAKURAUM の主な館内施設

6階	スカイホール（ホールA・ホールB）	会議等
5階	キャリア支援課・国際交流センター 学生会館運営室・アクティブラーニングスペース・研修室B カンファレンスルームB・カンファレンスルームC	学生支援関連
4階	言語学習センター・数理学習センター・ライティングセンター ウェルナビ・アクティブラーニングスペース・研修室A カンファレンスルームA	
3階	大講義室A・大講義室B・学生ラウンジ	学習・講義関連
2階	カフェ	
1階	総合窓口・ウェルカムホール・ ホームカミングコーナー・プレゼンテーションコーナー	エントランス

問い合わせ先 学生会館運営室 TEL 0980-51-1200

多目的ホール

多目的ホールは名護市と本学との合意により建設された施設で、名護市における教育、文化及び産業活動、そして名桜大学の教育研究活動の活性化を図るために行われる各種事業に供されています。

外部利用が可能な施設としては、講堂、研修室、マルチメディア講義室、マルチメディア編集室、屋外ステージがあります。これらの施設は、名桜大学生や名護市民はもちろん、県内の各種団体、公共機関のみなさんが利用できます。使用料や申し込み等の詳細については、下記の担当窓口までお問い合わせください。

利用日	原則として次に挙げる日以外の日 ・土曜日、日曜日 ・祝祭日 ・12月28日～翌年1月4日
時間	原則として9:00から20:00までの間

問い合わせ先 施設課 TEL 0980-51-1246

その他の大学施設利用案内

学内の教育研究活動及び行事が優先となりますが、講義棟の教室やグラウンド、体育館、テニスコート等の体育施設も支障がない範囲で地域の皆様の借用が可能となります。利用を希望する場合、下記の担当窓口までお問い合わせください。

問い合わせ先 施設課 TEL 0980-51-1246

名桜大学附属図書館

約17万冊の図書資料を学外のみなさんにも提供しています。館外貸出を希望されるみなさんは「図書館利用者証」の発行手続きをとってください。開館時間、その他の問い合わせなどは下記まで。

開館時間等	●月～金／ 8:45～22:00 ●土曜日／ 12:00～18:00 ※長期休業中（夏季、冬季、春季休業） 月～金／8:45～17:00 土曜日／12:00～18:00																		
休館日	●日・祝日 ※開館時間の変更、臨時休館は随時館内に掲示しお知らせします。																		
図書館のサービス	●図書等の貸出 学外者で図書の貸出を希望する場合は図書館利用者証の発行手続きが必要です（無料）。その際、現住所（県内在住）の証明できる身分証（運転免許証など）、顔写真1枚（縦3cm、横2.5cm）をご持参ください。 なお、県内在住の高校生を含む15歳以上19歳未満の方は保護者の同意書が必要です。利用者の有効期限は発行日から1年間です。 ●端末機で図書情報を検索 ●文献複写サービス ●インターネットの利用 ●視聴覚サービス																		
名桜文学賞	高校生以上の県内在住者及び県出身者を対象とした名桜大学懸賞作品コンクールを平成17年から毎年実施してきました。また、これまで実施してきた小説部門、詩部門、短歌部門に加え、15周年を記念して、令和元年度には新たにエッセイ、俳句、琉歌の3部門が増設されました。なお、令和2年度から名称が名桜文学賞に変更され、各部門の受賞作品の作者に対し賞状と賞金が授与されています。																		
館外貸出冊数及び期間	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>冊数</th> <th>期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>10冊以内</td> <td>4週間以内</td> </tr> <tr> <td>大学院生</td> <td>10冊以内</td> <td>4週間以内</td> </tr> <tr> <td>学部学生</td> <td>5冊以内</td> <td>2週間以内</td> </tr> <tr> <td>事務局職員</td> <td>5冊以内</td> <td>2週間以内</td> </tr> <tr> <td>学外者</td> <td>2冊以内</td> <td>2週間以内</td> </tr> </tbody> </table>	区分	冊数	期間	教員	10冊以内	4週間以内	大学院生	10冊以内	4週間以内	学部学生	5冊以内	2週間以内	事務局職員	5冊以内	2週間以内	学外者	2冊以内	2週間以内
区分	冊数	期間																	
教員	10冊以内	4週間以内																	
大学院生	10冊以内	4週間以内																	
学部学生	5冊以内	2週間以内																	
事務局職員	5冊以内	2週間以内																	
学外者	2冊以内	2週間以内																	

問い合わせ先 名桜大学附属図書館 TEL 0980-51-1062

名桜大学環太平洋地域文化研究所

名桜大学環太平洋地域文化研究所は「地域に根差した研究所」をモットーに日頃の研究成果を広く地域社会へ還元することを目的とし、以下のような事業に取り組んでいます。

1. 環太平洋地域文化研究所紀要の発行、研究発表会の開催
2. 研究助成（学際的共同プロジェクト研究、特定研究、出版助成）
3. 科学研究費および外部の研究助成・受託研究・共同研究の受入
4. コンプライアンス教育研修・研究倫理教育研修会の開催
5. 環太平洋地域文化研究所主催のシンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会等の開催については、ウェブサイト等を通じて随時お知らせします。詳しくは下記の担当窓口までお問い合わせください。

問い合わせ先 名桜大学環太平洋地域文化研究所 TEL 0980-51-1107

名桜大学 授業科目の公開

名桜大学は、社会人の生涯教育、リフレッシュ教育の推進を図るため、平成13年度後学期から正規の授業科目を広く社会人に公開しています。前学期(4月～7月)、後学期(10月～1月)の受講生の募集受付は、ウェブサイトでご案内します。学期の始まる1ヶ月程度前までのお申し込みとなります。

受講対象者	一般社会人、シニアシティズン (60歳以上)
公開される授業科目	実習、演習、実技科目を除くすべての科目
受講の条件と資格等	名桜大学に通学して、学生とともに15週にわたって受講できる社会人であること。1週間における授業回数は1科目で1回または2回です。社会人であれば学歴を問いません。1人2科目まで受講できます。
受講料	1科目につき、7,000円(テキスト代は別)(シニアシティズンの方は、1科目は受講料を徴収しない。)その他、問い合わせは下記まで。

問い合わせ先 教務課 TEL 0980-51-1055

名桜大学出張講座 一中・高等学校対象一

名桜大学では、沖縄県内の高等学校、北部所在の中学校、奄美地域所在の高等学校を対象に「出張講座」を実施します。総合学習の時間、ロングホームルームの時間をご利用しご活用ください。

【令和4年度 名桜大学出張講座 一中・高等学校向け一】

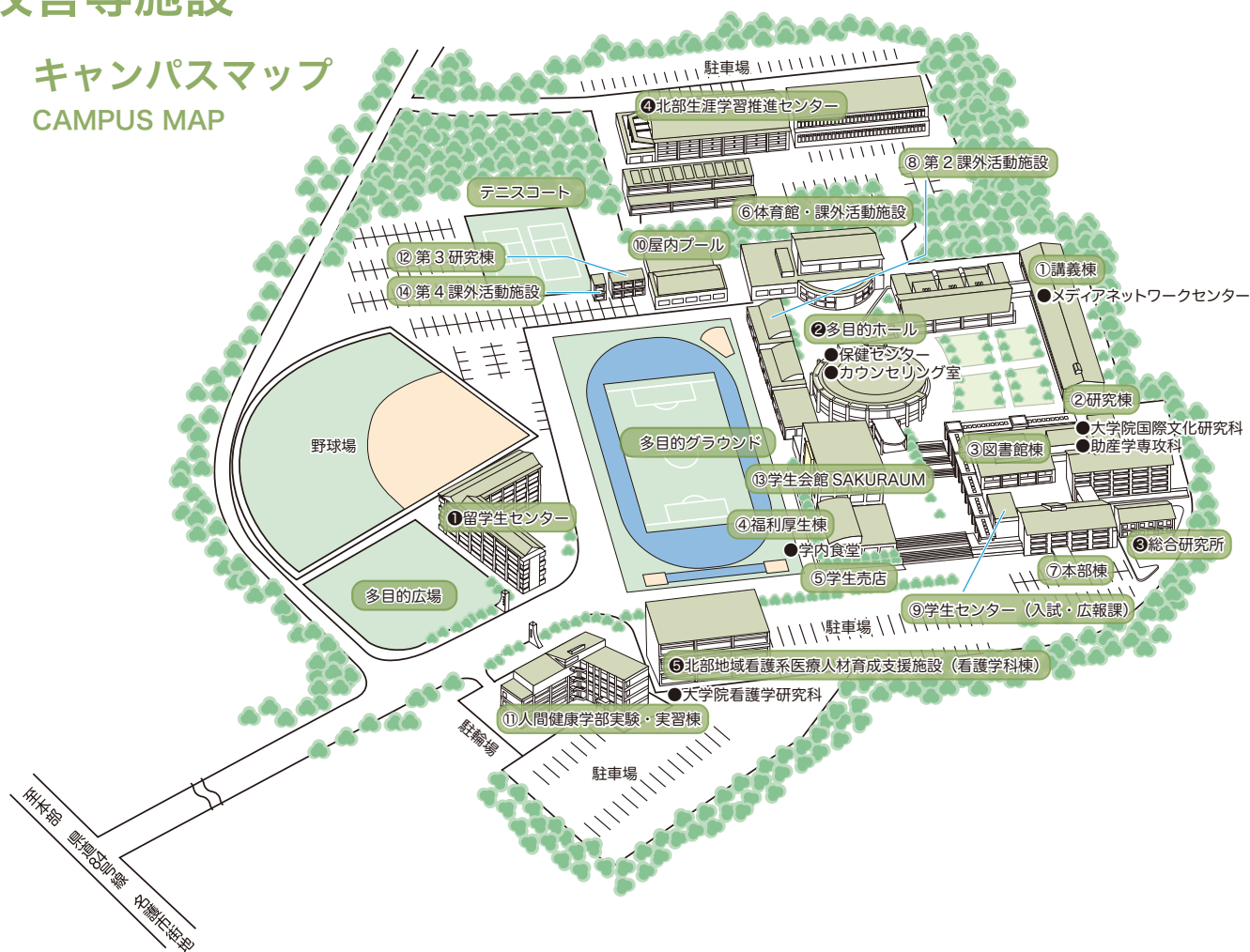
講座名称	講師名/専門分野
【国際文化専攻】	
インカ帝国の文化と信仰	上原 なつき
沖縄の教育の歩み	嘉納 英明
『おもろさうし』からみる地域の歴史・民俗文化	照屋 理
江戸時代の日本と外国	屋良 健一郎
短歌をよむ	屋良 健一郎
琉球と薩摩	屋良 健一郎
【語学教育専攻】	
琉球語ってどんなことば?	麻生 玲子
なりきり! 方言研究者	麻生 玲子
小説作品における沖縄本島北部の描かれ方	小嶋 洋輔
日本語教師ってどんな仕事?	当銘 盛之
英語圏留学をしてみませんか	渡慶次 正則
英語を自分のものにしよう!	半嶺 まどか
多言語社会を考える	半嶺 まどか
An Introduction to English Poetry	メーガン クックルマン
【経営専攻】	
経営学誕生のひみつ—理論と実践の融合—	大城 美樹雄
おこづかい帳と簿記	仲尾次 洋子
起業する(会社をつくる)	林 優子
新しい経済学 行動経済学からみた人の経済活動	宮平 栄治
【情報システムズ専攻】	
電子計算機がコンピューターになったワケ	佐久本 功達
おてがるスマホゲーム作成～ビジュアルプログラミング体験～	佐久本 功達
ホームページ表示のしくみ～PCでHP作成体験～	田邊 勝義
SEとPGって?何が違うの?～IT業界の業種と職種～	天願 健
ロボットと話をする日	中里 収
無料ソフトで自分の家をデザインしてみない?	アラスーン、ピーター M.
【診療情報管理専攻】	
わが国の診断群分類	上門 要
現代医療とPOMR	大城 真理子
【観光産業専攻】	
「エコツーリズム」、沖縄の観光の魅力はこれに尽きる!	新垣 裕治
グレートバリアリーフでの環境保全と観光	新垣 裕治
沖縄のマンガースと移入種	新垣 裕治
ヤンバルクイナが絶滅の危機! 現状と対策	新垣 裕治
沖縄観光の移り変わり	伊良皆 啓、上原 明
沖縄とハワイのビーチリゾート—似てる?異なる?—	伊良皆 啓
星空も観光資源になる!?	卯田 卓矢
やんばると奄美の赤土汚染	田代 豊
必殺!!「環境調査人」のお仕事	田代 豊
人間と環境—なぜ木を植えるのか?—	田代 豊
米軍基地の環境問題	田代 豊
沖縄のホテルの歴史と新しいホテルのかたち	東恩納 盛雄
文化の観光商品化について考える	許 点淑
歌で学ぶ韓国語のあいさつ	許 点淑
【スポーツ健康学科】	
熱中症にならないためには!	奥本 正
ダイエット情報のウソ・ホント?	奥本 正

講座名称	講師名/専門分野
スポーツ選手の栄養摂取方法	奥本 正
なぜ日本男子4×100mリレーは世界でメダルを獲れるようになったのか	小賦 肇
競技場面でベストパフォーマンスを発揮するには	小賦 肇
「ランニング」から「スプリント」へ、「スプリント」へチャレンジしよう!	小賦 肇
揺れる思春期—こころ・からだ、そして性のこと—	神田 奈津子
脱・三日坊主! "続ける"ための行動変容テクニック	神谷 義人
ファストフードの驚くべき秘密「知ると怖〜い食べ物」	高瀬 幸一
筋肉の質と種類で決まるスポーツへの適正「トレーニングを科学する」	高瀬 幸一
科学的に捉える世界最速スプリンターボルト選手の秘密	高瀬 幸一
「遺伝」するもの、しないもの! 性格・頭脳・運動神経・病気…	高瀬 幸一
沖縄って長寿? 沖縄の健康が危ない!	高瀬 幸一
部活動でキャリア形成～部活が将来のあなたを助けてくれます～	仲田 好邦
文武合一～名桜大学スポーツ健康学で学べること～	仲田 好邦
スポーツパフォーマンス向上大作戦～あなたの実力は眠っていませんか～	仲田 好邦
“武道”を知ろう・考えよう	濱本 想子
生涯スポーツ社会は必要なのか?	平野 貴也
スポーツイベントで地域を活性化しよう	平野 貴也
【看護学科】	
ハンセン病とコロナ差別～正しい知識を持って行動できる人になろう～	伊波 弘幸
進路に悩んでいるあなたへ	大城 凌子
看護の魅力(Part1・∞)	大城 凌子
「いのちの誕生から看取るその日まで…」	大城 凌子
月経に伴う症状に対するセルフケアについて	小西 清美
現代社会を生きる若者の特徴とケアリング	下地 紀晴
感情労働と看護—「白衣の天使」像の矛盾と葛藤—	鈴木 啓子
誰にでも起こりうる精神的トラブル—身近な人から「死にたい」と訴えられたら—	鈴木 啓子
がんと共に生きる	玉井 なおみ
性と生について考えよう—思春期の心とからだについて—	鶴巻 陽子
認知症サポーター養成講座 認知症について知り、認知症サポーターになろう!	永田 美和子
高齢者に優しく接していますか。	永田 美和子
新型コロナウイルス感染症拡大を予防しよう!	西田 涼子
予防接種について理解を深めよう	松下 聖子
お小遣いを自分で管理すること～精神の病を抱えて生きる～	村上 満子
退院したいけど退院したくない～精神科病院で長期入院している患者さんのこと～	村上 満子
国際保健とケアリング	横川 裕美子
【リベラルアーツ機構】	
科学で紐解く物質の世界	立津 慶幸
なぜ科学を学ぶのか?	立津 慶幸
はじめて学ぶ中国語	山城 智史
中国語 初級から中級へ	山城 智史
中国近現代史と外交	山城 智史
琉球処分と国際情勢	山城 智史
国際理解と外国語習得	山城 智史

問い合わせ先 入試・広報課 TEL 0980-51-1056

校舎等施設

キャンパスマップ CAMPUS MAP



1 校地面積 令和5年5月1日現在

(1) 自己所有地	116,823.00㎡
(2) 無償貸借地	140,968.16㎡

2 校舎面積 令和5年5月1日現在

(1) 自己所有	① 講義棟	5,076.58㎡
	② 研究棟	2,985.82㎡
	③ 図書館棟 (研究室含む)	5,522.89㎡
	④ 体育館・課外活動施設	1,770.35㎡
	⑤ 本部棟	2,081.88㎡
	⑥ 第2課外活動施設	717.94㎡
	⑦ 学生センター (入試・広報課)	338.34㎡
	⑧ 屋内プール	929.42㎡
	⑨ 実験実習棟	2,367.60㎡
	⑩ 第3研究棟	683.15㎡
	⑪ 学生会館SAKURAUM	6,191.12㎡
	⑫ 第4課外活動施設	160.38㎡
(2) 名護市指定 管理施設	① 留学生センター <small>(大学所有分 799.44㎡含む)</small>	2,099.67㎡
	② 多目的ホール	2,872.00㎡
	③ 総合研究所 (環太平洋地域文化研究所)	854.00㎡
	④ 北部生涯学習推進センター	6,379.00㎡
	⑤ 北部地域看護系医療人材育成支援施設	3,762.00㎡



本部棟 平成8年3月完成



4階	理事長室、学長室、事務局長室、副学長室、第一会議室
3階	人間健康学部長室、総務企画部、財務部、第二会議室
2階	副学長室、国際学部長室、教務課、教員養成支援センター、非常勤講師控室
1階	守衛室、防災センター

研究棟 平成6年4月完成



2～5階	教員研究室、大学院国際文化研究科
1階	助産学専攻科、実験室

講義棟 平成6年4月完成



大講義室3室
中講義室6室
語学系講義室9室、多目的教室2室、事務室1室
ゼミ室3室
自然系実験室1室
情報系講義室4室（内準備室1）

多目的ホール 平成11年6月完成



名護市により建設されたドーム型の多目的施設。大ホールは451席のスペースを有し、授業や講演会、学会、シンポジウム、コンサートなど、学内外に広く開放・利用されている。

附属図書館 平成6年4月完成



教育研究に必要な図書資料・情報を収集・整理・保存し、学生・教員そして市民に利用を提供している。蔵書数は次のとおり。

令和5年5月1日現在

資料種別	資料種別	蔵書数
図書(冊)	和	136,147
	洋	38,328
	合計	174,475
雑誌(種)	和	957
	洋	282
	合計	1,239
A V(点)	和	3,127
	洋	413
	合計	3,540

北部地域看護系医療人材育成支援施設（看護学科棟） 平成21年3月完成



看護学科棟は、北部地域看護系医療人材育成支援機能を兼ねて、高度な教材備品と、充実した設備が完備されている。開放的な空間が広がり、各階のピロティには、ポップカラーのテーブルと椅子が配置され、学生の憩いの場となっている。

人間健康学部実験・実習棟 …… 平成18年3月完成



トレーニング機器や筋機能測定装置、トレッドミル・エルゴメーターなどを備えた運動学・運動生理学実験室、看護・介護・養護実習室、プレイルーム・心理学実験室などの充実した設備が完備されている。

保健センター ……



保健センターでは、保健室、学生相談室で学生、教職員がセルフメディケーションを行えるようサポートしている。さらに、学業・人間関係・健康の保持増進(身体面・精神面)・疾病の予防・活動(部活動・サークル活動・アルバイト等)を通し、よりよい学生生活を営むことができるよう、自己管理を目標とし、学生を中心にびあ活動を行っている。

【保健室利用時間】 8:30～19:00

【学生相談室利用時間】 保健室にてご確認ください。 ※要予約

体育館 …… 平成7年1月完成



講義での使用はもちろん、バスケットボール、ハンドボール、バレーボールなどのサークル活動でも使用されている。

野球場 …… 平成16年3月完成



硬式野球部の部活動で利用されている。充実した課外活動が行えるよう、夜間照明設備も整備されている。

留学生センター …… 平成6年4月完成 (1階) 平成11年1月増築分完成 (2・3・4階)



留学生センターはキャンパス内の宿舎で、全室個室でキッチン、バス、トイレ、冷蔵庫、食器棚、ベッド、クーラーを完備した95室が用意され、主に外国人留学生を対象に学習・生活の支援を行っている。

学内食堂・売店 ……



学内食堂 工事中(令和6年度中に再開予定)

売店 工事中(学生会館1階で仮営業中。令和6年度中に再開予定)

屋内プール …… 平成17年3月完成



屋内プールは、25mのプールと水深5mのダイビング訓練用潜水プールを備えており、授業やサークル活動は勿論のこと消防の訓練でも使用されている。

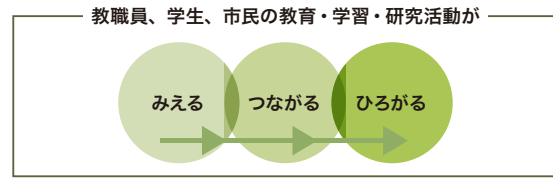
北部生涯学習推進センター …… 平成16年10月完成



沖縄県北部地域における生涯学習や地域振興に資する人材育成などを目的とした、産官学の連携による名護市公共施設としてキャンパス内に建設され、管理・運営が名桜大学に委託されている。施設内には、研修室、パソコンルームなどが整備されている。

～「みえる・つながる・ひろがる」をコア・コンセプトにした交流の場～

名桜大学開学20周年・公立大学法人化5周年記念事業の一環で「学生の主体的な学び」の場として、先輩・後輩コミュニティを基本とした学習支援や教員、職員、学生が自律的に学習できる環境の実現を目的に、名桜大学学生会館SAKURAUMが建設された。学内外の交流の場としても有効に活用されている。



オープンスペース 学習環境の充実 学習支援の充実 プレゼンテーションスペース 集う空間 食・憩・話 相談窓口の充実 学習情報の一元化

敷地面積	218,228.00㎡
階数	地上6階
高さ	最高の高さ29.65m 軒高28.25m
面積	6,191.12㎡

SAKURAUMとは

名桜大学の桜＝サクラのイメージとドイツ語で空間を意味するラウム (Raum) を合わせて、サクラ+ラウムの造語。サクラウム＝桜生むということで、この施設で新たな教育の原動力を生むことにもつながります。

1F ウェルカムホール

開放感のあるエントランスの一角には仕切りのないプレゼンテーションコーナー（(仮称)本部棟増築のため、令和6年3月まで売店として使用予定）が設置されている。

2F カフェ

コミュニケーションスペースとして利用。琉球畳を敷いたスペースもある

3F 大講義室 (2室)

248人収容の大講義室

4F 学生支援

言語学習センター
数理学習センター
ライティングセンター
アクティブラーニングスペース
ウェルナビ

5F 学生支援

学生会館運営室
キャリア支援課
国際交流センター
アクティブラーニングスペース

6F スカイホール

名護湾・名護市街が一望できる最上階のスカイホール

多目的グラウンド・・ 平成8年3月完成（平成28年11月改修） テニスコート 平成12年4月完成（平成28年11月移設） 多目的広場 平成16年3月完成（平成29年6月改修）

全天候型ウレタン舗装の400mトラック（6レーン、直線部6レーン）、フィールド競技として走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投を設置し、日本陸連4種公認取得の陸上競技場及びインフィールドに人工芝のサッカー場とラグビー場を設けた。講義・課外活動をはじめ各種大会等も行われている。

また、周辺整備として全面人工芝2面のテニスコートを移設整備し、多目的広場をソフトボールおよび軟式野球場の練習場として改修した。平成29年8月から夜間の使用も可能。

面積：多目的グラウンド	17,465.00㎡
テニスコート	1,277.80㎡
多目的広場	3,261.00㎡



国際学群・人間健康学部

在籍者数

令和5年5月1日現在

学部	学科	入学定員 (編入)	1年次			2年次			3年次			4年次			合計			収容 定員
			男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	
国際学部	国際文化学科	180(5)	77	103	180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	77	103	180	730
	国際観光産業学科	160(5)	86	85	171	0	0	0	0	0	0	0	0	0	86	85	171	650
	小計	340(10)	163	188	351	0	0	0	0	0	0	0	0	0	163	188	351	1380
国際学群	国際学類	280(15)	2	1	3	144	165	309	116	174	290	140	203	343	402	543	945	1,150
人間健康学部	スポーツ健康	95(5)	49	54	103	52	57	109	46	55	101	67	41	108	214	207	421	390
	看護	80(5)	10	73	83	13	75	88	12	80	92	12	78	90	47	306	353	330
	健康情報学科	80(5)	23	21	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	21	44	330
	小計	255(15)	82	148	230	65	132	197	58	135	193	79	119	198	284	534	818	1,050
合計		875(40)	247	337	584	209	297	506	174	309	483	219	322	541	849	1,265	2,114	3,580

国際学群国際学類専攻別在籍者数

令和5年5月1日現在

学群	学類	専攻	3年次				4年次				合計			
			男	女	男女計	学年全体比	男	女	男女計	学年全体比	男	女	男女計	専攻全体比
国際学群	国際学類	国際文化	11	35	46	15.9%	31	38	69	20.1%	42	73	115	18.1%
		語学教育	17	36	53	18.3%	26	49	75	21.8%	43	85	128	20.2%
		経営専攻	39	27	66	22.8%	31	39	70	20.3%	70	66	136	21.5%
		情報システムズ	16	4	20	6.9%	26	6	32	9.3%	42	10	52	8.2%
		診療情報管理	2	10	12	4.1%	3	4	7	2.0%	5	14	19	3.0%
		観光産業	29	61	90	31.0%	23	68	91	26.5%	52	129	181	28.5%
合計			114	173	287	100%	140	204	344	100%	254	377	631	100%

※国際学群学生は、3年次から専攻に所属する教育システムとなっている。

留学生・外国人学生在学数(再掲)

令和5年5月1日現在

国籍	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
中国	4	4	5	8	21
韓国	0	2	0	1	3
台湾	1	0	0	0	1
ベトナム	0	0	0	1	1
ミャンマー	0	0	0	1	1
ネパール	0	1	0	0	1
バングラデシュ	0	0	1	0	1
モンゴル	0	0	1	0	1
合計	5	7	7	11	30

科目等履修生・特別聴講学生・研究生

令和5年5月1日現在

科目等履修生	特別聴講学生	合計
11	34	45

都道府県別在籍者数

令和5年5月1日現在

都道府県名	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	都道府県名	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
北海道	13	15	17	18	63	滋賀県	3	2	0	3	8
青森県	1	0	1	0	2	京都府	5	1	4	0	10
岩手県	1	7	5	4	17	大阪府	11	3	3	8	25
宮城県	5	6	0	1	12	兵庫県	8	8	12	12	40
秋田県	0	1	1	1	3	奈良県	1	0	1	2	4
山形県	2	0	0	1	3	和歌山県	0	0	2	2	4
福島県	4	1	0	3	8	鳥取県	1	2	6	1	10
茨城県	10	7	12	10	39	島根県	0	3	4	1	8
栃木県	2	6	4	4	16	岡山県	7	3	2	4	16
群馬県	1	3	1	3	8	広島県	10	13	18	12	53
埼玉県	2	1	3	4	10	山口県	4	2	5	6	17
千葉県	6	2	3	2	13	徳島県	4	3	4	3	14
東京都	4	2	4	5	15	香川県	1	0	1	3	5
神奈川県	0	1	1	1	3	愛媛県	7	7	5	7	26
新潟県	3	3	1	4	11	高知県	3	1	1	0	5
山梨県	1	0	2	1	4	福岡県	24	20	19	24	87
長野県	3	4	3	3	13	佐賀県	8	2	7	2	19
富山県	2	2	0	1	5	長崎県	16	13	20	16	65
石川県	4	1	2	2	9	熊本県	14	12	9	11	46
福井県	0	1	1	0	2	大分県	17	14	16	15	62
岐阜県	3	3	1	3	10	宮崎県	17	13	11	16	57
静岡県	16	15	9	9	49	鹿児島県	20	26	27	26	99
愛知県	11	7	4	10	32	沖縄県	302	258	222	264	1,046
三重県	2	3	2	2	9	海外	5	9	7	11	32
						合計	584	506	483	541	2,114

※統計上、出身校の所在都道府県を学生の出身都道府県とした。
ただし、編入生及び大検学生については、帰省先を出身都道府県とした。

学生数推移(直近10年)

※年度ごとの学生総数。各年度5月1日現在

学部 学科	年度	2013 (平成25)			2014 (平成26)			2015 (平成27)			2016 (平成28)			2017 (平成29)			2018 (平成30)		
		男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
国際学部	国際文化学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	国際観光産業学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
国際学群	国際学類	581	640	1,221	587	699	1,286	588	697	1,285	574	708	1,282	567	717	1,284	563	721	1,284
人間健康学部	スポーツ健康学科	239	187	426	234	185	419	225	191	416	230	185	415	233	185	418	232	177	409
	看護学科	65	301	366	69	288	357	79	277	356	74	285	359	68	282	350	67	283	350
	健康情報学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小計	304	488	792	303	473	776	304	468	772	304	470	774	301	467	768	299	460	759
	合計	885	1,128	2,013	890	1,172	2,062	892	1,165	2,057	878	1,178	2,056	868	1,184	2,052	862	1,181	2,043

学部 学科	年度	2019 (平成31)			2020 (令和2)			2021 (令和3)			2022 (令和4)			2023 (令和5)		
		男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
国際学部	国際文化学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	77	103	180	
	国際観光産業学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	86	85	171	
国際学群	国際学類	538	751	1,289	507	747	1,254	497	757	1,254	513	721	1,234	402	543	945
人間健康学部	スポーツ健康学科	244	170	414	237	179	416	235	186	421	217	197	414	214	207	421
	看護学科	54	298	352	53	294	347	56	291	347	50	311	361	47	306	353
	健康情報学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23	21	44
	小計	298	468	766	290	473	763	291	477	768	267	508	775	284	534	818
	合計	836	1,219	2,055	797	1,220	2,017	788	1,234	2,022	780	1,229	2,009	849	1,265	2,114

※1 2010年(平成22年)公立大学法人へ移行

※2 2023(令和5)年 国際学群 国際文化学科、国際観光産業学科 人間健康学部 健康情報学科を開設。

大学院・専攻科

在籍者数

令和5年5月1日現在

研究科	専攻	教育研究領域	入学定員	1年次									2年次									3年次									合計								
				男			女			男女計			男			女			男女計			男			女			男女計			男			女			男女計		
				男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計			
国際文化	国際地域文化(博士後期課程)	—	2	0	1	1	1	1	2	5	2	7	6	4	10																								
	国際文化システム	言語文化	6	3	0	3	1	1	2	-	-	-	4	1	5																								
		社会制度政策		0	0	0	0	3	3	-	-	-	0	3	3																								
		経営情報		0	0	0	0	0	0	-	-	-	0	0	0																								
		観光環境		0	1	1	0	1	1	-	-	-	0	2	2																								
		健康科学		0	0	0	0	2	2	-	-	-	0	2	2																								
小計		3	1	4	1	7	8	-	-	-	4	8	12																										
看護学	看護学(博士前期課程)	基礎看護学	6	1	0	1	0	0	0	-	-	-	1	0	1																								
		臨床看護学		0	4	4	3	6	9	-	-	-	3	10	13																								
		小計		1	4	5	3	6	9	-	-	-	4	10	14																								
	看護学(博士後期課程)	基礎看護学	2	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	2	2																								
		応用看護学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																								
		生活支援看護学		0	2	2	0	1	1	0	0	0	0	3	3																								
小計		0	3	3	0	2	2	-	-	-	0	5	5																										
合計		4	9	13	5	16	21	-	-	-	14	27	41																										

留学生・外国人学生

国際文化研究科(修士課程)再掲 令和5年5月1日現在

国籍	1年次	2年次	合計
中国	3	3	6
台湾	0	0	0
合計	3	3	6

国際文化研究科(博士後期課程)再掲 令和5年5月1日現在

国籍	1年次	2年次	3年次	合計
中国	0	1	0	1
台湾	0	0	0	0
合計	0	1	0	1

科目等履修生・

特別聴講学生・研究生(大学院)

4月受入 令和5年5月1日現在

科目等履修生	0
特別聴講学生	0
研究生	2
合計	2

大学院学生数推移(直近10年)

※(年度ごとの学生総数。各年度5月1日現在)

研究科 専攻	年度		2013 (平成25)			2014 (平成26)			2015 (平成27)			2016 (平成28)			2017 (平成29)			2018 (平成30)			2019 (平成31)			2020 (令和2年)			2021 (令和3年)			2022 (令和4年)		
	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計		
	国際文化	国際地域文化専攻(博士後期課程)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	5	4	4	8	6	4	10	7	5	12
国際文化	国際文化システム	言語文化	1	2	3	0	2	2	2	3	5	3	5	8	2	5	7	3	4	7	2	3	5	0	8	8	2	7	9	3	2	5
	社会制度政策	2	0	2	2	0	2	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	3	3	0	4	4	0	3	3	
	経営情報	2	1	3	4	2	6	3	1	4	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	1	1	2	1	1	2	
	観光環境	2	2	4	2	2	4	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	2	2	0	2	2	
	人間健康科学	1	0	1	0	2	2	1	2	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	健康科学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	2	3	5	2	3	5	2	2	4	0	3	3	0	3	3	0	2	2	
小計	8	5	13	8	8	16	7	6	13	7	7	14	5	9	14	6	9	15	4	7	11	0	15	15	3	17	20	4	10	14		
看護学	看護学専攻(博士後期課程)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	基礎看護学分野	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	2	2	0	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	2	3	
	臨床看護学分野	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	6	3	8	11	5	13	18	4	11	15	7	9	16	7	8	15	6	8	14	
	基礎看護学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	看護学教育	0	4	4	0	4	4	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	地域在宅看護学	1	2	3	1	3	4	0	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	高齢者リハビリテーション看護学	0	0	0	1	2	3	1	5	6	0	3	3	0	2	2	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母性看護学	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小児看護学	0	1	1	0	2	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	精神看護学	1	2	3	2	1	3	2	1	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計	2	10	12	4	12	16	3	12	15	1	13	14	3	13	16	5	15	20	4	12	16	7	9	16	7	10	17	7	10	17		
合計	10	15	25	12	20	32	10	18	28	8	20	28	8	22	30	11	24	35	11	21	32	11	28	39	16	31	47	18	28	46		

※ 国際地域文化専攻(博士後期課程)は、平成31年4月開設

令和5年度助産学専攻科 在籍者数

令和5年5月1日現在

専攻科	入学定員	在籍者数
助産学専攻科	6	6

志願・入学状況

令和5年度大学院 入学状況

令和5年4月1日現在

研究科	募集人員	志願者数統計			入学者数総計		
		男	女	計	男	女	計
国際文化研究科(博士後期課程)	2	0	1	1	0	1	1
看護学研究科(博士後期課程)	2	0	4	4	0	3	3
国際文化研究科(修士課程)	6	5	3	8	3	1	4
看護学研究科(博士前期課程)	6	0	4	4	0	3	3
合計	16	5	12	17	3	8	11

令和5年度学部 入学状況

令和5年4月1日現在

学部	学科	募集人員	志願者数			入学者数		
			男	女	計	男	女	計
国際学部	国際文化学科	180	166	214	380	77	103	180
	国際観光産業学科	160	177	179	356	86	85	171
人間健康学部	スポーツ健康学科	95	233	158	391	48	53	101
	看護学科	80	41	185	226	10	73	83
	健康情報学科	80	48	41	89	23	21	44
合計		595	665	777	1442	244	335	579

令和5年度学群・学部 編入学状況

令和5年4月1日現在

学群・学部	学科	募集人員	志願者数			入学者数		
			男	女	計	男	女	計
国際学群	国際学類	180	13	6	19	6	4	10
人間健康学部	スポーツ健康学科	95	1	2	3	0	1	1
	看護学科	80	2	17	19	0	5	5
合計		355	16	25	41	6	10	16

令和5年度専攻科 入学状況

令和5年4月1日現在

専攻科	募集人員	志願者数(女)	入学者数(女)
助産学専攻科	6	23	6

※2年次・3年次編入生は除く

沖縄県北部地域所在高等学校入学者

名護高校、名護商工高校、北部農林高校、辺土名高校、北山高校、本部高校、宜野座高校

学部	入学年	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019 (平成31)	2020 (令和2)	2021 (令和3)	2022 (令和4)	2023 (令和5)
国際学部		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
県内高校入学者比率		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12%
国際学群		30	38	34	22	23	34	21	29	24	34	-
県内高校入学者比率		23%	28%	25%	17%	16%	24%	16%	20%	20%	23%	-
人間健康学部		21	27	24	24	26	29	18	21	23	25	40
県内高校入学者比率		25%	27%	24%	24%	27%	32%	19%	23%	29%	25%	30%

※沖縄県内入学者数

学部	学科	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019 (平成31)	2020 (令和2)	2021 (令和3)	2022 (令和4)	2023 (令和5)
国際学部	国際文化学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	70
	国際観光産業学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100
国際学群		131	137	137	130	143	144	131	143	123	149	-
人間健康学部	スポーツ健康学科	29	38	37	35	34	30	30	26	31	34	40
	看護学科	54	61	64	63	63	61	64	65	49	65	60
	健康情報学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33
合計		214	236	238	228	241	235	225	234	203	248	303

令和5年度沖縄県北部地域所在高等学校入学者数

高校名	入学者数															全学計		
	国際文化学科			国際観光産業学科			スポーツ健康学科			看護学科			健康情報学科			男	女	男女計
	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
名護高等学校	1	3	4	7	3	10	5	2	7	0	12	12	0	4	4	13	24	37
名護商工高等学校	0	0	0	2	1	3	0	2	2	0	0	0	0	1	1	2	4	6
北部農林高等学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	2
辺土名高等学校	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	2
北山高等学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	0	2	3	1	4
本部高等学校	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	2	0	2	3	1	4
宜野座高等学校	1	0	1	1	1	2	0	1	1	0	1	1	1	0	1	3	3	6
合計	2	3	5	11	5	16	6	5	11	1	17	18	6	5	11	26	35	61
入学者数全体比	3%			9%			11%			22%			25%			11%		
沖縄県内高校入学者数比	7%			16%			28%			30%			33%			20%		

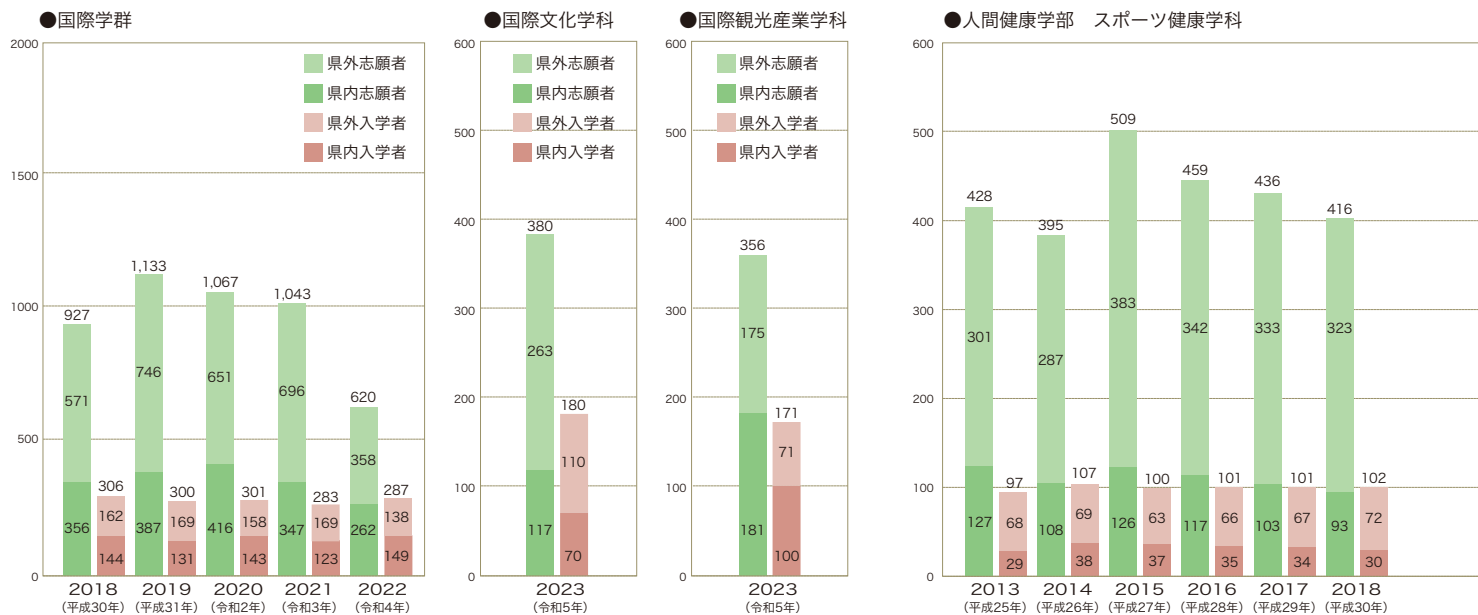
大学院 志願者・入学者数推移

※各年度、4月1日現在

研究科	年度	2008 (平成20)	2009 (平成21年)	2010 (平成22)	2011 (平成23)	2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019 (平成31)	2020 (令和2)	2021 (令和3)	2022 (令和4)	2023 (令和5)
国際文化研究科(博士後期課程)	志願者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	2	2	3	1
	入学者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	2	2	2	1
看護学研究科(博士後期課程)	志願者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4
	入学者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3
国際文化研究科(修士課程)	志願者	7	13	11	11	7	11	8	8	8	14	8	6	15	9	7	8
	入学者	5	7	7	6	3	6	6	6	7	7	5	4	11	7	5	4
看護学研究科(博士前期課程)	志願者	-	-	-	7	7	4	9	5	8	6	8	5	9	7	7	4
	入学者	-	-	-	6	6	4	8	5	8	5	7	4	7	7	5	3

志願・入学状況

学群・学部 志願者・入学者数推移(県内・県外別)



卒業・修了状況

学部卒業生数

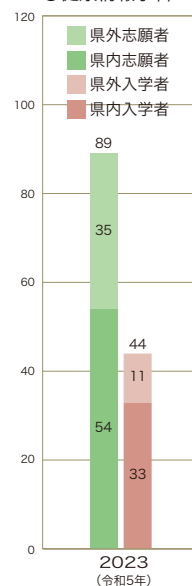
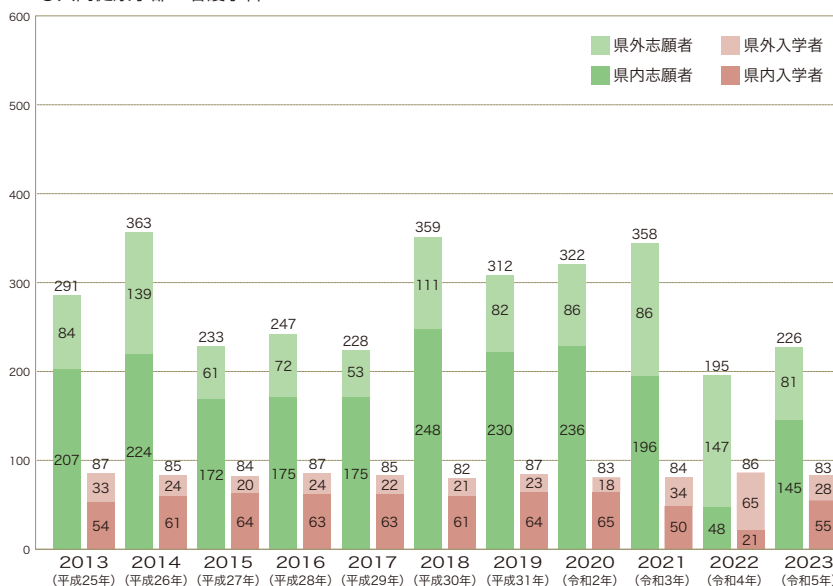
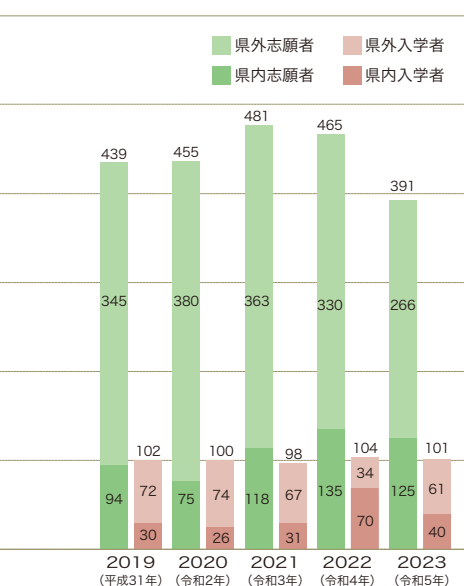
卒業年度	1997~2011 (平成9~24)			2012 (平成24)			2013 (平成25)			2014 (平成26)			2015 (平成27年)			2016 (平成28)		
	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
国際学部 年度別 (内留学生)	229	118	347	7	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学部累計 (内留学生)	4,293	2,646	6,939	2,735	1,571	4,306	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国際学群 年度別 (内留学生)	-	-	-	111	52	163	113	102	215	122	159	281	135	158	293	116	146	262
学群累計 (内留学生)	-	-	-	332	175	507	445	277	722	567	436	1,003	702	594	1,296	818	740	1,558
人間健康学部	-	-	-	72	34	106	55	40	95	57	43	100	51	46	97	43	44	87
スポーツ健康学科	-	-	-	10	67	77	17	76	93	16	74	90	18	69	87	16	80	96
看護学科	-	-	-	82	101	183	72	116	188	73	117	190	69	115	184	59	124	183
学部年度計	-	-	-	343	398	741	415	514	929	488	631	1,119	557	746	1,303	616	870	1,486
累計	-	-	-	200	154	354	185	218	403	195	276	471	204	273	477	175	270	445
全学 年度合計 (内留学生)	229	118	347	200	154	354	185	218	403	195	276	471	204	273	477	175	270	445
	-	-	(12)	(1)	(8)	(9)	(11)	(13)	(24)	(4)	(3)	(7)	(5)	(6)	(11)	(3)	(2)	(5)

修士課程修了生数

修了年度	2002~2011 (平成14~23)			2012 (平成24)			2013 (平成25)			2014 (平成26)			2015 (平成27)			2016 (平成28)			2017 (平成29)		
	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
国際文化研究科 年度別 (内留学生)	4	0	4	2	2	4	2	1	3	3	4	7	2	4	6	3	2	5	1	3	4
累計 (内留学生)	98	64	236	68	44	112	70	45	115	73	49	122	75	53	128	78	55	133	79	58	137
	(27)	(28)	(55)	(25)	(21)	(46)	(26)	(21)	(47)	(28)	(24)	(52)	(29)	(26)	(55)	(29)	(28)	(57)	(29)	(30)	(59)
看護学研究科 年度別	-	-	-	1	3	4	0	4	4	1	4	5	2	6	8	0	3	3	1	2	3
累計	-	-	-	1	3	4	1	7	8	2	11	13	4	17	21	4	20	24	5	22	27
全大学院 年度合計 (内留学生)	4	0	4	3	5	8	2	5	7	4	8	12	4	10	14	3	5	8	2	5	7
	(3)	(0)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(0)	(1)	(2)	(3)	(5)	(1)	(2)	(3)	(0)	(2)	(2)	(0)	(2)	(2)
全大学院 累計 (内留学生)	98	64	162	69	47	116	71	52	123	75	60	135	79	70	149	82	75	157	84	80	164
	(27)	(29)	(55)	(25)	(21)	(46)	(26)	(21)	(47)	(28)	(24)	(52)	(29)	(26)	(55)	(29)	(28)	(57)	(29)	(30)	(59)

●人間健康学部 看護学科

●健康情報学科



2017 (平成29)			2018 (平成30)			2019 (令和1)			2020 (令和2)			2021 (令和3)			2022 (令和4)		
男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
121	165	286	121	154	275	139	171	310	114	159	273	119	177	296	103	172	275
(4)	(3)	(7)	(4)	(1)	(5)	(3)	(1)	(4)	(0)	(1)	(1)	(0)	(5)	(5)	(6)	(4)	(10)
939	905	1,844	1,060	1,059	2,119	1,199	1,230	2,429	1,313	1,389	2,702	1,432	1,566	2,998	1,535	1,738	3,273
(31)	(46)	(77)	(35)	(47)	(82)	(38)	(48)	(86)	(38)	(49)	(87)	(38)	(54)	(92)	(44)	(58)	(102)
60	47	107	47	50	97	55	37	92	45	45	90	54	44	98	48	40	88
17	66	83	21	64	85	13	76	89	9	77	86	21	58	79	82	13	95
77	113	190	68	114	182	68	113	181	54	122	176	75	102	177	130	53	183
693	983	1,676	761	1,097	1,858	829	1,210	2,039	883	1,332	2,215	958	1,434	2,392	1,088	1,487	2,575
198	278	476	189	268	457	207	284	491	168	281	449	194	279	473	233	225	458
(4)	(3)	(7)	(4)	(1)	(5)	(3)	(1)	(4)	(0)	(1)	(1)	(0)	(5)	(5)	(6)	(4)	(10)

※国際学部平成19年度学生募集停止、平成27年3月31日付廃止。人間健康学部スポーツ健康学科平成17年開設、同看護学科平成19年開設。

2018 (平成30)			2019 (令和1)			2020 (令和2)			2021 (令和3)			2022 (令和4)		
男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
3	5	8	2	2	4	0	2	2	0	11	11	5	3	8
(0)	(2)	(2)	(1)	(2)	(3)	(0)	(0)	(0)	(0)	(5)	(5)	(3)	(2)	(5)
82	63	145	84	65	149	84	67	151	84	78	162	89	81	170
(29)	(32)	(61)	(30)	(34)	(64)	(30)	(34)	(64)	(30)	(39)	(69)	(33)	(41)	(74)
1	7	8	1	5	6	0	4	4	3	2	5	3	3	6
6	29	35	7	34	41	7	38	45	10	40	50	13	43	56
4	12	16	3	7	10	0	6	6	3	13	16	8	6	14
(0)	(2)	(2)	(1)	(2)	(3)	(0)	(0)	(0)	(0)	(5)	(5)	(3)	(2)	(5)
88	92	180	91	99	190	91	105	196	94	118	212	102	124	226
(29)	(32)	(61)	(30)	(34)	(64)	(30)	(34)	(64)	(30)	(39)	(69)	(33)	(41)	(74)

※看護学研究科平成23年開設

助産学専攻科修了生数

修了年度	2017 (平成29年度)	2018 (平成30年度)	2019 (令和元年度)	2020 (令和2年度)	2021 (令和3年度)	2022 (令和4年度)
	女	女	女	女	女	女
助産学専攻	6	6	6	6	6	6
累計	6	12	18	24	30	36

国際文化研究科(博士後期課程)

修了年度	2022(令和4)		
	男	女	男女計
国際文化研究科 年度別 (内留学生)	1	1	2
	(0)	(1)	(1)

令和5年度 名桜大学就職活動支援プログラム

名桜大学では、きめ細かい就職指導であなたの「進路」を全学的にバックアップします。

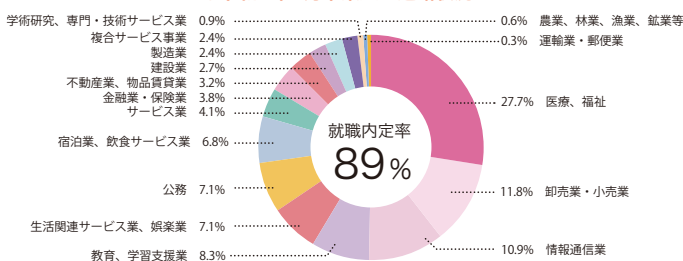
(2023年4月1日現在)

日程	事業名
2022年	
4月5日(水)～4月7日(金)	就職ガイダンス 1 「2024年度(2025年3月卒) 就活の流れについて」
4月12日(水)～4月28日(金)	学内合同企業説明会(一般企業等) 【オンライン型での開催】 ※左記の期間のうち4日間(実施日数は予定で変更の場合あり)
5月12日(金)	就職ガイダンス 2 「グループディスカッション」
	就職ガイダンス 3 「面接対策講座 ～集団面接～」
5月19日(金)	就職ガイダンス 4 「就職活動スタートアップ講座 ～就職活動のスケジュールについて～」
	就職ガイダンス 5 「就活シミュレーション ～自己分析 & 自己PR作成編～」
5月26日(金)	就職ガイダンス 6 「インターンシップについて」
6月9日(金)	就職ガイダンス 7 「リクナビ性格検査 & 企業研究の進め方」
6月16日(金)	就職ガイダンス 8 「ライフプランについて」
6月28日(水)	就職ガイダンス 9 ★ 「適性検査模擬試験」【ペーパー試験】
6月30日(金)	就職ガイダンス 10 ★ 「一般常識テスト(模擬試験)」【ペーパー試験】
7月7日(金)	就職ガイダンス 10 ★ 「一般常識テスト(模擬試験)」【ペーパー試験】
7月12日(水)	就職ガイダンス 10 ★ 「一般常識テスト(模擬試験)」【ペーパー試験】
7月8日(土)	国際学群3年次 就職・進路ガイダンス
7月14日(金)	就職ガイダンス 11 ★ 「SPI 理解講座」
7月21日(金)	就職ガイダンス 12 「インターンシップ参加学生対象 マナー講座」
7月26日(水)	就職ガイダンス 13 「公務員試験ガイダンス」
9月27日(水)	国際学群2年次 キャリアアップセミナー

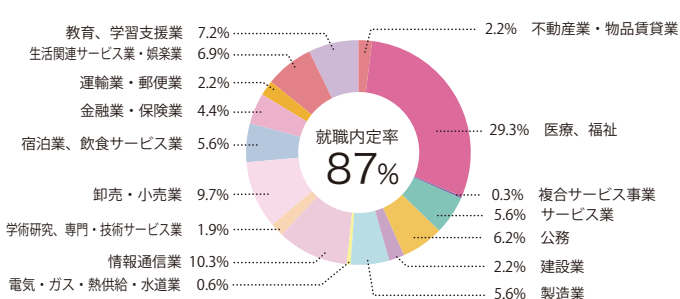
10月6日(金)	就職ガイダンス 14 「後期スタートアップ講座 ～選考突破に向けて今からすべきこと～」
10月13日(金)	就職ガイダンス 15 「インターンシップについて」
10月18日(水)	就職ガイダンス 16 ★ 「一般常識テスト(模擬試験)」【ペーパー試験】
10月20日(金)	就職ガイダンス 16 ★ 「一般常識テスト(模擬試験)」【ペーパー試験】
10月27日(金)	就職ガイダンス 17 ★ 「SPI 理解講座」
11月4日(土)	スポーツ健康学科1年次・2年次 キャリア秋季セミナー
11月10日(金)	就職ガイダンス 17 ★ 「女子学生対象 フレッシュヤーズメイクアップ講座」
11月17日(金)	就職ガイダンス 18 「内定を獲得した先輩から学ぶ就職活動方法」
12月1日(金)	就職ガイダンス 19 「自己分析 & 他己分析について」
12月8日(金)	就職ガイダンス 20 「企業研究について」
12月15日(金)	就職ガイダンス 21 「エントリーシート & 履歴書の書き方」
12月22日(金)	就職ガイダンス 22 「ビジネスマナー講座」
2024年	
1月17日(水)	就職ガイダンス 23 「就活直前対策講座」
1月19日(金)	就職ガイダンス 24 「本番直前！就活準備総まとめ講座」
3月4日(月)	看護学科3年次 キャリアアップセミナー
3月5日(火)	医療系学生対象 病院合同説明会 (看護学科、診療情報管理専攻)
3月13日(水)～3月29日(金)	学内合同企業説明会(一般企業等) 【オンライン型での開催】 ※左記の期間のうち7日間(実施日数は予定で変更の場合あり)

近年の就職実績

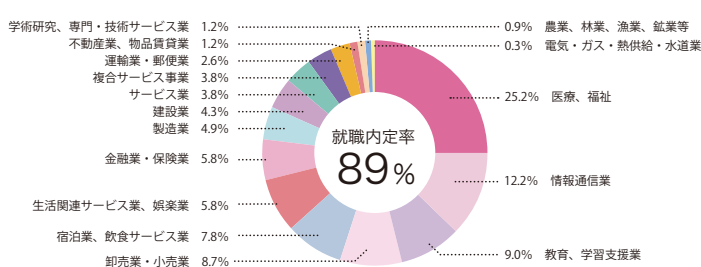
●令和5年3月卒業生の進路状況



●令和3年3月卒業生の進路状況



●令和4年3月卒業生の進路状況

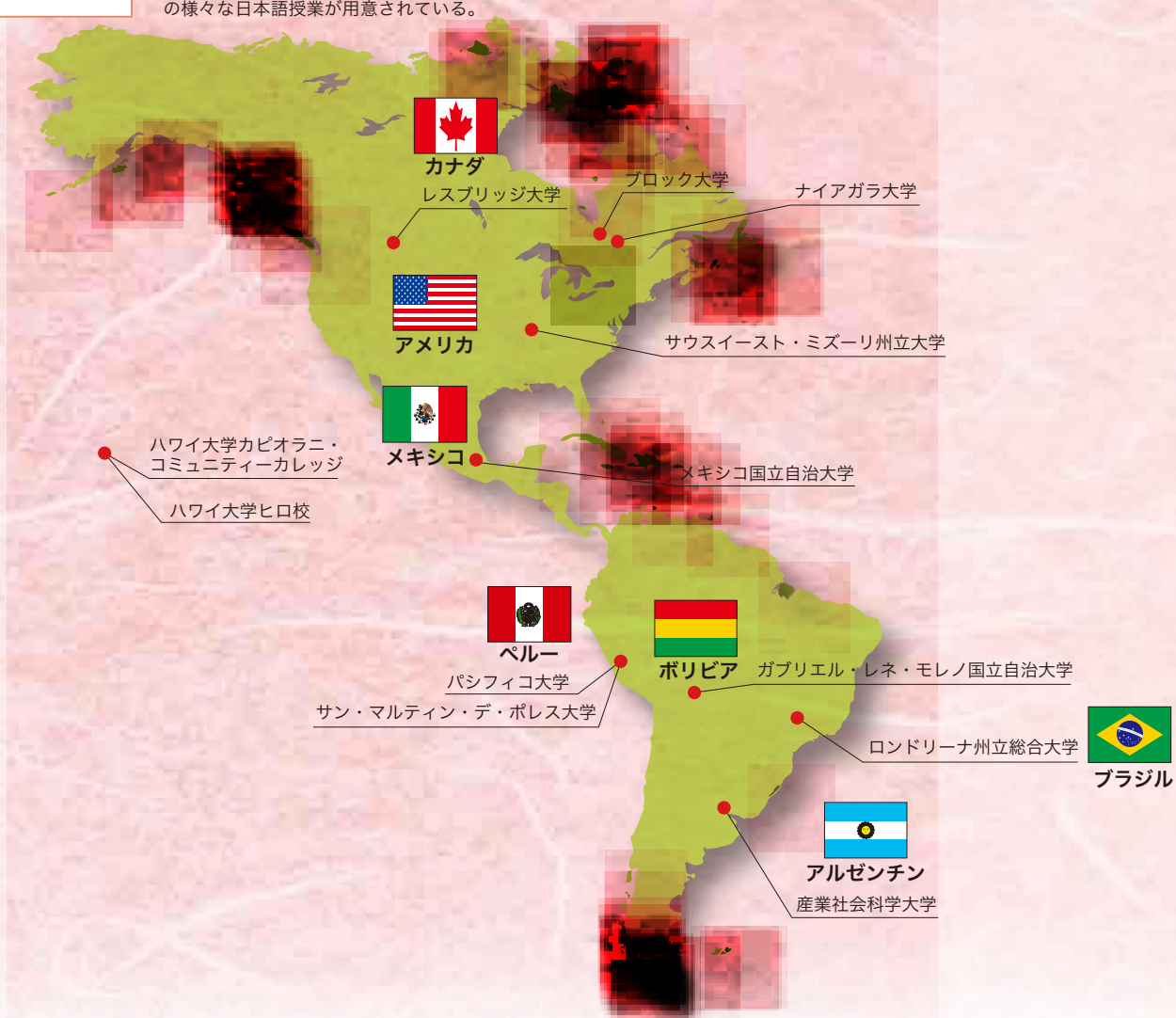


名桜大学年度別卒業生就職内定状況(直近10年)

学部・学科	年度	2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019 (令和元年度)	2020 (令和2年度)	2021 (令和3年度)	2022 (令和4年度)
国際学部	国際文化	0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	経営情報	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	観光産業	33%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国際学群	国際学類	69%	68%	79%	83%	85%	89%	91%	94%	81%	85%	85%
人間健康学部	スポーツ健康	65%	68%	78%	89%	88%	90%	86%	89%	91%	92%	94%
	看護	99%	97%	94%	99%	94%	99%	97%	100%	100%	100%	96%
合計		74%	75%	82%	87%	88%	91%	91%	94%	87%	89%	89%

国際交流協定

2023年5月現在、本学は教育・研究の対象としているアジア諸国、英語圏や中南米など海外17カ国・1地域に所在する39大学と交流協定を締結し積極的に国際交流事業を展開している。大学間学生交換留学制度では、本学の学生は1年間を上限に交換留学生として海外の協定大学へ留学することができる。また、留学先で修得した単位は本学の単位として認められるため、卒業要件単位が満たされれば、4年間で卒業することが可能となる。一方で、海外の協定大学から本学に留学する外国人学生のために、初級から上級レベルまでの様々な日本語授業が用意されている。



国内交流協定大学

本学は、国内の諸大学と交流協定を締結している。協定内容は、「単位互換協定」「学術交流及び連携に関する包括協定」「教育・研究等に関する連携協定」の3種類あり、単位互換や学生交流をはじめ、教職員の交流、地域社会への貢献に関する連携等、各大学間で交流事業を展開している。

単位互換協定の場合、学生は、協定大学に国内留学し、関連する授業科目を1学期あるいは2学期間履修し単位を取得できる。

国内交流協定大学等(12都道府県・21大学)

令和5年5月現在

大学名 University	協定年月日 Date of Agreement	令和5年度 学生派遣・受入実績	
		派遣	受入
放送大学	1994年3月7日(単位互換)	0	0
札幌国際大学	1995年3月31日(単位互換)	0	0
桜美林大学	1999年3月12日(単位互換)	1	0
大阪国際大学	2000年1月28日(単位互換)	1	0
文教大学湘南キャンパス あだちキャンパス	2001年6月15日(単位互換)	0	0
文京学院大学	2002年11月29日(単位互換)	0	0
横浜商科大学	2003年12月25日(単位互換)	1	0
奈良県立大学	2008年3月24日(単位互換)	0	3
静岡産業大学	2009年7月24日(単位互換) 2018年5月17日(教育研究等連携協定)	0	0
東海大学札幌キャンパス 国際文化学部	2011年5月11日(単位互換)	0	0
開智国際大学	2013年5月24日(単位互換)	0	0

大学名 University	協定年月日 Date of Agreement	令和5年度 学生派遣・受入実績	
		派遣	受入
公立はこだて未来大学	2015年10月22日(教育研究等連携協定、単位互換)	0	0
多摩大学	2016年1月5日(学術交流等包括、単位互換)	0	0
朝日大学	2016年5月10日(学術交流等包括、単位互換)	0	0
追手門学院大学	2017年6月20日(教育研究等連携協定)	0	0
関西国際大学	2017年12月14日(教育連携等連携) 2018年2月23日(単位互換)	0	0
沖縄工業高等専門学校	2018年3月19日(単位互換)	0	0
上越教育大学	2019年7月1日(教育研究等連携協定)	0	0
法政大学	2019年10月2日(単位互換)	1	1
阪南大学	2019年12月11日(教育研究等連携協定)	0	5
高知県立大学	2020年2月14日 (教育研究等連携協定、単位互換)	0	0
大東文化大学	2022年4月1日 (教育研究等連携協定)	0	0

学費・奨学金等 STUDY FEES & SCHOLARSHIPS

公立大学法人名桜大学 学費等納入金

令和5年度入学生適用

入学金・学費(学部・学群・研究科・専攻科)

(単位:円)

学部・学群・大学院・専攻科		国際学部(国際学群)	人間健康学部		大学院		専攻科
学科・学類・研究科・専攻科		国際文化学科 国際観光学科 (国際学科)	スポーツ健康学科 健康情報学科	看護学科	修士課程	博士後期課程	助産学専攻科
入学検定料		17,000			30,000		18,000
学費	入学金	(地域内) 125,000	(地域内) 125,000	(地域内) 125,000	(地域内) 125,000	(地域内) 125,000	(地域内) 125,000
		(地域外) 250,000	(地域外) 250,000	(地域外) 250,000	(地域外) 250,000	(地域外) 250,000	(地域外) 250,000
	授業料	前期 267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900
諸経費	後援会費	大学4年間分			大学院2年間分	大学院3年間分	専攻科1年分
		40,000	40,000	40,000	20,000	30,000	10,000
	学生教育研究災害傷害保険	3,300	3,300	3,300	1,750	2,600	1,000
	学研交付金賠償責任保険	1,360	1,360	2,000	—	—	500
	総合保障制度	—	—	18,000	—	—	4,500(総合保障制度「Will2」)
合計	入学手続時納入金	(地域内) 437,560	(地域内) 437,560	(地域内) 456,200	(地域内) 414,650	(地域内) 425,500	(地域内) 408,900
		(地域外) 562,560	(地域外) 562,560	(地域外) 581,200	(地域外) 539,650	(地域外) 550,500	(地域外) 533,900
	入学検定料除く。授業料は前期分のみ計上。						
	初年度納入総額	(地域内) 705,460	(地域内) 705,460	(地域内) 724,100	(地域内) 682,550	(地域内) 693,400	(地域内) 676,800
(地域外) 830,460		(地域外) 830,460	(地域外) 849,100	(地域外) 807,550	(地域外) 818,400	(地域外) 801,800	
入学検定料除く。授業料は前期・後期計上。							
2年次以降の授業料納付金	2年次(前期・後期)	535,800	535,800	535,800	535,800	535,800	—
	3年次(前期・後期)	535,800	535,800	535,800	—	535,800	—
	4年次(前期・後期)	535,800	535,800	535,800	—	—	—
4年間(大学院修士2年間/博士後期3年間/専攻科1年間)授業料等納付金(総額)(入学検定料除く)	(地域内) 2,312,860	(地域内) 2,312,860	(地域内) 2,331,500	(地域内) 1,218,350	(地域内) 1,765,000	(地域内) 676,800	
	(地域外) 2,437,860	(地域外) 2,437,860	(地域外) 2,456,500	(地域外) 1,343,350	(地域外) 1,890,000	(地域外) 801,800	

地域内…沖縄県北部12市町村関係者等、地域外…地域内以外の者(公立大学法人名桜大学学費等及び諸納入金に関する規程)
外国人留学生は本学の規定により入学金が地域外の半額となります。

研究生(1年間)

(単位:円)

学群・学部・大学院		大学院	
学類・学科・研究科		国際文化研究科	看護学研究科
入学検定料		9,800	
学費	入学金	30,000	
		前期 100,000	100,000
	後期 100,000	100,000	
諸経費	学生教育研究災害傷害保険	1,000	1,000
合計	入学手続時納入金	131,000	131,000
		入学検定料除く。授業料は前期分のみ計上。	
	年間納入総額	231,000	231,000
入学検定料除く。授業料は前期・後期計上。			

科目等履修生

(単位:円)

種別	区分	項目	履修料	備考
科目等履修生	国際文化学科	1単位	15,000	入学検定料5,000
	国際観光産業学科			
	スポーツ健康学科			
	看護学科			
	健康情報学科			
	大学院			
助産学専攻科				

学生支援:

名桜大学では、学生の学業、体育活動及び学生諸活動等の奨励並びに経済的支援を目的に、各種奨学金や授業料免除制度を整備している。

名桜大学奨学金

(単位:円)

奨学金名	種別	支給額	支給対象年次
学業奨励奨学金	第一種	200,000	2年~4年次
	第二種	100,000	
スポーツ奨励金	第一種	200,000	2年~4年次
	第二種	100,000	

※支給対象年次とは、願書の提出・選考を経て奨学金(1年間)を支給される年次をいう。
※令和2年度からは対象年次が2年次からとなります。

令和4年度奨学金支給実績

(単位:円)

名桜大学奨学金(2~4年次)	奨学金名	種別	1人当たり支給額	令和4年度	
				採用人数	支給合計
学業奨励奨学金	第一種	200,000	21	4,200,000	
	第二種	100,000	47	4,700,000	
スポーツ奨励金	第一種	200,000	0	0	
	第二種	100,000	12	1,200,000	
合計				80	10,100,000

やんばる奨学金

(単位:円)

奨学金名	支給額	支給対象年次
やんばる奨学金	100,000	1年次

令和4年度支給実績

(単位:円)

奨学金名	1人当たり支給額	令和4年度	
		採用人数	支給合計
やんばる奨学金	100,000	18	1,800,000
合計		18	1,800,000

名桜大学学長奨学金 (平成30年5月制定)

本学の教育目標である国際社会で活躍できる人材の育成に資する者で、在学中に所定の検定試験等に合格したものに、奨学金を給付することにより、修学を奨励することを目的に奨学金を支給している。

語学に関する検定等

(単位:円)

言語	検定等名称	認定された等級	奨学金額
英語	実用英語技能検定	1級合格	100,000
		準1級合格	50,000
	TOEFL iBT	100点以上	100,000
		80点以上	50,000
	TOEIC	908点以上	100,000
751点以上		50,000	
IELTS	7.0以上	100,000	
	6.0以上	50,000	
ドイツ語	ドイツ語技能検定	1級合格	100,000
		準1級合格	50,000
フランス語	実用フランス語検定	1級合格	100,000
		準1級合格	50,000
スペイン語	スペイン語技能検定	1級合格	100,000
		2級合格	50,000
	DELE (スペイン語)	C2 (最上級)合格	100,000
		C1 (上級)合格	50,000
ポルトガル語	国際ポルトガル語検定	大学級合格	100,000
		上級合格	50,000
	Celpe-Bras (ポルトガル語)	上級の上合格	100,000
		上級合格	50,000
中国語	中国語検定	1級合格	100,000
		準1級合格	50,000
	HSK(中国語)	6級(240点以上)	100,000
6級(180点以上)または5級(240点以上)		50,000	
韓国語	ハングル能力検定	1級合格	100,000
		2級合格	50,000
	韓国語能力試験	6級合格	100,000
		5級合格	50,000
タイ語	実用タイ語検定	1級合格	100,000
		2級合格	50,000

その他の検定等

(単位:円)

検定等名称	認定された等級	奨学金額
実用数学技能試験	1級合格	100,000
	準1級合格	50,000
統計検定	1級合格	100,000
	準1級合格	50,000

令和4年度支給実績

(単位:円)

検定等名称	級・スコア	1人当たり支給額(年額)	令和4年度	
			採用者数	支給合計
実用英語技能検定	準1級合格者	50,000	1	50,000
TOEIC	908点以上	100,000	1	100,000
	751点以上	50,000	6	300,000
韓国語能力試験	5級合格	50,000	3	150,000
合計			11	600,000

名桜大学大学院奨学金

(単位:円)

奨学金名	1人当たり支給額
国際文化研究科 修士課程一般奨学金	240,000
国際文化研究科 修士課程留学生奨学金	240,000
国際文化研究科 博士後期課程奨学金	240,000
看護学研究科	総額480,000(採用人数によって決定する)

令和4年度支給実績

(単位:円)

奨学金名	1人当たり支給額	令和4年度	
		採用者数	支給合計
国際文化研究科 修士課程一般奨学金	240,000	1	240,000
国際文化研究科 修士課程留学生奨学金	240,000	1	240,000
国際文化研究科 博士後期課程奨学金	240,000	0	0
看護学研究科	総額480,000 (採用人数によって決定する)	2	480,000
合計			960,000

名桜大学専攻科奨学金

(単位:円)

奨学金名	1人当たり支給額
助産学専攻科	総額240,000(採用人数によって決定する)

令和4年度支給実績

(単位:円)

奨学金名	1人当たり支給額	令和4年度	
		採用者数	支給合計
助産学専攻科	総額240,000 (採用人数によって決定する)	1	240,000
合計		1	240,000

留学生授業料減免

外国人留学生を対象に、経済的支援並びに学習の奨励を図ることを目的として、単位取得状況及び成績に応じ、授業料減免を実施している。

令和4年度実績

(単位:円)

	令和4年度	
	採用者数	支給合計
前期	37	4,889,175
後期	38	5,023,125
延人数/減免総額	75	9,912,300

クラブ・サークル CLUBS & CIRCLES

令和5年5月1日現在

体育系 部活/サークル	活動内容・目標
陸上競技部	週5日名桜大学多目的グラウンドにて短距離・跳躍・投てきブロック、中長距離ブロックに分かれて練習している。九州インカレ総合優勝・西日本インカレ入賞・全日本インカレ出場を目標としている。
硬式野球部	全日本大学野球選手権大会・明治神宮野球大会出場を目標に、週6日、名桜大学野球場にて技術の向上、人間形成及び部員相互間の親睦を図りながら練習に励んでいる。
男子ハンドボール部	週6日、名桜大学体育館及び生涯学習センターにて練習を行っている。また、名護市内のイベントの際には、ボランティアとして積極的に参加し地域との交流を深めている。
女子ハンドボール部	沖縄県内1位・九州学生リーグ1部残留を目標に、週5日、個々やチーム全体の技術向上のために練習に励んでいる。また、地域貢献としてボランティア活動も行っている。
男子バスケットボール部	九州リーグ1部昇格というチーム目標のもと、週5日練習に励んでいる。他チームとの練習試合を行い、技術・チーム力向上に努めている。また、ボランティア活動も行っている。
女子バスケットボール部	九州リーグ2部優勝を目標に、技術向上に向け切磋琢磨している。また、応援されるチームになるためにボランティア活動も行っている。
男子バレーボール部	九州リーグ1部昇格を目指し、週5日、名桜大学体育館で練習に励んでいる。また、他校との合同練習や練習試合を行いながら、地域行事へのボランティアにも参加している。
女子バレーボール部	九州リーグに照準を合わせ、全員バレーで日々練習に励んでいます。また、ボランティア活動や大会審判、補助役員、強化試合などに積極的に参加しています。
男子ソフトボール部	休日は対外試合や紅白戦等の実戦練習を多く取り入れ、チーム力の向上を目指している。ボランティア活動はできなかったが、今年は取り組んでいきたい。
女子ソフトボール部	平日は基礎的な練習を行い、短期集中でメリハリを大事に取り組んでいる。人数が少ないため全員が協力し工夫しながら取り組んでいる。
サッカー部	九州リーグ1部リーグ残留を目標とし、週6日、練習を行いチームの組織力の向上に努めている。指導者がいない状態で練習を行っていることから、選手同士のコミュニケーションを大事にしている。
女子サッカー部	週3日を活動日とし、基礎練習を中心に取り組んでいる。毎週社会人チームとの合同練習を行い、日々経験を積んでいる。今年から人数が増えて連盟登録ができた。
ゴルフ部	個人練習を基に、月1回のラウンド練習を行い技術の向上を図っている。他大学と共同で学生主体の大会運営も行っている。
水泳競技部	全国公立大学水泳選手権大会出場を目標に、週4日、技術の向上やベストタイム更新を目標に練習を行っている。
硬式テニス部	週3日、名桜大学テニスコートにて練習を行い、技術の向上に努めている。
ソフトテニスサークル	週3日、テニスコートにて活動を行い、技術向上に努めている。
フットサルサークル	週2日、学年や学部問わず楽しみながら活動を行っている。健康維持と人間関係の輪を広げることを目標としている。
ラグビー部	基礎練習や実戦形式の練習を行い、チーム力向上を目指している。また、個人練習、ポジション別練習を行い技術向上を図っている。
空手道部	全国空手道選手権大会ベスト8入賞を目指し、週3回武道場にて、空手の形・組手の稽古を行っている。週1日は個人練習を設けており、技術向上を図っている。
卓球部	週4回、名桜大学体育館にて練習を行っています。自主性を重視しており、基本的には各々にて練習を行っています。
男女バドミントン部	週4日、練習に励んでいる。また、他校の学生や社会人との合同練習なども行っている。
剣道部	自己の修養に努めることを目標とし、基礎練習を中心に練習を行っている。また、各種大会参加を通して地域の剣道活動の促進に励んでいる。
トライアスロン部	トライアスロン又はアクアスロン大会の完走、上位入賞を目標に、プールの練習を基本に、トラックを使用した陸上トレーニングやバイク練習を行っている。
バレーボールサークル	バレーボールを通して年次関係なく交流を深めることお目標に、初心者でも楽しくバレーボールができることを目標に、ゲームを行っています。
バスケットボールサークル	健康維持と人間関係を広げることを目標に、週2回、北部生涯センターでゲーム形式でバスケットボールを楽しんでいます。
名桜大学チアリーディング部	各種大会・イベントへ出場し人々を元気にすることを目標に、週2日、柔軟や筋力トレーニングなどの体力づくりを基本に、タンブリングやモーションなどの技術の向上に努めています。
Paddle & Surf	沖縄特有の自然環境をカヌーを通じて考えること。また、環境問題への課題解決活動に取り組む。初心者のサークル員に向けて体験会を行いました。
サッカーサークル	サッカーを通して交流を深めることを目標に、試合形式のゲームを行いサッカーを楽しんでいます。
軟式野球部	野球を通して体力向上及び技能向上
ウエイトリフティング部	学業と競技を両立し、健やかに心身を鍛え自身の資質向上に努める。

文化系 部活/サークル	活動内容・目標
吹奏楽部	各種コンクール、演奏会、名護市を中心とする地域行事への参加、名桜大学の学内行事を通しての音楽活動を行っている。
名桜エイサー	週3回、学内・学外演舞を行うために練習を行っている。
HIPHOPサークル	週4日、名桜大学武道場で練習を行っている。個人の技術向上、イベントに向けた練習を行っている。
ポルトガル語研究会	ブラジルの文化や移民の歴史を映像資料等を通して学び、意見交換を行い理解を深めている。また、ブラジルの年中行事に合わせたイベントを実施している。
ミュージックサークル	サークル室またはスタジオで、楽器の練習やバンド単位で演奏の練習をしている。また、ライブに出演し、CDの作成・販売をすることで練習成果を発表している。
現代中国研究会	中国語習得(会話練習、資格試験対策等)、地域と連携して地域貢献に関わる活動を進めている。
MSI	自分自身の食と健康について自分たちで考え、情報発信することを目的としている。保健センターだよりの作成、ランチョンミーティング、健康指導活動を行っている。
IGCC (Internastional Global Communication Circle)	国際交流を深めるとともに、語学力向上を目的としている。外部講師を招いて英会話活動を行っている。
将棋同好会	将棋の対局や戦法、詰将棋の問題集を使って棋力向上や部員同士の親睦を深めている。
K-POPサークル	K-POPアーティストのダンスをコピーして、学内外のイベントでパフォーマンス披露している。
学生リーダー	スポーツ健康学科の行事が円滑に進むようサポートを行う。スポーツ健康学科棟での活動ミーティング、オープンキャンパスの運営補助、オリエンテーションの運営補助などを行っている。
VAG (The Volunteer Activity Group)	看護学科内及び地域の看護・福祉に関するボランティア活動の窓口を担い、看護学生のボランティア活動の促進を行うことを目標としている。毎月1回、地域住民を対象に健康診断、健康相談活動、ゆんたくカフェなどを行い、健康の維持増進を図っている。
国際ボランティア研究会 (IVL)	国際ボランティアに関心のある学生が学ぶ機会を提供し、それぞれのキャリアアップにつなげることを目標としている。ボランティア情報の共有や映像を視聴して意見交換等を行っている。
健康教育サークル ヘルス・コミュニケーション・クラブ	北部離党や僻地の健康ニーズと対象者の特徴を把握しヘルスリテラシーの向上を目指している。北部離党や僻地の障がい者へ健康教室を行っている。
スペイン語研究会	留学生や他学科の人々との交流を通して、スペイン語圏の文化・言語について理解を深める。
Meio-Gaming	e-sports大会への出場、e-sports大会の開催、他大学e-sportsサークルとの交流を目標とし、オンライン上にてタイトル毎に活動を行っている。
名護市学習支援教室びゅあ	対象生徒の学習意欲の向上、長期における名護市全体の学力向上を目指している。名護市内の生活困窮世帯の児童生徒の学習支援や居場所づくり等を行っている。
green bird	「keep clean,keep green」をモットーに名護市を拠点とした街の清掃活動を行っている。
名桜社交ダンス部	社交ダンスの練習、行事やイベントへの参加を通して振興・普及を図る。また、社交ダンスの振興・普及とともに健康維持、ダンス技術向上を目指す。
名桜映像写真サークル	撮影・編集のスキルを身につけ、魅力が伝わる作品作りを目指している。映像や写真を撮影・編集し、SNSを通じて作品を発信している。
食育推進支援サークル	毎週火曜日、木曜日に子ども食堂として中学生に朝食ごはんを提供して。食事の大切さを学び、食事に関する関心を深めてもらうことを目標としている。
美術サークル	日々の活動を通して、お互いの美術の向上を目指す。また、美術のあらゆる技法の取得及びコンクールへの出展を目指す。
アジア看護学生協会 (ANSA)	看護系学生の学習意欲向上や地域住民の健康意識向上を目指し、アジア各国の看護系学生との交流や地域企業の健康支援活動を行っていく。
思春期応援団 やんばるがんばるびあまーる	やんばる地域の小中高生や大学生を対象に性・生に関する正しい知識をもち、ともに学ぶ。
フィッシングサークル	自然体験を通して自然の大切さを学ぶ。
なんでもサークル	運動を日常生活の習慣にすることを目的とし、誰もが気軽に、楽しみながら参加できるサークルを目指している。
ローカルボランティア	北部地域の活性化・地方創生・若者の自己啓発サポートを行う。
第29回名桜大学祭実行委員会	名桜大学祭の理念に基づき第29回名桜大学祭を成功させ、学生として地域、学校、支えてくださっている全ての方々に感謝の気持ちを伝える。名桜大学祭開催のための準備活動及び、次年度引継ぎのための活動を行う。

令和5年度 名桜大学学年暦

令和5年5月現在

前学期	
4月1日(土)	学年及び前学期開始
4月3日(月)	新入学生学力調査
4月3日(月)～4月7日(金)	新入生ガイダンス(国際学部)(人健学部)(助産)
4月4日(火)	入学式
4月4日(火)	大学院オリエンテーション(国際文化研究科(修士課程・博士後期課程))
4月4日(火)	大学院オリエンテーション(看護学研究科(博士前期課程・博士後期課程))
4月5日(水)・4月7日(金)	在来生オリエンテーション(看護)
4月7日(金)	在来生オリエンテーション(学群)
4月7日(金)	在来生オリエンテーション(スポ健)
4月7日(金)	1年次教育(助産学専攻科)
4月8日(土)	1年次教育(健康情報学科)
4月10日(月)	前学期講義開始
4月12日(水)～4月28日(金)	学内合同企業説明会(全学)
4月15日(土)	1年次教育研修(スポ健)(看護)
4月29日(土)	昭和の日
5月3日(水)	憲法記念日
5月4日(木)	みどりの日
5月5日(金)	こどもの日
5月6日(土)	新入生歓迎スポーツ大会
5月8日(月)～9月15日(金)	4年次臨床実習(看護)
5月31日(水)	第1回FD研修会・SD研修会
6月10日(土)	第1回オープンキャンパス
6月17日(土)	ケアリング文化実習軌跡巡り(看護)
6月23日(金)	沖繩慰霊の日
6月30日(金)	助産学専攻科オープンキャンパス
7月3日(月)	博士論文事前審査開始(国際文化研究科(博士後期課程))
7月8日(土)	3年次就職・進路ガイダンス(学群)
7月10日(月)～9月29日(金)	助産学実習Ⅰ・Ⅱ(助産学専攻科)
7月17日(月)	海の日
7月22日(土)	教育懇談会(オンライン)
7月25日(火)	※金曜日の授業
7月31日(月)～8月4日(金)	学期末試験期間
7月31日(月)～8月4日(金)	学期末試験期間
8月7日(月)～9月26日(火)	夏季休業
8月12日(土)	第2回オープンキャンパス
8月28日(月)～9月1日(金)	夏季休暇(教職員)
8月9日(水)	追試験
8月10日(木)	再試験
8月11日(金)	山の日
8月14日(月)～8月25日(金)	病院実務Ⅲ(診療情報管理専攻)
8月18日(金)	大学院国際文化研究科修士論文中間発表会、修士論文研究計画テーマ発表会、8月5日(土)～9月27日(水)以内に実施「現地実習各コース(学群)」海外インターンシップ(学群)
8月22日(火)	大学院看護学研究科(博士後期課程)合同検討会
8月28日(月)～9月8日(金)	基礎看護実習(看護)
8月25日(金)	第2回FD研修会
9月2日(土)	教育懇談会(東京会場)
9月12日(火)	看護学研究科修士論文中間発表会及び後学期オリエンテーション
9月15日(金)	9月卒業式・修了式
9月18日(月)	敬老の日
9月18日(月)～9月22日(金)	3年次臨床実習ガイダンス(看護)
9月23日(土)	秋分の日
9月23日(土)～24日(日)	総合型選抜(国際学部)
9月27日(水)	前学期終了
9月27日(水)	2年次キャリアアップセミナー(学群)
9月28日(木)	後学期講義開始
9月30日(土)～10月1日(日)	総合型選抜(国際学部)予備日

後学期	
9月2日(土)	教育懇談会(東京会場)
9月23日(土)～24日(日)	総合型選抜(国際学部)
9月25日(月)～1月26日(金)	3年次臨床実習(看護)
9月27日(水)	後学期開始・年次別オリエンテーション・防災訓練
9月27日(水)	国際文化研究科(博士後期課程)オリエンテーション(オンライン)
9月27日(水)	3年次キャリアアップセミナー(学群)
9月28日(木)	後学期講義開始
9月29日(金)	助産学専攻科オリエンテーション
9月30日(土)～10月1日(日)	総合型選抜(国際学部)予備日
9月30日(土)～10月1日(日)	総合型選抜(国際学部)予備日
10月9日(月)	スポーツの日※月曜日の講義日
10月7日(土)～8日(日)	総合型選抜(スポーツ健康学科、健康情報学科)
10月7日(土)～8日(日)	総合型選抜追試験日(国際学部)
10月8日(日)	助産学専攻科一般選抜(地域枠)
10月14日(土)～15日(日)	総合型選抜予備日(スポーツ健康学科、健康情報学科)
10月14日(土)	大学院入試試験(10月試験:国際文化研究科(修士課程)、看護学研究科(博士前期課程))
10月15日(日)	大学院入学試験(10月試験:国際文化研究科(博士後期課程)、看護学研究科(博士後期課程))
10月15日(日)	助産学専攻科一般選抜予備日(地域枠)
10月21日(土)～22日(日)	総合型選抜追試験日(スポーツ健康学科、健康情報学科)
10月28日(土)	大学院入試試験追試験日(10月試験:国際文化研究科(修士課程)、看護学研究科(博士前期課程))
10月28日(土)	大学院入試試験予備日(10月試験:国際文化研究科(修士課程)、看護学研究科(博士前期課程))
10月22日(日)	大学院入学試験予備日10月試験:国際文化研究科(博士後期課程)、看護学研究科(博士後期課程)
10月22日(日)	助産学専攻科一般選抜追試験日(地域枠)
10月25日(水)	インターンシップ報告会(スポ健)
11月3日(金)	文化の日※金曜日の講義日
11月4日(土)	2年次キャリアアップセミナー(スポ健)
11月10日(金)	卒業研究発表会(看護)
11月13日(月)～12月22日(金)	助産学Ⅲ・助産管理実習・母子ケアリング実習(助産学専攻科)
11月23日(木)	勤労感謝の日
11月11日(土)・18日(土)	台風等休講による補講日
11月23日(木)～27日(月)	やんばる版プロジェクト健診
11月23日(木)～24日(金)	名桜大学祭準備
11月25日(土)～26日(日)	名桜大学祭
11月25日(土)	教育懇談会(沖繩会場)
11月27日(月)	名桜大学祭の片づけ
11月29日(水)	第3回FD研究会
12月2日(土)～3日(日)	学校推薦型選抜、特別選抜(スポーツ健康学科・看護学科・健康情報学科)編入学試験(スポーツ健康学科・看護学科)
12月9日(土)	助産学専攻科一般選抜(一般枠)
12月9日(土)～10日(日)	学校推薦型選抜(国際学部)
12月16日(土)	特別選抜(国際学部)、編入学試験(国際学群)、学校推薦型選抜、特別選抜追試験日(スポーツ健康学科・看護学科・健康情報学科)編入学試験追試日(スポーツ健康学科・看護学科)12月23日(土)学校推薦型選抜、特別選抜追試験日(国際学部)編入学試験追試日(国際学群)、助産学専攻科一般選抜追試日(一般枠)
12月21日(木)	創立記念日※土曜日の授業
12月26日(火)	※金曜日の授業日
12月27日(水)～1月8日(月)	冬季休業
1月9日(火)	後学期講義再開
1月8日(月)	成人の日
1月12日(金)	2年次対象英語能力試験
1月12日(金)	大学入学共通テスト会場設営(休講)
1月13日(土)～1月14日(日)	大学入学共通テスト
1月20日(土)	卒業研究発表会(国際文化学系・経営情報学系)
1月20日(土)	国際文化研究科(博士後期課程)博士論文審査
1月27日(土)	卒業研究発表会(観光産業学系)
1月27日(土)	卒業研究発表会(スポーツ健康学科)
1月27日(土)	国際文化研究科(博士後期課程)最終試験
1月30日(火)～2月5日(月)	学期末試験期間
1月30日(火)～2月5日(月)	学期末試験期間
2月3日(土)	大学院入学試験(2月試験:国際文化研究科(博士後期課程))(2月試験:看護学研究科(博士前期課程))
2月4日(日)	大学院入学試験(2月試験:国際文化研究科(修士課程))(2月試験:看護学研究科(博士後期課程))
2月5日(月)	後学期講義終了
2月6日(火)～3月31日(日)	春季休業
2月13日(火)～2月22日(木)	「グローバルナーシングⅡ」海外研修
2月7日(水)	追試験
2月8日(木)	再試験
2月9日(金)	看護学研究科修士論文最終発表会
2月11日(日)	建国記念の日
2月12日(月)	振替休日
2月13日(火)	大学院看護学研究科(博士後期課程)合同検討会(第1回中間発表会)
2月17日(土)	国際文化研究科(博士後期課程)中間発表
2月16日(金)	大学院国際文化研究科修士論文発表会・修士論文概要発表会・研究生研究成果報告発表会
2月27日(土)	中間発表会(国際文化研究科(博士課程))
2月23日(金)	天皇誕生日
2月22日(木)	修了研究発表会(助産学専攻科)
2月25日(日)	一般選抜前期日程(国際学部、人間健康学部)
3月4日(月)	3年次キャリアアップセミナー(看護学科)
3月5日(火)	学内病院合同説明会(看護学科、診療情報管理専攻)
3月12日(火)	一般選抜・後期日程(国際学部、人間健康学部)
3月13日(水)	～3月29日(金)学内合同企業説明会(全学)
3月20日(水)	卒業式・修了式
3月31日(日)	学年終了及び後学期終了

【注】 期末試験期間について

前学期：7/31(月)～8/4(金)までの5日間を設定しています。また、台風等で休講があった場合の運用方法は下記のとおりとなります。

- 前学期講義期間で台風等での休講があった場合は、次のとおり土曜日に一斉補講を予定しています。
- ・休講が1日あった場合⇒【補講日】7/15(土)1回予定【期末試験期間】7/31(月)～8/4(金)
- ・休講が2日あった場合⇒【補講日】7/29(土)2回予定【期末試験期間】7/31(月)～8/4(金)

後学期：1/30(火)～2/5(月)までの5日間を設定しています。また、台風等で休講があった場合の運用方法は下記のとおりとなります。

- 前学期講義期間で台風等での休講があった場合は、次のとおり一斉補講を予定しています。
- 【補講日】11/11(土) ※11/18(土) 【期末試験期間】1/30(火)～2/5(火)

1. FD(ファカルティ・ディベロップメント)の概要

本学では、教育水準の向上や授業の内容及び方法の改善を図るための全学的なFD(ファカルティ・ディベロップメント)委員会を設置し、学生による授業評価に加え、教員の資質・教育指導能力のレベルアップへ向けて取り組んでいる。

2. 実施方法

(1) 授業評価

授業の内容及び方法の改善を目指して、学生に対し授業に関するアンケートを実施し、その評価結果を委員会及び事務局で集計する。評価結果は教員へフィードバックし、学生にとってより魅力のある授業の実施や研究指導内容等の充実など、教員のティーチングスキル向上を目指す。

(2) 講習会・研究会

教育研究上の目的に応じ、外部より講師を招聘して講習会・研究会を開催することとする。また、教員を他

大学や学外団体等が主催する各種講演会へ講師として派遣することも予定している。積極的に他大学や学外団体と交流し、意見や情報の交換を行うことによる相互啓発が、教育者としての意識を喚起する効果を期待している。

(3) 研修会

教育の質向上等に関連したテーマを設定し、教員が話題を提供するFD研修会、外部講師を招聘した研修会、ワークショップやグループディスカッション形式を取り入れた研修会を実施している。

令和4年度 FD活動実績 FD研修会

回数	日時・場所	「テーマ」・講師
1	令和4(2022)年8月25日(木) 学生会館SAKURAUM 6階スカイホール及びオンライン	「高大接続」 講義形式 ・『学習する組織』による「主体的・対話的・協働的な大学・教室」のつくりかた 講師：森 弘達 先生 (大妻中学高等学校進路指導部長・探究科主任) 講師補助：中村 智治 氏 (株式会社バースデイ 代表取締役社長)
2	令和4年10月28日(金) オンライン	「ハラスメントについて」 講義・実践会形式 ・改正労働施策総合推進法(通称：パワハラ防止法)の解説 ・ハラスメント事例紹介 講師：矢野 恵美 氏 (琉球大学ハラスメント相談支援センター長/法務研究科 教授)
3	令和4年11月30日(水) オンライン	「大学における国際化ー意義と方法論について」 講義形式 ・本学における「大学の国際化」の取り組みと今後の課題について 国際交流センター長 大谷健太郎 教授 ・学内の国際化の実績と課題を把握するため、授業の取り組みについて共有することを目的に下記について紹介(・科目設置の経緯・授業の紹介・現状と課題・今後の展望など) 国際学群国際文化教育研究学系長 屋良健一郎 上級准教授 「現地実習」 国際学群観光産業教育研究学系長 新垣裕治 教授 「海外インターンシップ」 人間健康学部看護学科 横川裕美子 教授 「国際看護学Ⅱ」 リベラルアーツ機構 山城智史 上級准教授 「海外スタディツアー」

※FD (Faculty Development): 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称

自己点検・評価、認証評価の取組み

自己点検・評価

名桜大学は、教育研究の水準の向上に努め、教育研究活動の活性化と社会的責務を果たすため教育研究活動及び大学運営等について自己点検・評価を実施しています。

主な取組みは、自己点検・評価活動を通して

- ・学部組織及び全学的委員会の年次報告書の作成
- ・自己点検・評価報告書の作成
- ・改善・向上(将来計画)の達成状況の確認
- ・認証評価の受審
- ・自己評価等の結果の公表

を行い、自己改革、改善との連動・連携を重視し、大学の自主的な質保証機能を高めるために実施することです。

認証評価

平成16年4月から、学校教育法第109条により、全ての大学は教育・研究等の状況について7年毎に文部科学大臣が認証する評価機関の評価を受けることが義務付けられました。

認証評価は、大学の自己点検評価書に基づいて実施されます。



名桜大学は、令和2(2020)年度に一般社団法人大学教育質保証・評価センターによる大学機関別認証評価を受審し、「貴大学は一般財団法人大学教育質保証・評価センターが実施した大学機関別認証評価において大学評価基準を満たしていることを証する」との通知を受けました。

交通アクセス ACCESS

高速バス【那覇空港→名護市バスターミナルまで】

那覇空港到着ロビーを出て、バス乗り場から高速バスに乗車します。

【名護バスターミナルまで】

所要時間：約 1 時間 45 分、バス乗車料金：2,230 円

タクシー【那覇空港→名桜大学まで】

那覇空港到着ロビーを出て、遠距離タクシー乗り場から乗車します。

【名桜大学まで】

所要時間：約 1 時間 30 分～ 2 時間

料金：約 15,000 円

※上記の金額は沖縄自動車道の料金を除く

※初乗り 560 円 (1.75km まで) 以降 365m ごとに 70 円プラス

レンタカーなどお車での移動【那覇空港→名桜大学まで】

那覇空港近隣のレンタカー各社からは、西海岸を延びる国道 58 号を北上するコースと沖縄自動車道を利用する方法があります。

【一般道路 (58 号北上) の場合】

所要時間：約 1 時間 30 分～ 2 時間

【沖縄自動車道の場合】

所要時間：約 1 時間 30 分 (那覇 IC～許田 IC まで 1,040 円)



送迎バス (無料) 【名護市内】

名桜大学では、送迎バス (無料) を運行しています。時刻表は本学ホームページの名桜大学送迎バス運行時刻表をご確認ください。(ただし、祝日・夏季・冬季・春季休業中等は運休します。)

名桜大学アクセスマップ (名護市内)



※ 1～14 は名桜大学送迎バス (無料) の各停留所となりますので、詳しくは本学ホームページをご覧ください。



全国で最も開花の早い桜の名所沖縄県名護市にある名桜大学のシンボルマークは、四角の中に桜の花びらが描かれています。桜の五枚の花びらは、真・善・美・聖・健の人類普遍の価値を象徴し、途切れのない四辺は、四海同胞を意味しており、平和・自由・進歩の建学の精神を、沖縄県北部やんばるから世界に発信する核となろうとする象徴です。

〒905-8585 沖縄県名護市字為又1220-1 TEL.0980-51-1100 FAX.0980-52-4640
E-mail:info@meio-u.ac.jp <https://www.meio-u.ac.jp/>



公式HP



@meio_u



公式Facebook